



Readiris™ 17



No retyping. No paper.
Just smart documents.

for Windows®

#1 Conversion Software

目次

Readiris 17	1
Readiris について	1
Readiris 17 の新機能	2
法律上の通知	3
セクション 1: インストールとアクティベーション	5
システム要件	5
Readiris のインストール	6
Readiris のアクティベーション	7
ソフトウェアの登録	8
アップグレードの検索	9
Readiris のアンインストール	10
テクニカルサポート	11
セクション 2: はじめに	12
Readiris を初めて使う	12
インターフェースの理解	13
インターフェースのカスタマイズ	16
ユーザーインターフェース言語の変更	18
スキャナの設定	19
セクション 3: 基本的な文書処理	22
基本的な文書処理	22
処理設定の保存	24
設定の読み込み	25
出荷時の設定に戻す	25
ウィザードを使用	26
セクション 4: 認識オプションの選択	28
認識オプション	28
文書の言語	28
その他の認識オプション (Readiris Pro と Corporate)	29
その他の認識オプション (Readiris Corporate のみ)	31
詳細認識オプション	33
取得オプション	33
フォントの種類と文字ピッチ	34

バーコード	35
文書処理	35
ティーチングオプション	35
言語オプション	35
セクション 5: 文書のスキャンと開く	36
ドキュメントをスキャンする	36
スキャナ設定の選択	37
文書のバッチのスキャン	41
画像ファイルを開く	45
画像ファイルを開く際のオプション	46
画像ファイルを開くための別の方法	46
画像ファイルのバッチを処理する	47
ティーチングモード	49
セクション 6: 画質を調整する	53
セクション 7: 認識した文書の編集	57
ページオプションの変更	58
認識ゾーンの編集	60
ゾーニングテンプレートを使用	67
テキストコレクターを使用する	68
セクション 8: PDF エクスポートの注釈の追加	70
注釈の使用	70
注釈タイプ	74
テキスト読み上げ	74
透かし	76
付箋	78
自由テキスト	79
Web リンク	81
音声の録音	82
ファイルの添付	84
テキストの強調表示、下線、または取り消し線	85
セクション 9: 文書の保存	86
利用できる出力フォーマット	89
文書にプロパティを追加する	93

スキャンされた文書を画像ファイルとして保存.....	94
フォーマットオプションの選択	95
レイアウトオプション	97
一般オプション	100
SpreadsheetML オプション	101
用紙サイズ	102
写真.....	103
PDF オプションの選択.....	105
PDF 文書の圧縮	107
PDF 文書をパスワードで保護する	109
電子署名 PDF 文書.....	110
XPS オプションの選択	111
XPS オプションの選択.....	111
XPS 文書の圧縮	113
セクション 10 : 文書をクラウドに送信する	114
コネクターの構成	114
文書の送信	116
インデックス付き文書をクラウドに送信する.....	117
操作手順.....	119
Readiris でスキャナを構成する方法.....	119
良好な認識結果の取得方法.....	123
複数の文書をスキャンする方法	124
デジタルカメラの画像の処理方法	125
デジタルカメラで写真を撮る際のヒント	125
バーコードを認識する方法.....	127
文書のバッチを分割する方法.....	129
大量の画像ファイルを選別する方法	131
低解像度画像の処理の仕方.....	133
右クリックの変換方法	134

Readiris 17

Readiris ドキュメンテーションへようこそ。本書の目的は、Readiris を簡単に使用できるようになっていただくことになります。ここでは、Readiris のインストールと設定、基本的な処理手順、アプリケーションのコマンド、作業エリアについて説明しています。本書の最後には、具体的な疑問を解決する「操作手順」セクションがあります。

本書は、**Windows 7** および **Windows 10** オペレーティング システムに基づいて説明されています。

本書は、ユーザーが Microsoft Windows 環境での作業方法を理解していることを前提に説明されています。メニュー命令、ダイアログボックス、ドロップダウンリスト、ドッキングウィンドウなどに不慣れな方は、必要に応じて Windows ドキュメンテーションをお読みください

本書の情報は、予告なく変更される場合があります。

Readiris に関するその他の情報は、[ヘルプ] メニューを開いて参照してください。そこから、「はじめに」関連動画、ナレッジベース、I.R.I.S. サポートなどにアクセスできます。

Readiris について

Readiris は、I.R.I.S. の代表的な文書認識ソフトウェアです。Readiris でスキャンされた紙文書や、Microsoft Office 文書、画像ファイル、デジタルカメラの画像などを、保存、共有、およびオンラインストレージシステムに送信できる、編集可能なテキスト文書やテキスト検索可能な PDF 文書に変換することができます。Readiris は様々な出力フォーマットに幅広く対応しており、特に重要な出力フォーマットとして、Microsoft Word、Microsoft Excel、PDF が挙げられます。

Readiris が生成する文書は、コンピュータに保存したり、電子メールで直接送信したり、Evernote、Dropbox、Google Drive、Box、OneDrive などのクラウドアプリケーションにエクスポートすることができます。Readiris Corporate では、文書を Microsoft SharePoint、Therefore、IRISNext、FTP に送信することもできます。

Readiris は 137 か国語の文書を認識します。中欧、バルト海諸国、キリル文字の言語、およびギリシャ語やトルコ語を含むアメリカとヨーロッパの言語すべてに対応しています。Readiris はアラビア語やペルシア語（ファルシ）、ヘブライ語のほか、アジア 4 カ国の言語（日本語、簡体字中国語、繁体字中国語、および韓国語）も読み込むことができます。

Readiris には、テキスト認識機能だけでなく、I.R.I.S. 圧縮テクノロジーである iHQC を利用した、PDF および XPS ファイルの強力な圧縮機能も搭載されています。

Readiris 17 の新機能

PDF 出力フォーマットにエクスポート可能な注釈の追加

注釈は、メモ、サウンド、またはテキストなどのオブジェクトと文書のページ上の場所を関連付けます。

Readiris には、PDF フォーマットにエクスポートする前に、文書に注釈を追加できる **【PDF の注釈】タブ** があります。この機能は、レビュープロセスで役立ちます。

サポートされている注釈タイプに、[文書の読み上げ \(TTS\)](#) 注釈が追加されました。

PDF 以外の出力フォーマットは注釈をサポートしません。これらの注釈は、Adobe Reader との完全な互換性がありますが、ほかの PDF ビューアを使用した場合、最良の結果を得られるとは限りません。

MP3 出力フォーマット

新しい MP3 出力フォーマット (圧縮オーディオフォーマット) を利用できるようになりました。

JPEG 出力フォーマット

JPEG 出力フォーマットでは、1 つのファイル当たり 1 つのページ/画像のみが保存されます。

パフォーマンスの改善

新しい OCR エンジンでは、文字認識の品質と速度が高くなりました。

法律上の通知

RI_17_sjo_20180205_06

著作権

© 1987-2018 I.R.I.S. All Rights Reserved.

I.R.I.S. は、Readiris ソフトウェア、オンライン ヘルプ システムおよび本出版物の著作権を有します。

本資料に記載されている情報は、I.R.I.S. の所有物です。コンテンツは、予告なく変更されることがあり、I.R.I.S. はコンテンツについて公約を表明しません。本資料で説明されているソフトウェアは、本製品のご利用条件が記載されているライセンス契約に基づいて提供されます。本ソフトウェアは、契約条件に従ってのみ使用またはコピーを行うことができます。本出版物のいかなる部分も、I.R.I.S. の書面による事前の許可を得ずに検索システムに複製、転送、保管したり、別の言語に翻訳したりすることはできません。

本書では、例として架空の名前が使用されています。実在の人物、会社、または組織の言及は全くの偶然です。

商標

Readiris ロゴおよび Readiris は、Image Recognition Integrated Systems S.A. の商標です。

I.R.I.S. による OCR とバーコード技術

I.R.I.S. による自動フォーマットと言語技術

I.R.I.S. による BCR およびフィールド解析技術

I.R.I.S. による iHQC 圧縮技術

Windows は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の登録商標です。

本書で言及しているその他の製品は、すべて各所有者の商標または登録商標です。

特許に関する記述

Readiris は、次の取得済み特許により保護されています。US8068684、EP2143039、JP5501958B2、US8331706、US8666185、US8995780、BE1022635、US8913836、BE1021013、US9058517、US9311558、BE1022630、US8897600、US9183636、BE1022636、US8811751、BE1022166、BE1022562、US9798943、BE1024194、US9836646。I.R.I.S. SA. により出願済み。

第三者ソフトウェアの承諾

Windows®版 Readiris では、以下に記されるライセンスに基づき、第三者ソフトウェアを使用しています。

OSS		
説明	バージョン	ライセンス
Podofo*	0.9.5.0	LGPL, version 2
FreeImage	3.17	FIPL
Lame*(www.mp3dev.org)	3.1	LGPL, version 2
Boost		Boost Software License
Zlib		Zlib License
Minizip		Custom
Pugxml		MIT
Freetype		Freetype License

商用ソフトウェア製品またはコンポーネント
説明
Aspose PDF for .Net
Aspose Words for .Net
BCGControlBar

*フリーライブライブラリは LGPL が公開しているものであるため、ユーザーはフリーLGPL ライブライブラリ (podofo.dll および libmp3lame.dll) を変更、リコンパイル、または置き換えて、改変バージョンを Readiris で使用することができます。

免責事項

本書の内容は、細心の注意を払って制作および編成されています。

I.R.I.S.SA は、提供する内容の正確性、完全性、および適時性について一切の責任を負いません。

セクション 1: インストールとアクティベーション

システム要件

Readiris をインストールして実行する際の最低システム要件は以下の通りです。

コンポーネント	要件
コンピュータとプロセッサ	1GHz 以上のプロセッサ。マルチコアプロセッサ推奨。 注意: マルチコアプロセッサが搭載されているコンピュータでは、複数のコアを使用することで、Readiris の処理速度が速くなります。
メモリ	最低 1 GB の RAM。2 GB の RAM 推奨。
ハードディスク	最低 400 MB のハードディスク空き容量。 1 GB のハードディスク空き容量推奨。
オペレーティングシステム	Windows 10、Windows 8.1、Windows 8、Windows 7、Windows Vista、Windows XP (サービスパック 3)。すべて 32 または 64 ビット。 Windows 7 以降推奨。
その他	ダウンロードバージョンとソフトウェアのアクティベーションにはインターネット接続が必要です。 注意: スキャナドライブの一部は、Windows 最新バージョンで稼動しない場合があります。サポートされているプラットフォームについては、スキャナに同梱されているドキュメンテーションを参照してください。

*インストール中は一時ファイルを保存する必要があるため、必要なディスク容量が倍になります。

Readiris のインストール

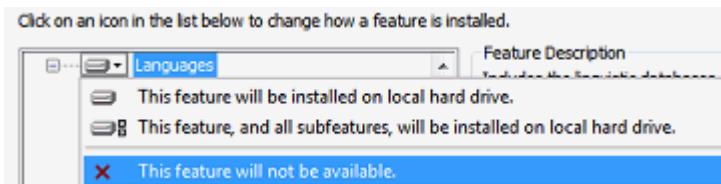
Readiris をインストールする前に、お使いのコンピュータにアプリケーションをインストールするために必要な**管理者権限**があることを確認してください。

Readiris をインストールするには、次の操作を行います。

- <http://www.irislink.com/softwaredownload> でソフトウェアパッケージをダウンロードします。. *Readiris* が *IRIScan* スキャナとバンドルされている場合は、必ずスキャナのソフトウェアパッケージをダウンロードしてください。それに *Readiris* が含まれています。
- インストールファイルをダブルクリックし、インストールウィザードを起動します。
- インストール言語を選択して [OK] をクリックします。
- ライセンス契約の規約に同意します。
- デフォルトでは、**すべて**をインストールするオプションが選択されています。

特定の認識言語のみをインストールするには、次の操作を行います。

- [カスタム] を選択して [次へ] をクリックします。
- 言語の前にある下向き矢印をクリックし、[インストールしない] を選択します。
すべての言語が選択解除されました。



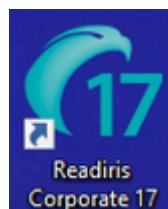
- 次に、インストールする言語の前にある下向き矢印をクリックし、[ローカル ハード ドライブにインストール] を選択します。

- [次へ] をクリックし、画面上の指示に従います。

- [完了] をクリックしてインストールを完了します。

インストールプログラムにより、Windows の [プログラム] メニューに「**IRIS**」>「**Readiris**」サブメニューが自動的に作成されます。

また、Windows デスクトップにも Readiris アプリケーションのショートカットが作成されます。



Readiris のアクティベーション

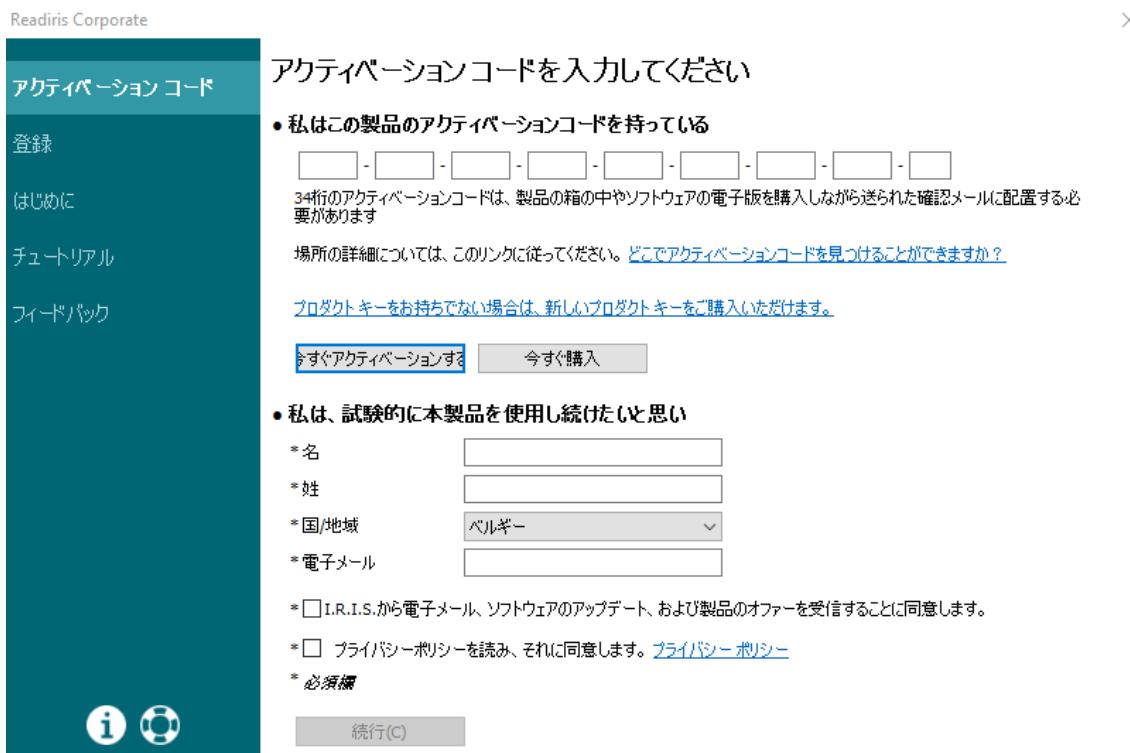
Readiris をインストールしたら、アクティベーションする必要があります。

注意: アクティベーションされていない Readiris で変換できるのは、10 日間で 150 ページ、1 回当たり最大 10 ページの文書です (試用モード)。

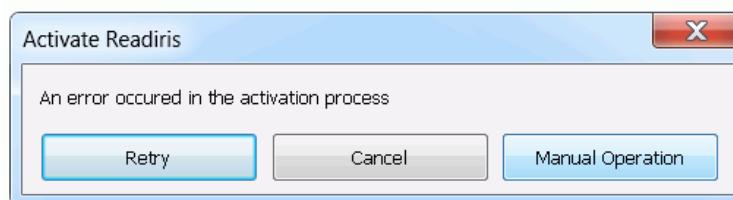
Readiris をアクティベーションするには、次の操作を行います。

- デスクトップの Readiris ショートカットをダブルクリックして起動します。
 - Readiris をアクティベーションするよう指示されます。[はい] をクリックします。Readiris のアクティベーションにはインターネットへの接続が必要です。
 - 製品ボックスの内側のラベルに記載されたアクティベーションコードを入力します。
- 注意:** 電子バージョンをダウンロードした場合、アクティベーションコードは電子メールで送信されています。
- [今すぐアクティベーションする] をクリックして、アクティベーションを終了します。

Readiris をアクティベーションしない場合は、試用を開始することもできます。フォームに入力し、[続行] をクリックします。次回 Readiris を起動したときに、このソフトウェアをアクティベーションするようにもう一度求められます。



ヒント: アクティベーション プロセスでエラーが発生した場合、手動でアクティベーションすることもできます。



それでもエラーが発生する場合、ファイアウォールを解除して再試行してください。必要に応じて Windows ヘルプをご覧ください。デスクトップが表示されているときに、キーボードの **F1** キーを押すと、ヘルプが表示されます。

ソフトウェアの登録

ソフトウェアを起動したら、登録することができます。

技術サポートを受けるには登録が必要です。それ以外にも、無料アップデート、無料試用ダウンロード、ビデオチュートリアル、新製品の割引などの特典を受けることができます。

Readiris の登録の仕方:

- [ヘルプ] タブをクリックします。
- [Readiris の登録] をクリックします。



- 登録フォームを記入し、[今すぐ登録する] をクリックしてください。
登録にはインターネットへの接続を必要とします。

Readirisソフトウェアの登録

オンライン登録フォーム	ソフトウェアを登録すべき理由	
国/地域 *	<input type="text" value="ベルギー"/>	✓ 無償のソフトウェアアップデート (ご利用のバージョンを最新の状態に維持)
名 *	<input type="text"/>	✓ メンバー向けの特別オファーと割引
姓 *	<input type="text"/>	✓ 無償の技術サポート
会社名	<input type="text"/>	✓ ヒントや製品チュートリアルへのアクセス
電子メール *	<input type="text"/>	✓
デバイスマodel	<input type="text" value="HP Webcam"/>	
<p><input type="checkbox"/> I.R.I.S.から電子メール、ソフトウェアのアップデート、および製品のオファーを受信することに同意します。</p> <p>* <input type="checkbox"/> プライバシーポリシーを読み、それに同意します。 プライバシーポリシー</p> <p>* 必須欄</p>		
<input type="button" value="今すぐ登録(N)"/>		

アップグレードの検索

お使いの Readiris を登録すると、無料でソフトウェアをアップデートすることができます。

アップデートの有無を確認するには、次の操作を行います。

- [ヘルプ] タブをクリックします。
- 次に [アップグレードの検索] をクリックします。

注意: Readiris は、20 日ごとに、自動的にアップデートの有無を確認します。

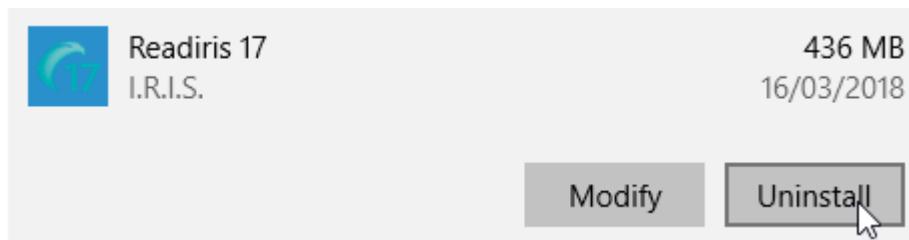


Readiris のアンインストール

コンピュータから Readiris を削除するには、次の手順に従います。

アプリケーションをアンインストールするには、次の操作を行います。

- Readiris を閉じます。
- Windows の [スタート] メニューから [コントロールパネル] を開きます。
- [プログラムおよび機能] をクリックします。
- リストから「**Readiris**」を選択し、[アンインストール]をクリックします。



注意: Windows 10 では、[設定] > [システム] > [アプリと機能] に移動します。 「**Readiris**」を選択し、[アンインストール] をクリックします。

テクニカルサポート

お使いの Readiris を登録すると、無料で技術サポートを受けることができます。

技術サポートにアクセスするには：

- [ヘルプ] タブをクリックします。
- [製品サポート] をクリックします。



[ヘルプ] メニューから、「はじめに」のビデオやナレッジベースにアクセスしたり、弊社に質問をすることができます。

セクション 2: はじめに

Readiris を初めて使う

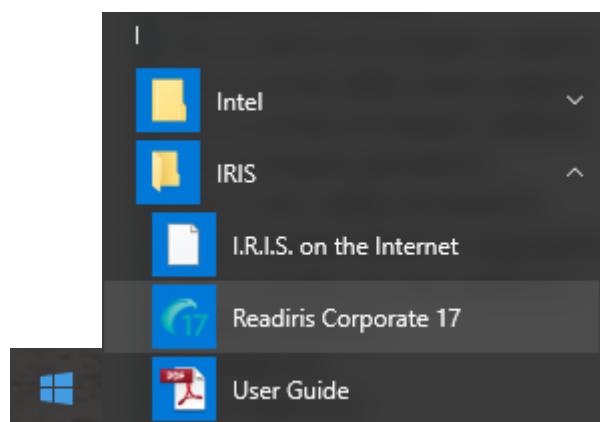
Readiris を実行する仕方:

- デスクトップの Readiris アイコンをダブルクリックします。



もしくは、次のように、Windows の [プログラム] リストから Readiris を起動します。

- [スタート] > [すべてのプログラム] > [IRIS] > [Readiris] をクリックします。



インターフェースの理解

Readiris のインターフェースは次のように構成されています。



インターフェースは次のコンポーネントとパネルで構成されています。

1. リボン

リボンは、Readiris で最も重要なツールです。これには、文書の処理に必要なコマンドがすべて含まれています。コマンドはグループごとに分類されています。グループはタブの中に集められています。

ヒント: 文書をスキャンしたり開いたりする前に、**言語設定**を実行するようお勧めします。

ヒント: 各コマンドにカーソルをポイントすると、ツールヒントが表示されます。ツールヒントには、各コマンドの実行内容が説明されています。



注意: リボンを自動非表示にするには、[表示] メニューで対応するオプションを選択します。

2. [ページ] パネル

Readiris でスキャンまたは開かれるページのサムネイルは、[ページ] パネルに表示されます。

ページの順番を変更するには、1 つの場所から別の場所にページをドラッグします。ページを右クリックして対応するアクションを選択すると、ページを上下に移動させたり、削除することができます。

サムネイルのサイズは、スライダーを使って拡大縮小できます。これを使用すると、サムネイルを、さらに多くの列にわたって表示することができます。

削除するには、次の操作を行います。

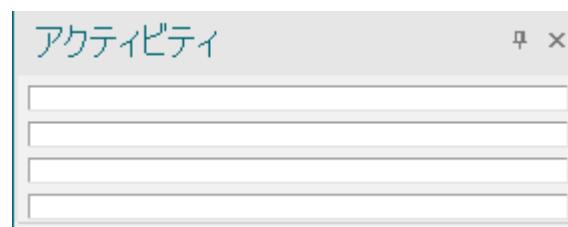
- すべてのページを削除するには、[すべて削除] をクリックします。
- 選択したページを削除するには、[削除] をクリックします。



3. [アクティビティ] パネル

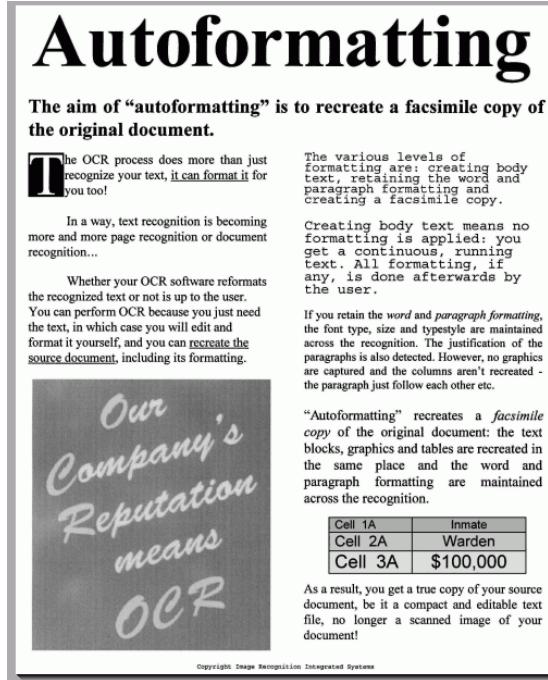
[アクティビティ] パネルには、Readiris が現在実行しているタスクが表示されます。各フィールドには、タスクの説明のほか、どのページでアクティビティが実行されているかが表示されます。

注意: コンピュータのコア数が多いほど、処理速度が速くなります。ただし、Readiris で実行できるスレッドの数は 4 つに制限されているので、コア数を 5 以上に増やすメリットはありません。

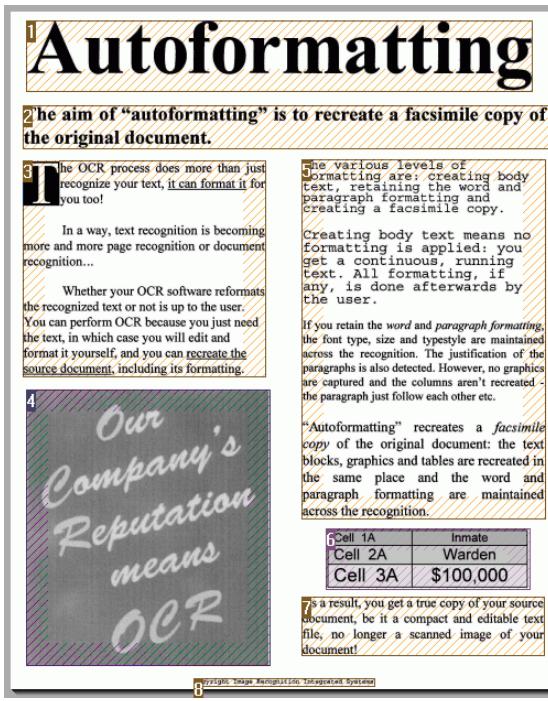


4.スキャンされた画像

文書が Readiris でスキャンされたり、開かれると、その画像が表示されます。



画像の認識ゾーンへの分析を表示するには、[ゾーン] タブをクリックします。



上で説明したコンポーネントやパネルの外観は、ユーザーの好みに応じてカスタマイズできます。

インターフェースのカスタマイズ

インターフェースは、次のようなさまざまな方法でカスタマイズできます。

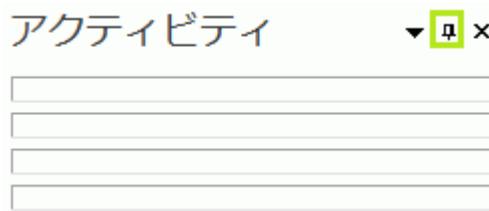
リボンの自動非表示

リボンを非表示にするには、[表示] メニューで対応するオプションを選択します。

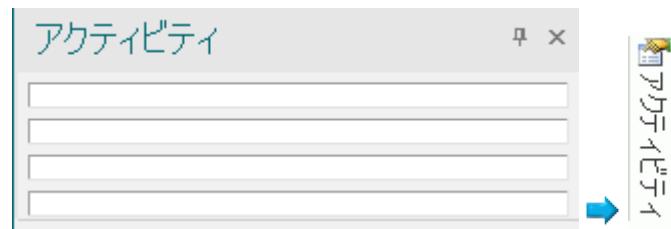
パネルの自動非表示

Readiris インターフェースのスペースを節約するために、パネルを自動的に非表示にすることができます。

- パネルの **【自動的に隠す】** アイコンをクリックすると、非表示になります。



- パネルが非表示になると、その名前が、左または右のサイドバーに縦に表示されます。

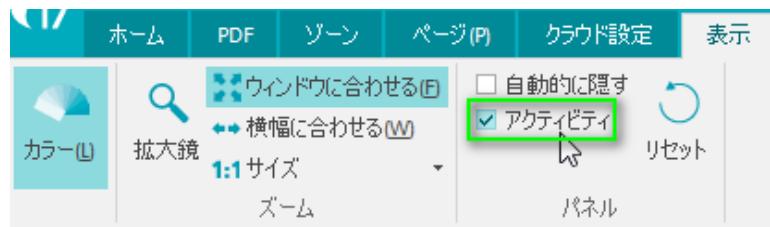


- 名前にカーソルを合わせると、パネルが表示されます。
- 自動非表示機能を無効にするには、[自動非表示] アイコンをもう一度クリックします。

パネルの非表示

パネルを完全に非表示にするには、次の操作を行います。

- [表示] メニューをクリックします。
- [アクティビティ] パネルを非表示にするには、[アクティビティ] ボックスを消去します。



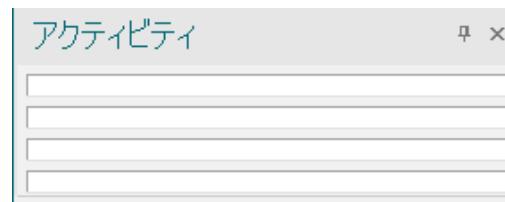
- または、パネルの「X」をクリックして閉じます。

パネルの移動

パネルには定位置というものはありません。Readiris インターフェース内であれば、どこにでも配置できます。

パネルを移動するには、次の操作を行います。

- タイトルバーをダブルクリックします。



- インターフェースの中央にパネルが縮小表示されます。
- 希望の位置にドラッグしたり、拡張することができます。



- パネルを元の位置に戻す場合は、タイトルバーをもう一度ダブルクリックします。

注意: [表示] タブへの変更を元に戻すには、

- [リセット] ボタンをクリックします。
- ほかのすべての設定については、出荷時の設定に戻すことができます。これを実行するには、左上の Readiris ボタンをクリックしてから、[出荷時の設定に戻す] をクリックします。

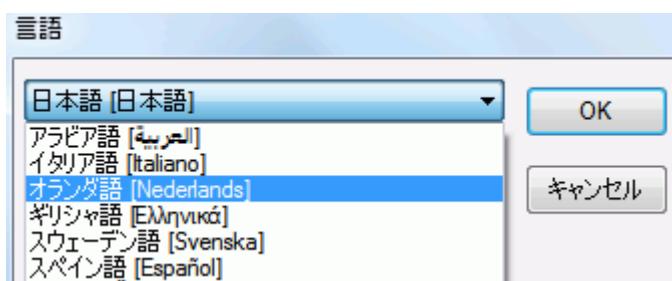
ユーザーインターフェース言語の変更

Readiris は、デフォルトでインストール時の言語で起動します。インターフェース言語を変更するには、次の操作を行います。

- 左上の [Readiris] ボタンまたは [設定] タブをクリックし、[ユーザーインターフェース言語] をクリックします。



- [言語] ウィンドウが開いたら、希望の言語を選択し、[OK] をクリックします。



注意: 誤った言語を選択した場合は、Readiris 内で **Ctrl キー + U** をクリックします。[言語] ダイアログボックスが開くと、リストから別の言語を選択できます。

スキャナの設定

Readiris で文書をスキャンするにはスキャナを正しく設定する必要があります。

1. PC にスキャナが接続され、電源が入っていることを確認してください。

注意：USB ケーブルでスキャナがコンピュータに物理的に接続されていることを確認します。メーカーから提供された Twain ドライバがイーサネットやワイヤレス接続に対して設定されている場合、それらを使用することもできます。

2. スキャナに、最新 Twain ドライバがインストールされていることを確認します。

通常、ドライバは、スキャナメーカーの Web サイトにあります。I.R.I.S. ではドライバを提供しません。スキャナドライバの一部は、Windows 最新バージョンで稼動しない場合がありますのでご留意ください。サポートされているプラットフォームに関しては、スキャナに同梱されていた文書をご参照ください。必要に応じて、スキャナのメーカーにお問合せください。

Readiris でのスキャナ設定

Readiris 16 はインストールされているスキャナ、ドライバを自動的に検知し、その他に設定が必要な解像度、用紙フォーマットなどの自動設定を行います。

自動スキャナ検知は、現在、インストールされている I.R.I.S.、Canon、および HP デバイスで利用できます。

その他のデバイスについては、手動で設定する必要があります。

自動スキャナ検知

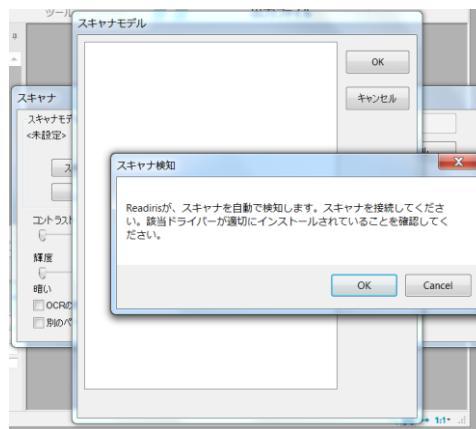
- [スキャン] ボタンをクリックすると、この機能が起動します。



- 初めてインストールされているスキャナを使用する際
- または、
- [出荷時の設定に戻す] の操作後

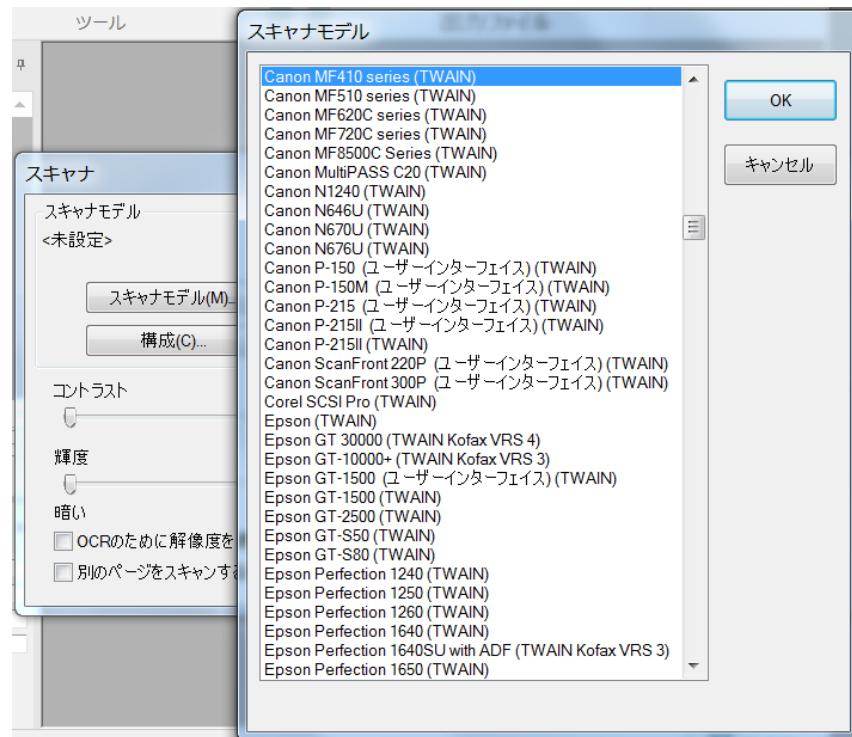
- スキャナ検知 メッセージが表示されます。

- 自動検知の操作を確定するには、[OK] をクリックします。



- [OK] をクリックすると、Readiris はマッチング処理を開始します。インストールされているスキャナをスキャナモデルまたは、Readiris で確認済みのスキャナ一覧プロファイルと一致させようとします。
当面の間、この一覧は主に Canon、HP、IRIS のデバイスで構成されます。
- Readiris が一致を検知すると、対応するスキャナプロファイルを、[スキャナモデル] ウィンドウに提案します。

この例では、*Canon MF416dw MFP* デバイスが設定されており、Readiris は **Canon MF410 シリーズ**を提案しています。



- 提案されているデバイスを Readiris で使用する現在のモデルとして確定するには、[OK] をクリックします。
Readiris が使用しているスキャナモデルを検知しない場合、**手動スキャナ検知** セクションをご覧ください。
- Readiris は続いて、システムにインストールされている対応する TWAIN ドライバを読み込み、解像度、用紙フォーマットなどが、予め入力されている [スキャナ] 設定ウィンドウが表示されます。



- スキャンを開始するには、[OK] をクリックします。

別のスキャナ設定の詳細については、「[スキャナ設定の選択](#)」の項を参照してください。

手動スキャナ検知

- Readiris が使用しているスキャナモデルを自動的に検知しない場合、[スキャナモデル] リストから、お使いのスキャナを手動で選択します。

このリストでお使いのスキャナプロファイルを選択します。スキャナプロファイルを使用すると、お使いのスキャナ専用の機能にアクセスできます。例：両面スキャンなど。

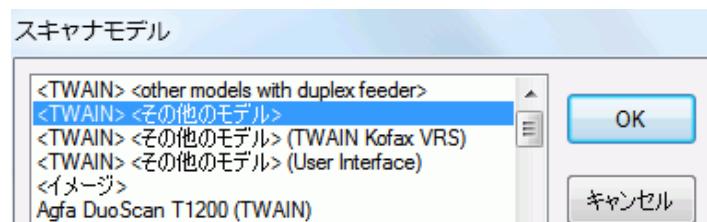
リスト中にお使いのスキャナが見つからない場合でも心配はいりません。スキャナの中には、専用のスキャナプロファイルを持たないものもあります。

重要：正確なプロファイルが見つからない場合でも、似たようなプロファイルは選択しないでください。代わりに汎用 Twain プロファイルを選択してください。別の Twain プロファイルが利用できます。

通常のフラットベッドスキャナを使用している場合、<Twain><OTHER MODELS> を選択します。

Readiris ではなく、スキャナのユーザー インターフェースを使用して文書をスキャンしたい場合、<Twain><OTHER MODELS>(ユーザー インターフェース)を選択します。

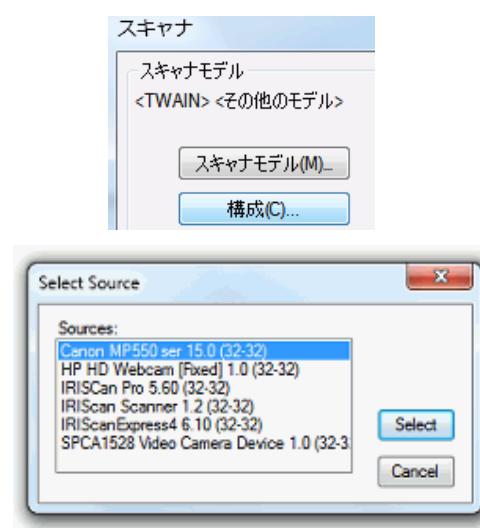
ページの表裏をスキャンする両面スキャナを使用したい場合、<Twain><OTHER MODELS with duplex feeder>を選択します。



- スキャナモデルを選択したら、スキャナドライバを設定する必要があります。

- [設定] をクリックし、スキャナドライバを選択します。

[ソースの選択] ウィンドウにお使いのスキャナが見つからない場合、スキャナドライバは正しくインストールされていません。スキャナドライバをもう一度インストールしてから、Readiris を設定しなおしてください。通常、スキャナドライバは、スキャナメーカーの Web サイトにあります。



注意：メインツールバーで直接スキャナドライバーを設定することもできます。[スキャン] ボタンの下にある下向き矢印をクリックし、[ソースの選択] をクリックします。

- スキャナの設定が終わったら、出荷時のスキャナ設定を使って、スキャンを開始することができます。各スキャナの設定方法やその変更方法については、[スキャナ設定の選択](#)をご覧ください。

セクション 3: 基本的な文書処理

基本的な文書処理

Readiris での文書処理は、基本設定を使用するときわめて簡単に行えます。このトピックでは、基本設定を実行する際の手順について説明します。設定手順に関する詳細は、セクション 4~9 を参照してください。

始める前に、次の操作を行います。

[取得] グループのドロップダウンメニューから [文書の言語] を選択します。

Readiris で良好な認識結果を得るには、文書の言語を正しく選択することが非常に重要です。デフォルトの言語は、インストール時に選択した言語に設定されています。

注意: 文書を開いた後でも言語を変更することはできますが、その場合、文書全体の認識を再実行する必要があります。そのため、プロセスが遅くなります。



文書の処理

ステップ 1: 文書をスキャンまたは開く

- 【スキャン】をクリックすると、スキャナで紙文書がスキャンされます。

文書をスキャンするにはスキャナが正しく設定されている必要があります。必要に応じて、「[スキャナの設定](#)」セクションを参照してください。

または

- 【元のファイル】をクリックして、既存の画像ファイルを開きます。



インターフェースに画像が表示されます。必要に応じて、認識ゾーンを修正することができ、さらに認識したテキストを修正することもできます。詳細は、[[認識した文書の編集](#)] セクションを参照してください。

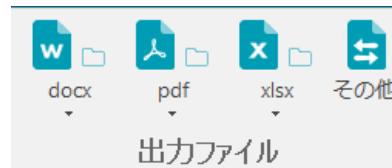
ステップ 2: 出力フォーマットと送信先を選択する

出力フォーマットを選択する

- 【出力ファイル】グループから希望する出力フォーマットを選択します。

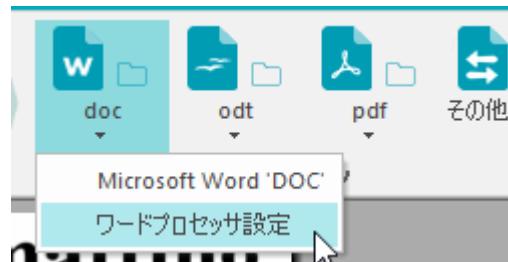


- 【出力ファイル】グループには、ユーザーが最近使用した3つの出力フォーマットが表示されます。

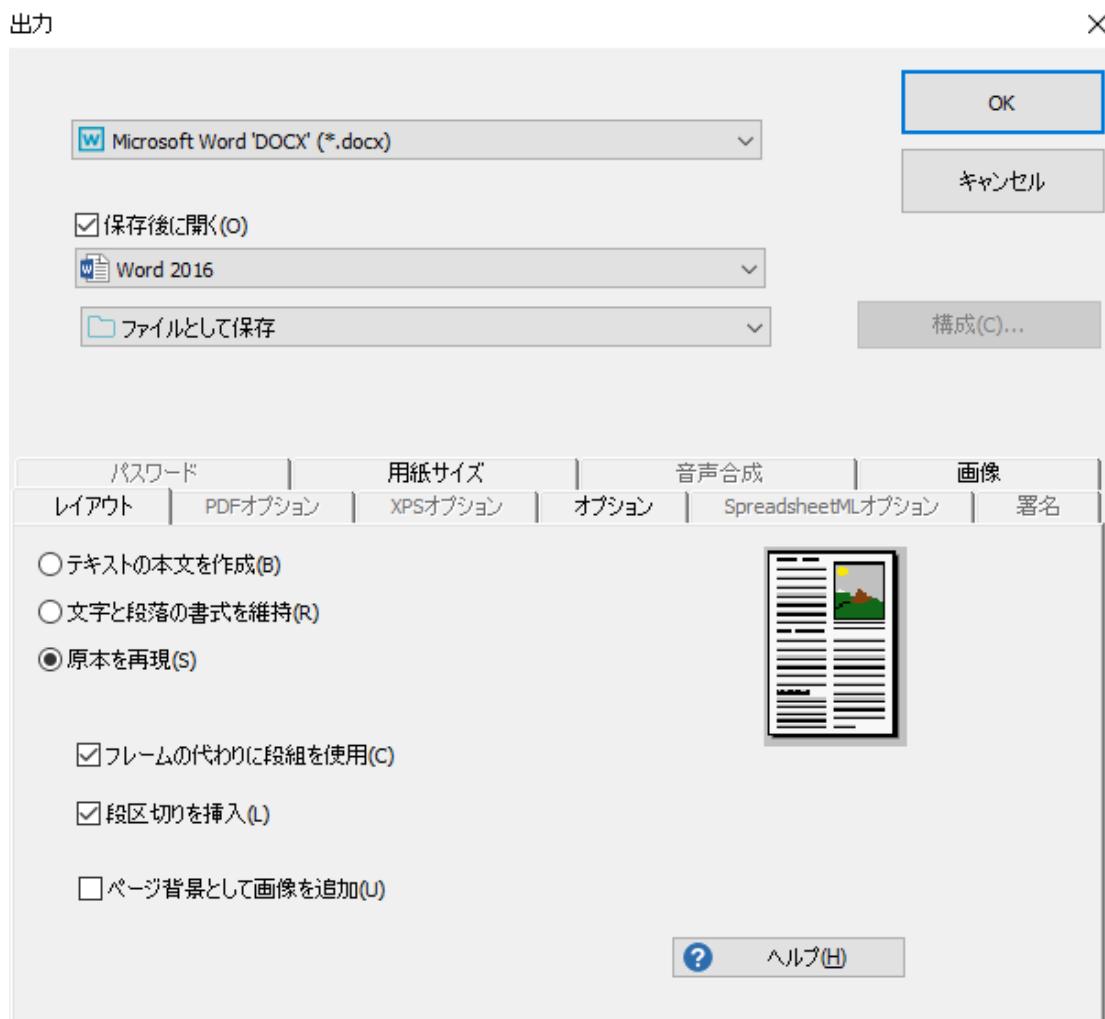


各出力フォーマットやフォーマットオプションの違いについては、「[文書の保存](#)」と「[フォーマットオプションの選択](#)」のセクションを参照してください。

- 別の出力フォーマットを選択するには、【その他】をクリックします。
- 選択したフォーマットの設定を変更するには、その下にある下向き矢印をクリックし、その設定をクリックします。

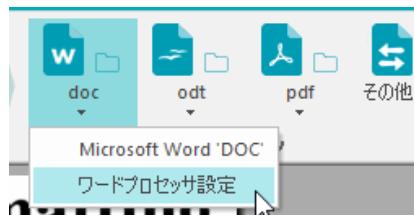


初めて【出力フォーマット】ボタンをクリックすると、出力設定を確定するか変更するように求められます。



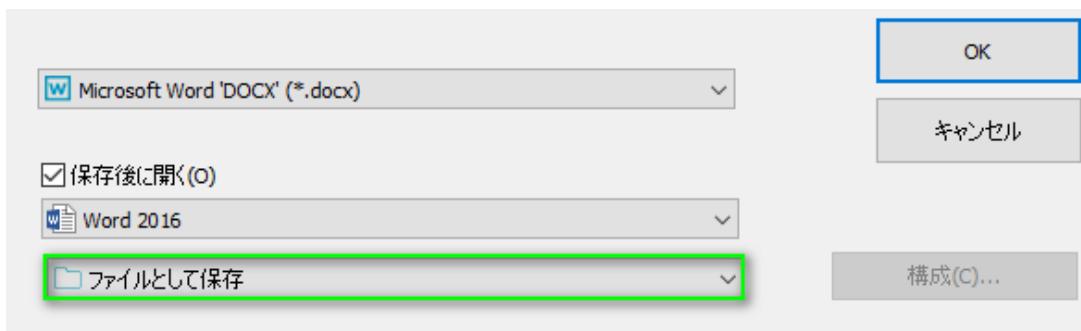
送信先を選択する

- 【出力ファイル】グループから希望する送信先を 1 つ選択します。下向き矢印をクリックし、【設定】を選択します。



- このグループには、ユーザーが最近使用した 3 つの送信先が表示されます。
 - お使いのコンピュータやポータブルストレージ デバイスに文書を保存するには、【ファイルとして保存】を選択します。
 - 電子メールで文書を送信するには【電子メール】を選択します。
 - または、クラウドに文書を送信するには、【クラウドアプリケーション】を選択します。
クラウドアプリケーションへの接続が正しく設定されていない場合、エクスポートできません。方法については、「[クラウドへの文書の送信](#)」セクションを参照してください。
- 選択した送信先の設定を変更するには、その下にある下向き矢印をクリックし、その設定をクリックします。

初めて【出力フォーマット】ボタンをクリックすると、出力設定を確定するか変更するように求められます。



上記の操作が完了すると、Readiris で文書の処理が始まります。

💡 ヒント:

Readiris の設定についてより詳しい指示が必要な場合は、【ウィザード】を使用してください。ウィザードでは、設定方法を順を追って説明しています。各手順の詳細は、「[ウィザードの使用](#)」セクションを参照してください。

処理設定の保存

Readiris では、アプリケーションを閉じる際に、処理設定が自動的に保存されます。次回 Readiris を起動すると、同じ設定が適用されます。

特定の設定プロファイルを保存したい場合は、次の操作を行います。

- 【Readiris】ボタンまたは【設定】タブをクリックします。
- 次に【設定を保存】をクリックし、設定ファイルに名前を付けます。

設定の読み込み

- [Readiris] ボタンまたは [設定] タブをクリックします。
- 次に [設定を読み込む] をクリックし、保存した設定ファイルを選択します。

出荷時の設定に戻す

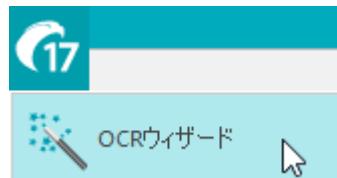
- [Readiris] ボタンまたは [設定] タブをクリックします。
- 次に [出荷時の設定に戻す] をクリックします。

ウィザードを使用

ウィザードでは、設定方法が順を追って説明されます。全部の手順を実行した後で[起動]をクリックすると、自動的に Readiris プロセスが開始されます。

ウィザードを開始するには：

- [Readiris] ボタンをクリックし、[OCR ウィザード] をクリックします。



ウィザードのステップ

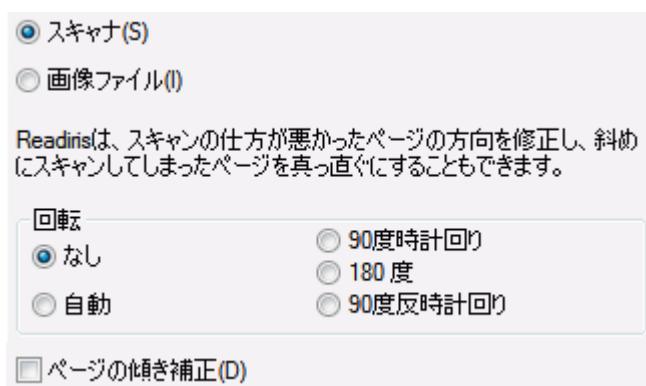
ステップ 1：原本の画像のある場所を選択して始めます。

お使いのスキャナを使用して文書をスキャンするか、既にコンピュータの中に保存されている**画像ファイルを開きます**。

この最初のステップでは、[回転] オプションを適用することもできます。

斜めにスキャンされた文書をまっすぐに直したい場合には、[ページの傾き補正] を選択します。

ステップ 1 の図

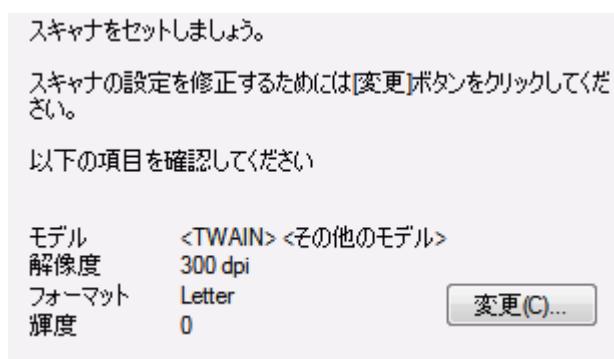


ステップ 2：スキャナを選択します。

(注意：前のステップで**画像ファイル**を選択した場合には、**ステップ 3**に進んでください)。

スキャナの設定が済んでいる場合、ここにスキャナのモデル名が表示されます。スキャナの設定がまだ済んでいない場合、[スキャナの設定] および [スキャナ設定の選択] を参照してください。

ステップ 2 の図

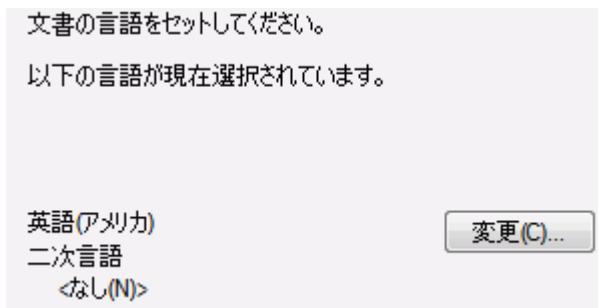


ステップ3: ドキュメント言語を選択します。

ドキュメント言語は、インストール中に選択した言語に設定されています。別の言語を選択するには、[変更] をクリックします。

注意：良好な認識結果を得るには、文書の言語を正しく選択することが非常に重要です。

ステップ3 の図

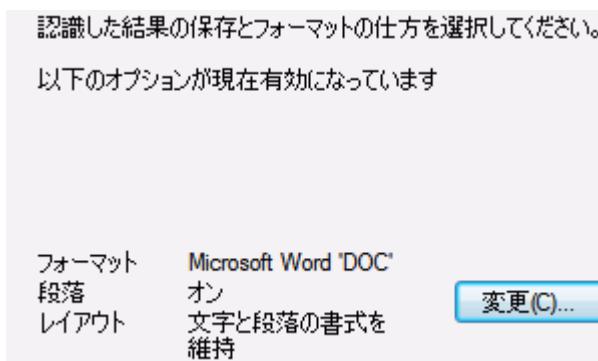


ステップ4 出力フォーマットと (クラウドの) 送信先を選択します。

出荷時の設定では、文書は、.docx ファイルとして保存されます。別の出力フォーマットや送信先のアプリケーションを選択するには、[変更] をクリックします。

各出力フォーマットやそのオプションの違いについては、[文書の保存] と [フォーマットオプションの選択] の各項をご覧ください。

ステップ4 の図



設定が選択できたら、[次へ] をクリックし、[起動]をクリックすると、文書の処理が開始されます。

セクション 4: 認識オプションの選択

認識オプション

Readiris は、Microsoft Office 文書、スキャンされた画像、画像ファイル、および PDF ファイルを編集可能なテキスト文書や検索可能な PDF 文書に変換します。Readiris が画像内のテキストを認識するには、適切な **認識オプション** が有効化されている必要があります。

ヒント: Readiris で文書をスキャンまたは開く前に、文書認識オプションを設定することをお勧めします。その理由は、Readiris は、複数のページを開いたりスキャンしたりするのと同時に、文書の認識を実行するためです。

認識オプションは、[取得] グループにあります。



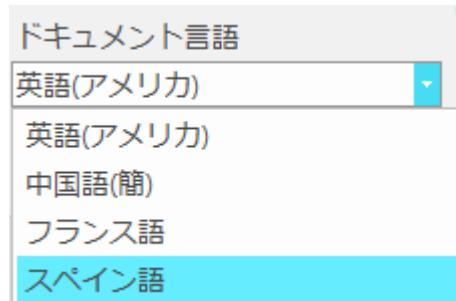
以下では、各オプションの概要を説明します。

文書の言語

文書の言語は、最も重要な認識オプションです。文書認識の質は、適切な認識言語の選択で決まります。認識言語は、インストール中に選択した言語に設定されています。

別の言語を選択するには、次の操作を行います。

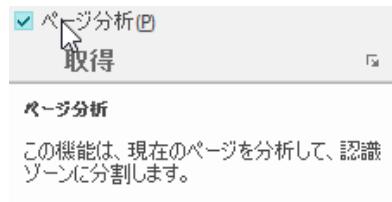
- [文書の言語] リストの右側にある下向き矢印をクリックし、希望の言語を選択します。



その他の認識オプション (Readiris Pro と Corporate)

ページ分析

Readiris は、デフォルトで、ページのテキスト認識を実行します。ただし、[ページ分析] ボックスの選択をオフにすることにより、認識を必要に応じて無効にすることができます。認識をもう一度有効にするには、同じボックスをオンにします。



注意: 自動認識がオフになっている場合でも、[手動でゾーンを定義](#)したり、以前に[保存したテンプレート](#)を読み込んだりすることができます。

数値文書の認識

数字のみの文書や、ほとんどまたはまったくテキストを含まない文書を処理する際には、[数値] オプションを選択することをお勧めします。

このオプションを選択すると、Readiris は、数字 0~9 と次の記号のみを認識します。

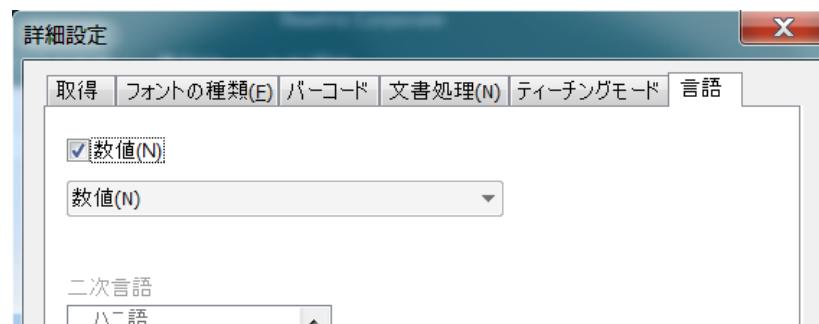
+	*	/	%	,
プラス記号	アスタリスク	スラッシュ	パーセント記号	コンマ
.	()	-	=
ピリオド	丸開括弧	丸閉括弧	ハイフン	等号
\$	£	€	¥	
ドル記号	ポンド記号	ユーロ記号	円記号	

数値オプションを選択するには、次の操作を行います。

- [取得] グループの展開矢印をクリックし、[詳細設定] を開きます。



- [言語] タブをクリックし、[数値] ボックスをオンにします。



キリル文字、スラブ語、ギリシャ語で西洋諸語の単語を認識

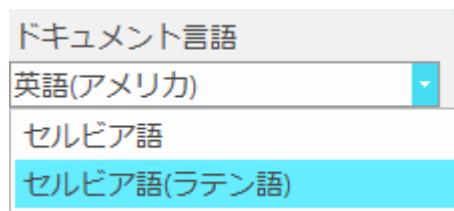
固有名詞など、ラテンアルファベットで書かれた「西洋」諸語を含むキリル文字、スラブ語、ギリシャ語の文書を処理する際には、使用可能な言語ペアの中から適切なものを選択することをお勧めします。

言語ペアは、常に英語と組み合わされるようになっており、ロシア語、ベルラーン語（白ロシア語）、ウクライナ語、セルビア語、マケドニア語、ブルガリア語、ギリシャ語で利用できます。

言語ペアを選択するには、次の操作を行います。

- 【文書の言語】リストの右側にある下向き矢印をクリックします。
- 必要な言語ペアを選択します。

例



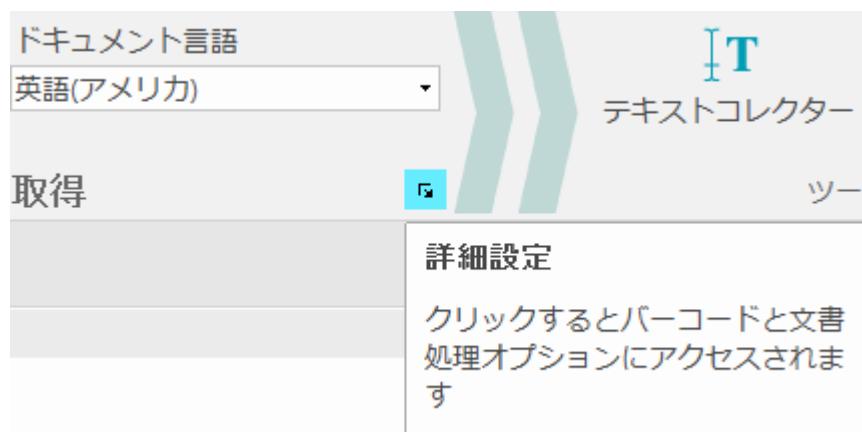
速度と精度(Readiris Corporate のみ)

Readiris では、認識の速度と精度のどちらを重視するかを選択することができます。

ヒント: 低品質の画像を処理する際には、この機能を「精度」に設定することをお勧めします。これにより、結果が著しく改善されます。

速度と精度のオプションにアクセスするには、次の操作を行います。

- 【取得】グループの展開矢印をクリックし、【詳細設定】を開きます。



- 【言語】タブをクリックします。
- スライダを【速度】に移動すると処理が速くなります。
- スライダを【精度】に移動すると認識結果が改善されます。

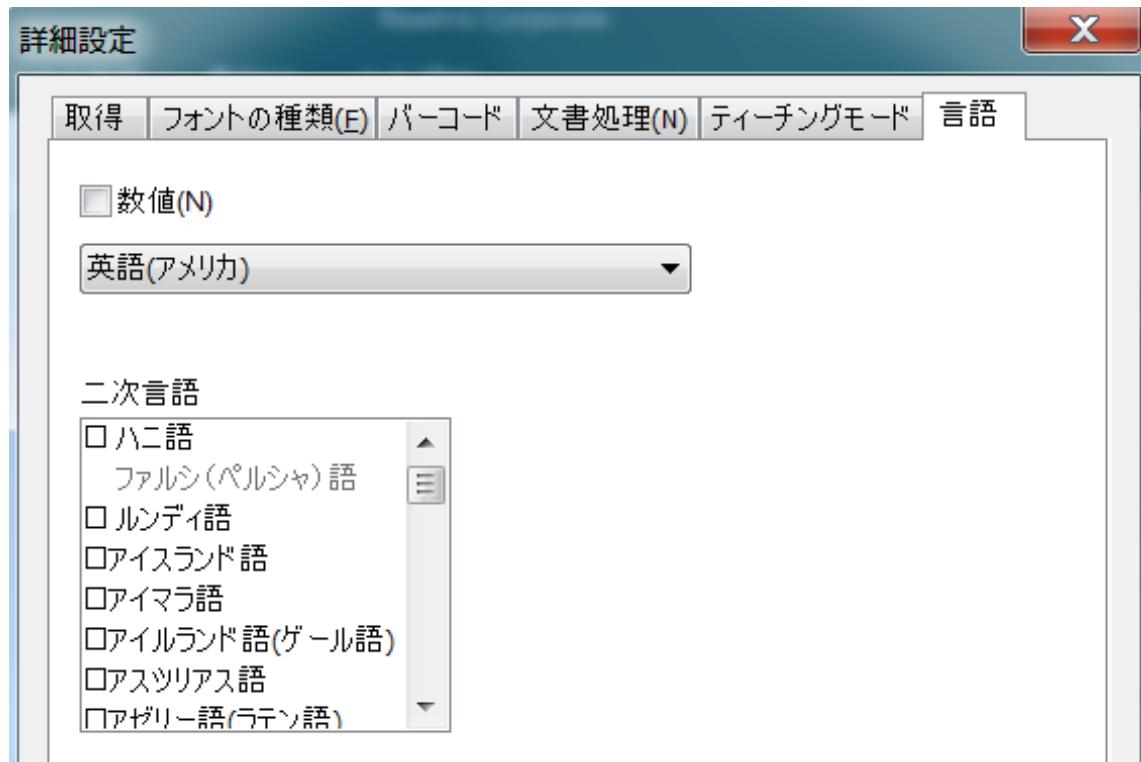


その他の認識オプション (Readiris Corporate のみ)

1 つの文書で複数の二次言語を認識

文書に複数の言語のテキストが含まれる場合、主な認識言語を選択し、複数の**二次言語**を組み合わせることをお勧めします。最大 4 つの二次言語を選択することができます。

- [取得] グループの展開矢印をクリックし、[詳細設定] を開きます。
- [言語] タブをクリックします。
- [二次言語] リストの必要な言語のボックスをオンにします。
- 選択されている主な言語で利用できない二次言語は、薄い色で表示されています。



アラビア語文書の認識

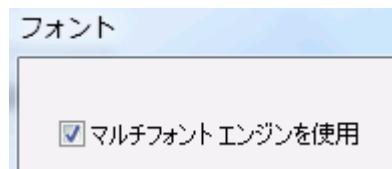
Readiris Corporate でアラビア語文書を認識する場合、「オムニフォント」と「マルチフォント」のどちらの認識エンジンを使用するか選択することができます。

Readiris では、デフォルトで、すべてのフォントを認識する「**オムニフォント**」エンジンを使用するようになっています。最良の認識結果を得るには、「**マルチフォント**」エンジンを使用することをお勧めします。すると、文書で使用されているフォントを選択することができます。

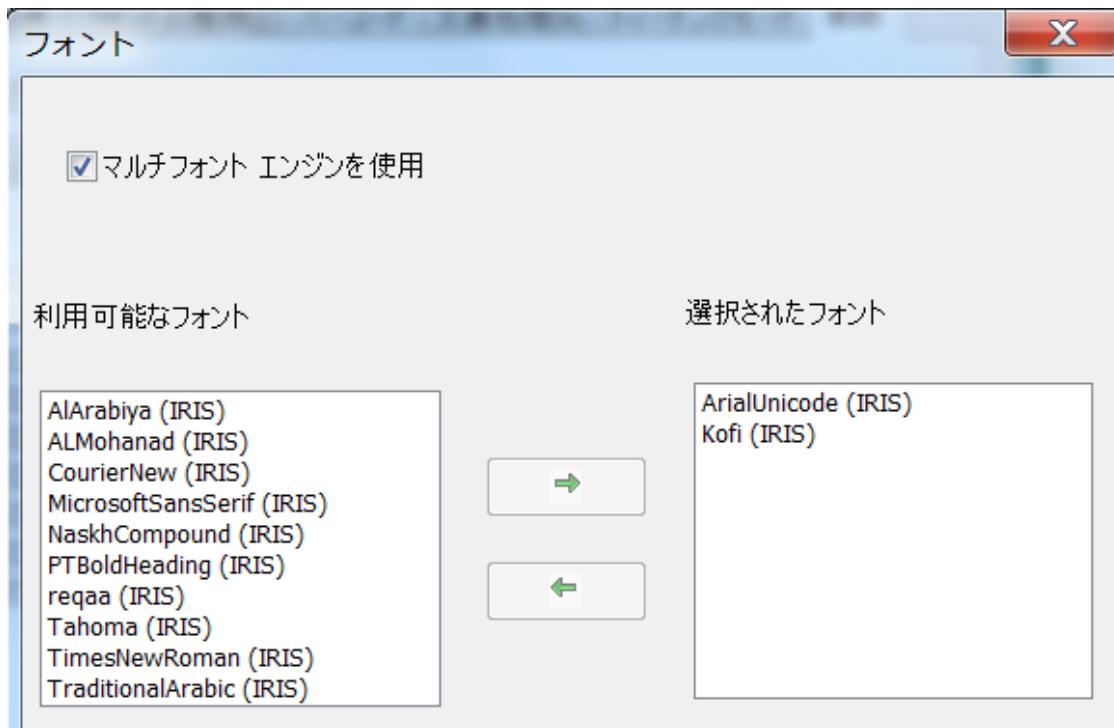
- [取得] グループの展開矢印をクリックします。
- [主な言語] リストから「アラビア語」を選択します。すると、[フォント] ボタンが使用できるようになります。



- [フォント] ボタンをクリックし、[マルチフォント エンジンを使用] を選択します。



- 左の列から認識するフォントを選択し、右向き矢印をクリックして右の列に移動させます。



注意: マルチフォントエンジンが選択されている場合、実際には、Readiris は、オムニフォントとマルチフォントの両方のエンジンを使用して認識を行い、その後、投票方式で最良の結果を選択します。マルチフォントエンジンを重視する場合は、スライダを右に移動します。スライダをゼロに移動すると、マルチフォントエンジンは使用されません。

ヒント: 正しい認識オプションを選択したにもかかわらず認識結果に満足できない場合、文書の画像の質が不十分であることが考えられます。この問題を解決するには、[「画質の調整」](#) セクションを参照してください。

詳細認識オプション

文書の言語に続き、**フォントの種類や文字ピッチ**といった文書の処理で大切な役割を果たすほかの詳細オプションも設定できます。

詳細認識オプションにアクセスするには、次の操作を行います。

- [取得] タブで [詳細設定] をクリックします。



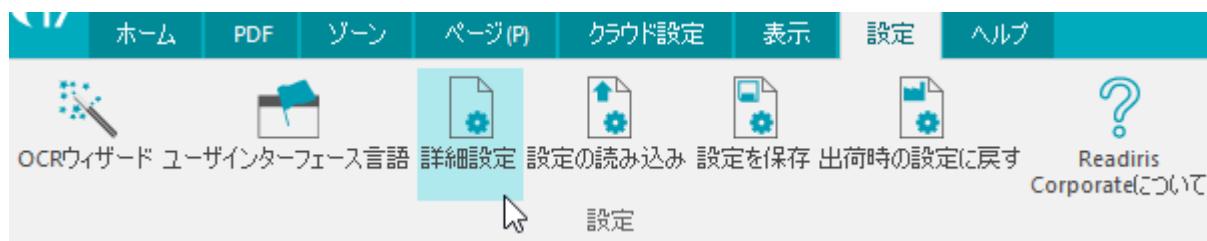
または

- [Readiris] ボタンをクリックし、[詳細設定] をクリックします。



または

1. [設定] タブをクリックし、[詳細設定] をクリックします。



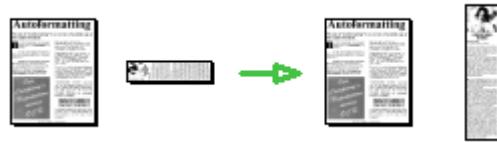
取得オプション

Readiris で文書をスキャンしたり開いたりする前に、多数の**取得オプション**を設定できます。これらのオプションは、認識の結果を改善する上で役に立ち、文書をスキャンしたり開く際に実行されます。

回転オプション

Readiris は、文書を右に 90° 、 180° 、左に 90° 回転させることができます。

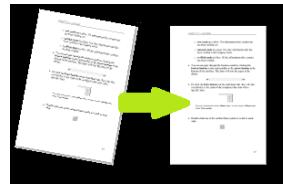
向きが同じでない多数の文書を処理する場合は、[自動] を選択します。すると、文書は、Readiris によって、正しい向きに自動的に回転されます。



注意: 文書が正しい方向、すなわち、テキストがスキャン面を向いていることを確認してください。そうでない場合、文書は回転されません。

ページの傾き補正

斜めにスキャンされた文書をまっすぐにする必要がある場合には、このオプションを選択します。



選択した取得オプションで希望する結果が得られない場合、文書をスキャンまたは開いた後に手動で変更することができます。その方法は、[「セクション 7: 認識した文書の編集」](#) を参照してください。

フォントの種類と文字ピッチ

フォントの種類

Readiris では、「標準」とドットマトリックスで印刷した文書が区別されます。ドットマトリックス プリンタは、個別の点から形成されたテキストで文書を作成するプリンタです。

ドットマトリックス文書を認識するには、特殊な分割と認識技術が必要であり、それを有効化する必要があります。

Far out in the uncharted back

フォントの種類を選択するには、次の操作を行います。

- [Readiris] ボタンをクリックし、[詳細設定] をクリックします。
- [フォントの種類] タブをクリックします。
- フォントの種類は、出荷時の設定では [自動] に設定されています。

その場合、Readiris は「24 ピン」、「NLQ (Near Letter Quality)」ドットマトリックス、またはほかの「標準」印刷を認識します。

- ドットマトリックス印字の文書のみを認識する場合は、[ドットマトリックス] をクリックします。

Readiris は、いわゆる「ドラフト」、または「9 ピン」ドットマトリックス印字の文書を認識するようになります。

文字ピッチ

文字ピッチとは、特定フォントの 1 インチ当りの文字数を指します。文字ピッチは、すべての文字幅が同一の [等幅]、または文字によって幅が異なる [プロポーショナル] に設定できます。

文字ピッチを選択するには、次の操作を行います。

- [Readiris] ボタンをクリックし、[詳細設定] をクリックします。
- [フォントの種類] タブをクリックします。
- 文字ピッチは、出荷時の設定では [自動] に設定されています。
- フォントの文字すべてを同じ幅にそろえる場合は、[等幅] をクリックします。旧式のタイプライターの文書では、等幅フォントの場合がほとんどです。
- フォントの文字の幅が異なる場合は、[プロポーショナル] をクリックします。実質的には、新聞、雑誌、書籍に使用されるすべてのフォントがプロポーショナルです。



重要: これらの文書の特徴は、アジア諸語、ヘブライ語、アラビア語の文書には適用されません。

バーコード

バーコードの処理については、対応する操作手順セクション「[バーコードを認識するには](#)」で説明しています。

文書処理

文書処理オプションについては、対応する操作手順セクション「[文書のバッチを分割するには](#)」で説明しています。

ティーチングオプション

ティーチングオプションについては、「[ティーチングモード](#)」セクションで説明しています。

言語オプション

言語オプションについては、「[認識オプション](#)」で説明済みです。

セクション 5: 文書のスキャンと開く

ドキュメントをスキャンする

操作を開始する前に：コンピュータにスキャナが接続され、正しく構成されていることを確認してください。必要に応じて、[\[スキャナの設定\]](#) の項を参照してください。

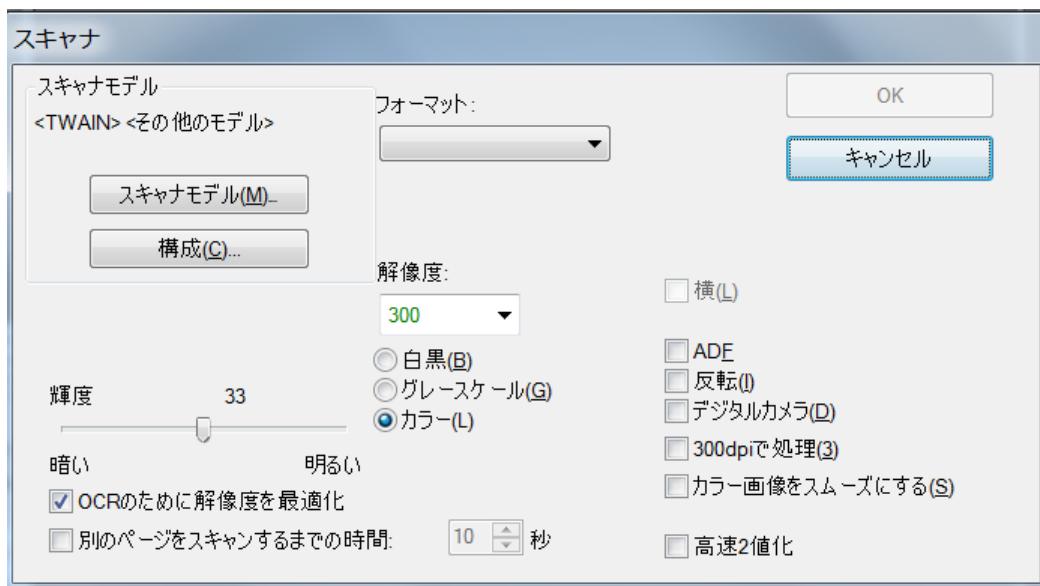
Readiris は、TWAIN 対応です。Readiris は、フラットベッドやシートフィードのスキャナほぼ全種、「一体型」デバイス、デジタルカメラ、現在利用可能なスキャナをサポートします。

スキャナ設定の選択

スキャナモデル

Readiris は、自動スキャナ検知を提案しています。お使いのスキャナが、自動スキャナ検知で使用するサポート対象のスキャナリストに掲載されていない場合は、手動スキャナ設定を実行する必要があります。

手動でお使いのスキャナをモデルを選択するには、[スキャナモデル] をクリックし、リストからお使いのスキャナプロファイルを選択します。スキャナプロファイルを使用すると、お使いのスキャナ専用の機能にアクセスできます。例：両面スキャン (ADF)。お使いのスキャナで利用できない機能は、非表示になるか、薄い色で表示されます。



リスト中にお使いのスキャナが見つからない場合でも心配はいりません。スキャナの中には、専用のスキャナプロファイルを持たないものもあります。

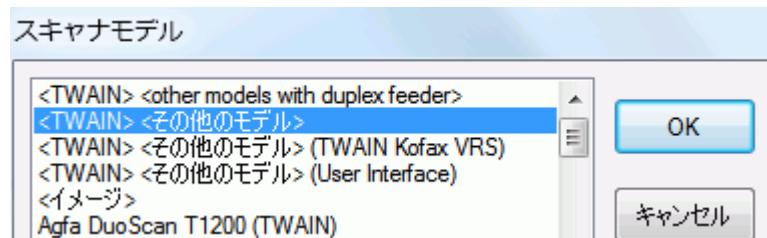
リスト中にまったく同じスキャナが見つからない場合、似たようなプロファイルを選択しないでください。代わりに汎用 Twain プロファイルを選択してください。別の Twain プロファイルが利用できます。

通常のフラットベッドスキャナを使用している場合、**<Twain><OTHER MODELS>** を選択します。

Readiris ではなく、スキャナのユーザー インターフェースを使用して文書をスキャンしたい場合、

<Twain><OTHER MODELS>(ユーザー インターフェース)を選択します。

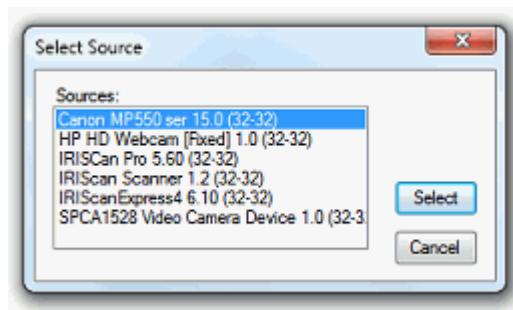
ページの表裏をスキャンする両面スキャナを使用したい場合、**<Twain><OTHER MODELS with duplex feeder>**を選択します。



設定

[設定] をクリックし、スキャナドライバを選択します。正しいスキャナドライバを選択しなければ、Readiris はスキャナと通信できません。

[ソースの選択] ウィンドウにお使いのスキャナが見つからない場合、スキャナドライバは正しくインストールされていません。スキャナドライバをもう一度インストールしてから、Readiris を設定しなおしてください。通常、スキャナドライバは、スキャナメーカーの Web サイトにあります。



注意：メインツールバーで直接スキャナドライバーを設定することもできます。[スキャン] ボタンの下にある下向き矢印をクリックし、[ソースの選択] をクリックします。

コントラスト

低画質のドキュメントをスキャンする場合、最適なスキャン結果を得るために、時にはコントラストのレベルを調節することがあります。

[コントラスト] スライダを右に動かすと、背景とテキストの間のコントラストが強くなります。スライダを左に動かすと、コントラストが弱くなります。

注意：[自動露出] を選択すると、[コントラスト] スライダは使用できなくなります。この場合、コントラストは自動的に調整されます。

明度

暗く、ぼやけた画像や、逆に極端に明るい画像をスキャンする時は、明度の設定を調節する必要があるかもしれません。

[輝度] スライダを右に動かすと、スキャンの輝度が強くなります。スライダを左に動かすと、輝度が弱くなります。

注意：[自動露出] を選択すると、[輝度] スライダは使用できなくなります。この場合、輝度は自動的に調整されます。

OCR のために解像度を最適化

このオプションは、詳細すぎる(600 dpi 以上)スキャン画像の解像度を補正します。このオプションを起動させると、Readiris は、解像度を、適度なレベルまで下げます。

このオプションは、詳細が少なすぎるスキャン画像の解像度は向上させません。

この後に別のページをスキャン

このオプションは、複数のページをフラットベッドスキャナでスキャンする際に便利です。このオプションは、何秒後に Readiris に別のページをスキャンさせるかを指定します。これにより、スキャナでページを変更する時間を十分に保ちながら、Readiris に自動スキャンを実行させることができます。このオプションのおかげで、新しいページをスキャンするたびに、いちいち Readiris アプリケーションに戻って [スキャン] ボタンを押す手間がなくなりました。

上向き矢印と下向き矢印で、Readiris が新しいページをスキャンするまでの待ち時間を設定します。

書式

フォーマット] リストをクリックすると、スキャンする文書のサイズが定義できます。

ヒント：米国では、**Letter サイズ**と**Legal サイズ**が最も一般的なサイズです。世界的には**A4**が標準的なサイズです。

解像度

画像をスキャンする**解像度**を選択します。**300 dpi** (1 インチ当たりのドット数) の解像度をお勧めします。非常に小さい文字やアジア言語をスキャンする際には、**400 dpi** の解像度をお勧めします。

カラーモード

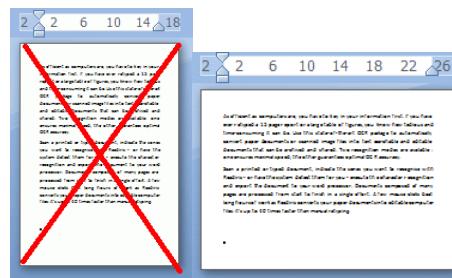
Readiris は、**カラー**、**白黒**、**グレースケール**の文書をスキャンすることができます。

グレースケールやカラーの画像の方が、OCR の結果が良好になります。

横向き

縦向きではなく横向きの文書をスキャンする際には、[横向き] オプションを選択します。

このオプションを選択すると、Readiris のインターフェースで、文書が横向きに表示されます。



自動露出

スキャナによっては、[自動露出]オプションが選択されている場合もあります。このオプションは、コントラストと輝度の設定を自動的に調節します。最適な認識結果を得るには、コントラストが良好である必要があります。

注意：このオプションを選択すると、**コントラスト**と**輝度**のスライダーは利用できなくなります。

ADF

ADF は Automatic Document Feeder (自動文書フィーダ) の略です。このオプションは、スキャナに自動文書フィーダが装着されている場合に利用できます。書類の山を一度にスキャンする場合、このオプションを選択してください。

反転

Twain スキャナは、白黒で文書をスキャンしたときに、黒色の背景に白いテキストを表示することができます。テキストと背景の色を反転させるには、[反転] オプションを選択してください。

デジタルカメラ

Twain 対応デジタルカメラを使用する場合、スキャンソースとして、カメラを直接使用することができます。これを行うには、[デジタルカメラ] オプションを選択します。Readiris は、特殊な認識ルーティンを活用して、デジタルカメラの画像を処理します。

スキャンソースとして、デジタルカメラを使用する際のヒントについては、「[デジタルカメラの画像の処理方法](#)」を参照してください。

300dpi で処理

正しくなかったり、不明の解像度の画像を処理する場合は、[300dpi で処理] オプションを選択します。画像は、300 dpi の画像と同様に処理されます。

カラー画像の滑らか処理

出荷時の設定では、このオプションが選択されています。これによって、文書のカラー画像やグレースケール画像の画質が向上します。

注意：スキャナによっては、カラーやグレースケールの画像をうまく認識するには、画像をスムーズにすることが必要です。

両面

文書の表裏をスキャンする両面スキャナを使用する場合、[両面スキャン] オプションが使用できます。Readiris に文書の表裏をスキャンさせる場合、このオプションを選択します。

高速2値化(Readiris Corporate のみ)

高速スキャナを使用する場合、[高速 2 値化] を起動するようお勧めします。このオプションは、処理時間を大幅に短縮します。

ヒント：非常に品質の悪い画像をスキャンする場合は、このオプションを選択しないでください。

文書のバッチのスキャン

(この項目は **Readiris Corporate** のみに適用されます)

文書のバッチ全体をスキャンする必要がある場合、Readiris の **【監視フォルダ】** 機能を使用することができます。

すると、Readiris で監視されている特定のフォルダのすべての文書をスキャンすることができます。Readiris によって監視フォルダの中に新しい文書が発見されると、それが処理されて、出力フォルダ、クラウド、FTP サーバなど、好みの送信先にエクスポートされます。

Readiris は、最大で 63 個の監視フォルダをサポートします。各監視フォルダには固有のコンフィギュレーションを設定することができます。たとえば、1 つの監視フォルダコンフィギュレーションで圧縮 PDF 文書を作成し、Therefore にエクスポートすることができ、別のコンフィギュレーションで RTF 文書を作成し、Google Drive にエクスポートすることができます。そこで文書を編集することができます。さらに、別のコンフィギュレーションで、別の認証情報 (ユーザー名とパスワード) や設定 (出力フォルダなど) を使用して、Google Drive の別のインスタンスに文書をエクスポートすることができます。

重要な注記：

- Readiris 監視フォルダを使用している間は、同時に、Readiris を、スキャンアプリケーションとして使用することはできません。
- Readiris で既に文書を開いていた場合、**【監視フォルダ】** オプションは利用できません。**【監視フォルダ】** オプションにアクセスするには、文書を処理または削除します。

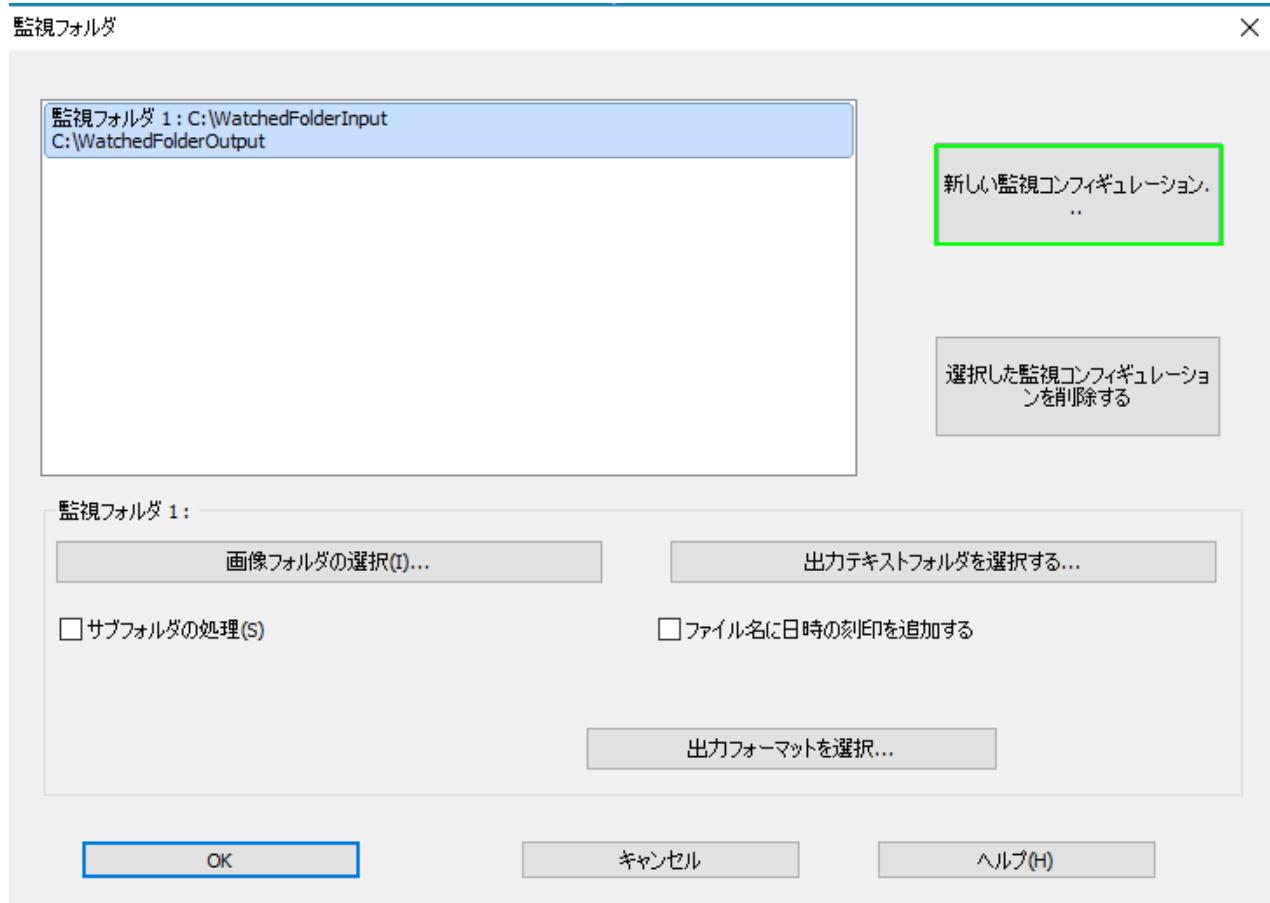
監視フォルダのコンフィギュレーションを設定するには：

- **【元のファイル】** ボタンの下にある下向き矢印をクリックします。
- **【監視フォルダ】** をクリックします。
【監視フォルダ】オプションは、Readiris に文書が開いていないときにしか利用できません。



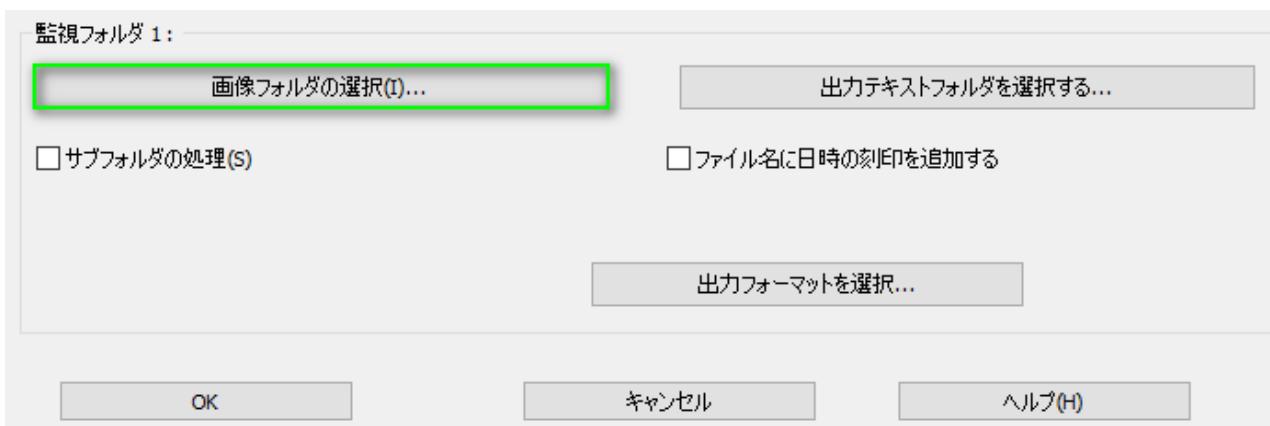
【監視フォルダ】 ウィンドウでは、以下の設定を定義する必要があります。

- 新しい監視コンフィギュレーションの設定。
- 対応するボタンをクリックします。

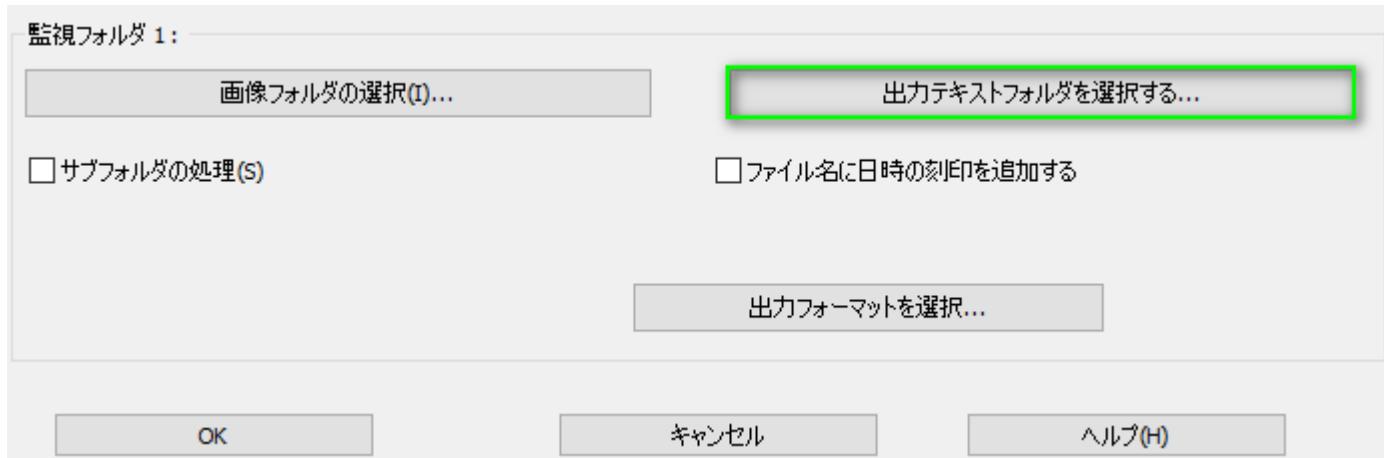


- ウィンドウフォルダ 1 の場合: 【画像ファイル】を選択し、文書のスキャン対象となる【入力フォルダ】を検索します。
- OK をクリックして、設定内容を確認します。

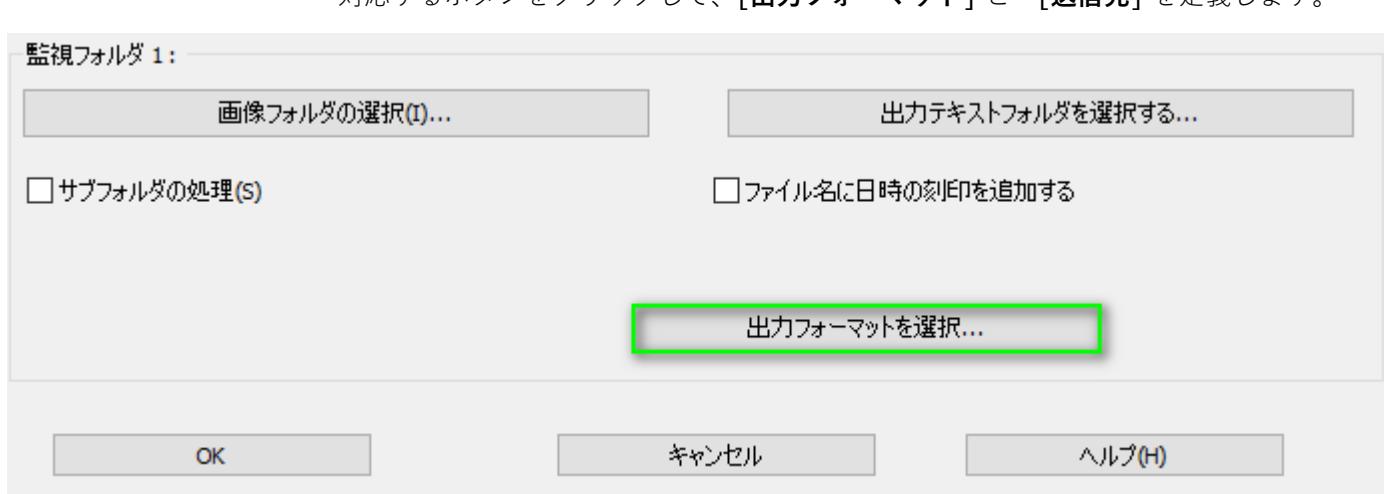
入力フォルダを変更したい場合、【画像フォルダの選択】をクリックします。



- 出力テキストフォルダを選択します（出力ファイルをクラウドに保存したい場合には、このステップを省略します）。
 - 対応するボタンをクリックして、コンピュータにファイルを保存します。



- ウィンドウフォルダ 1 の場合: [出力テキストフォルダ] を選択し、[出力] を検索します。出力フォルダは入力フォルダと異なっていかなければなりません。
- OK** をクリックして、設定内容を確認します。
- 【出力フォーマット設定】を選択します。
 - 対応するボタンをクリックして、[出力フォーマット] と [送信先] を定義します。



- 出力 - 監視フォルダ 1.の場合、[出力フォーマット]、[送信先]、[レイアウト] のオプションを選択します。詳細に関しては、「[セクション 8：文書の保存](#)」と「[セクション 9：文書をクラウドに送信する](#)」をご参照ください。
- OK** をクリックして、設定内容を確認します。

- **ヒント :**

- Readiris に監視フォルダのサブフォルダを処理させたい場合には、[サブフォルダの処理] を選択します。

注意 :[サブフォルダの処理] 機能がアクティベートされている場合、新しい監視フォルダコンフィギュレーションで、監視フォルダとして既存の監視フォルダのサブフォルダを使用することはできません。

例 :コンフィギュレーション 1 で [サブフォルダの処理] を選択し、監視フォルダとして C:\Input を使用します。C:\Input に「Batch1」という名のサブフォルダがあります。その場合、C:\Input\Batch1 を、コンフィギュレーション 2 の監視フォルダとして使用することはできません。

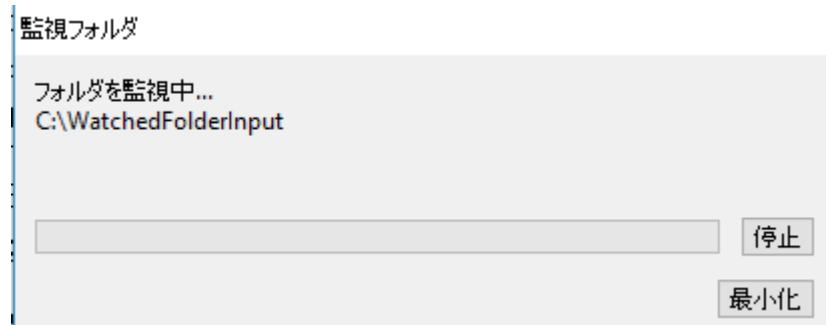
- 複数の監視フォルダを使用する場合、[ファイル名に日時の刻印を追加する] の機能を使用すると便利です。

すると、同じファイル名を有する出力ファイルを作成してしまうことが防止できます(同じファイル名を有する出力ファイルがあった場合、同じ出力送信先を使用したときに、それが上書きされてしまいます)。日時の刻印は <filename>_YYYYMMDDHHMMSS のような形式を有しており、作成時刻の年、月、日、時間、分、秒が記録されます。

- 終了したら、[OK] をクリックして 監視フォルダの監視を開始します。もしくは、[新しい監視コンフィギュレーション] をクリックして、別の監視フォルダを構成します。

監視中に、Readiris は、そのフォルダ内で見つけた画像を処理します。

ヒント :[最小化] をクリックすると、Readiris はバックグラウンドで実行されます。



Readiris で監視されている間に、監視フォルダに文書を追加する方法 :

- スキャナのインターフェースを使って文書をスキャンします。または、
- 既存の画像ファイルを監視フォルダに移動させます。

画像ファイルを開く

Readiris では、文書をスキャンする以外に、画像ファイルや PDF ファイルを開くこともできます。

Readiris は、次の画像ファイルと文書ファイルフォーマットをサポートします。

画像ファイルフォーマットと文書ファイルフォーマット	ファイル拡張子
Adobe PDF	*.pdf
JPEG 画像	*.jpg、 *.jpeg
JPEG 2000 画像	*.j2c、 *.j2k、 *.jp2
Microsoft Word 文書	*.doc(x)
Microsoft Excel ワークシート	*.xls(x)
Microsoft PowerPoint プрезентーション	*.ppt(x)
Rich Text Format 文書	*.rtf
Portable Network Graphics	*.png
(圧縮した複数ページ) TIFF 画像 非圧縮、 LZW、 PackBits、 Group 3、 Group 4 および JPEG 圧縮	*.tif、 *.tiff
Windows ビットマップ	*.bmp
ZSoft ペイントブラシ画像	*.pcx

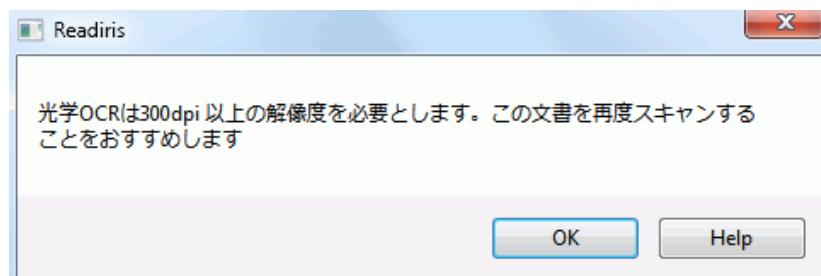
既存の画像ファイルを開くには、次の操作を行います。

- [元のファイル] ボタンをクリックします。



- 次に、処理する画像ファイルを選択し、[開く] をクリックします。

注意: 画像が低解像度でスキャンされた場合や、解像度が不明な場合、Readiris には次の警告が表示されます。



[とにかく開く] をクリックして、画像の作業を続行します。 **ヒント:** 低解像度画像で最良の結果を得る方法については、[\[ヘルプ\]](#) ボタンをクリックしてください。

画像ファイルを開く際のオプション

画像ファイルを開く際に、次のオプションを利用できます。

デジタルカメラ

デジタルカメラの画像を開くには、このオプションを選択します。次に、**ホーム** ビューで、[射影歪みの補正] ツールをクリックして最適化します。

カラー画像をスムーズにする

このオプションは、デフォルトで選択されています。文書のカラー画像やグレースケール画像の外観を改善するオプションです。

注意: スキャナによっては、カラーやグレースケールの画像をうまく認識するには、画像をスムーズにすることが必要です。

300dpi で処理

解像度が正しくないまたは不明の画像を処理する場合は、[300dpi で処理] オプションを選択します。画像は、解像度が 300 dpi の画像と同様に処理されます。

高速 2 値化 (Readiris Corporate)

多数の画像を同時に読み込む場合は、[高速 2 値化] を有効化することをお勧めします。このオプションでは、処理速度が大幅に上がります。

ヒント: 非常に品質の悪い文書をスキャンする場合は、このオプションを選択しないでください。

ページ範囲

複数ページの TIFF や PDF ファイルの一部のみを開く場合には、このオプションを使用します。

文書全体を開く場合は、[すべてのページ] を選択します。

または、[ページ] を選択して、ページの範囲を指定します。

画像ファイルを開くための別 の方法

[元のファイル] ボタンを使用するほかに、Readiris インターフェースに画像ファイルをドラッグして開く方法もあります。

画像ファイルのバッチを処理する

(この項目は **Readiris Corporate** のみに適用されます)

画像ファイルのバッチ全体を処理する際には、Readiris の [バッチ OCR] オプションを使用することができます。

- [元のファイル] ボタンの下にある下向き矢印をクリックします。



- 次に [バッチ OCR] をクリックします。
バッチ OCR オプションは、Readiris に文書が開いていないときにしか利用できません。
- 画像ファイルが格納されているを検索します。
- [出力フォーマットの選択] ボタンをクリックすると、必要な出力フォーマット、フォーマットオプションと送信先が選択できます。

ヒント：詳細については、「[文書の保存](#)」と「[フォーマットオプションの選択](#)」の各項をご覧ください。

- 次に、処理された文書を保存するを検索します。

処理をしたファイルをクラウドに送信したい場合には、このステップを省略します。



- 次に処理オプションを選択します。
 - [サブフォルダの処理] では、入力フォルダのサブフォルダがすべて処理されます。
 - [出力テキストファイルの上書き] では、出力フォルダの中にある、同じ名前の既存出力ファイルが上書きされます。
 - [認識後にスキャンを削除] では、処理後に、原本の入力画像が削除されます。

- [ファイル名に日時の刻印を追加する] では、ドキュメントのファイル名に日時が追加されます。すると、同じファイル名を有する出力ファイルを作成してしまうことが防止できます(同じファイル名を有する出力ファイルがあった場合、同じ出力送信先を使用したときに、それが上書きされてしまします)。日時の刻印は <filename>_YYYYMMDDHHMMSS のような形式を有しており、作成時刻の年、月、日、時間、分、秒が記録されます。
- オプションの選択が済んだら、[OK] をクリックすると、文書の処理が開始されます。

ティーチングモード

認識結果を改善するには、Readiris のティーチングモードを使用することができます。ティーチングにより、フォントや文字の形状について認識システムをトレーニングし、必要に応じて OCR の結果を修正できます。ティーチングプロセスの際に、認識システムがはっきりと認識できない文字は、その文字を含む語と Readiris が提案する結果とともに、プレビューウィンドウに表示されます。



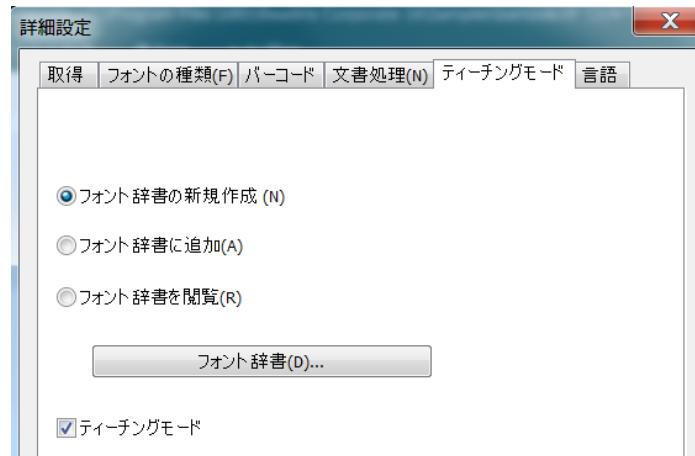
ティーチングは、認識システムの精度を大幅に強化し、特に歪んだり、損傷した用紙を認識する場合に便利です。また、Readiris が最初は認識できない特殊記号に関する訓練にも使用できます。その例として、数学記号、科学記号、絵記号などが挙げられます。

注意: ティーチングは認識を**実行中**に行われます。ティーチングの結果は、認識が実施される間、一時的にコンピュータのメモリに保存されます。Readiris は、残りの文書で OCR を実行しているときに、トレーニングされた文字をそれ以降は表示しません。新規文書に OCR が実行されると、トレーニングの結果は消去されます。ティーチングの結果を恒久的に保存するには、ティーチングモードと一緒に**フォント辞書**を使用します。

 **ヒント:** 後で認識結果を編集する必要がある場合には**テキストコレクター**を使用することができます。詳細は、「[認識した文書の編集](#)」トピックを参照してください。

ティーチングオプションへのアクセス

- [設定] タブの [詳細設定] をクリックします。
- または [ホーム] タブの [取得] グループにある展開矢印をクリックします。
- [ティーチングモード] タブをクリックします。
- [ティーチングモード] ボックスをオンにします。



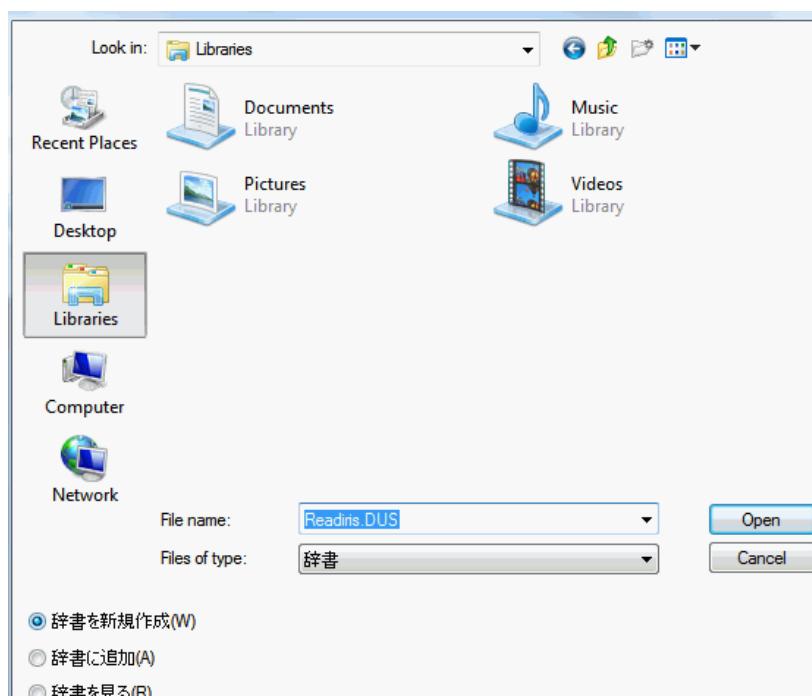
フォント辞書

前述のように、ティーチングの結果を恒久的に保存するには、ティーチングモードと一緒にフォント辞書を使用することをお勧めします。

ティーチングモードを初めて使用しており、フォント辞書を作成したことがない場合は、[フォント辞書の新規作成] を選択します。ウィンドウが開いたら、辞書の名前を入力し、[開く] をクリックします。

注意: 辞書の .dus 拡張子を変更しないでください。

注意: フォント辞書は、最大 500 個の形状に限られています。特定のアプリケーション用に、個別の辞書を作成することをお勧めします。

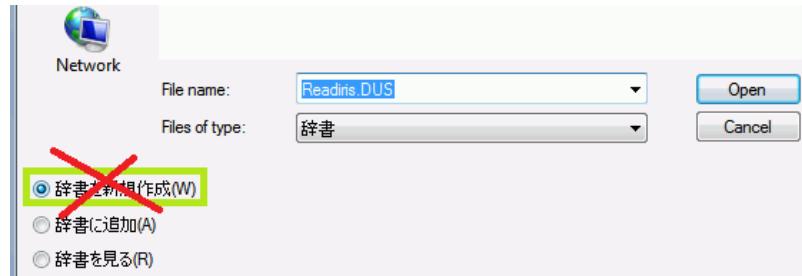


後で既存のフォント辞書を使用するには、[フォント辞書に追加] または [フォント辞書を閲覧] を選択します。

[フォント辞書に追加] を選択する場合は、ティーチングモードが有効化されている必要があります。このモードの場合、Readiris は、辞書に保存されている文字の形状を認識し、新しいティーチング結果に追加します。

[フォント辞書を閲覧] を選択すると、ティーチングモードが有効化されていても、Readiris は辞書に保存されている文字の形状を認識するだけで、新しいティーチング結果を追加しません。それでも、ティーチングモードを使用して、フォント辞書に保存されていない認識結果を確認し、必要に応じて修正することもできるため、便利なオプションと言えます。

注意: 辞書モードが [新規辞書] に設定されているときは、既存の辞書を開かないでください。開いてしまうと、既存の辞書のコンテンツが消去され、同じ名前を使った新しい辞書が作成されます。



ティーチングモードの使用

- ティーチングとフォント辞書のオプションの構成を完了したら、文書を開くかスキャンします。
- Readiris は、認識の最後に、ティーチングモードを起動します。
認識システムがはっきりとは認識できない文字が、表示されます。



結果が正しい場合:

- [学習] ボタンをクリックして、結果を確実なものとして保存します。
フォント辞書を使用していない場合、ティーチングの結果は、認識が実施される間、一時的にコンピュータのメモリに保存されます。新しい文書をスキャンする場合は、同じ手順をもう一度実行する必要があります。
- [フォント辞書の新規作成] オプションまたは [フォント辞書に追加] オプションを使用している場合、結果が辞書に保存されるため、同じ手順をもう一度実行する必要はありません。
- [終了] をクリックして、ソフトウェアが示す解決策をすべて保存します。

結果が正しくない場合:

- 正しい文字を入力し、[学習] をクリックします。

または

- [学習しない] をクリックして、結果を不確実として保存します。

トレーニングした場合に他の文字と混同される可能性がある損傷した文字に対し、このコマンドを使用します。たとえば、数字の「1」と小文字の「l」は、多くのフォントで同一です。

- [削除] をクリックして、出力から文字を削除します。

文書ノイズが出力ファイルに表示されないようにするには、このボタンを使用します。

- [元に戻す] をクリックして、間違いを訂正します。

Readiris では、直近の 32 回の操作が記憶されます。

- [中止] をクリックしてトレーニングを中止します。

すべてのトレーニング結果が削除されます。次に文書を開くかスキャンする際に、ティーチングモードがもう一度開始します。

セクション 6：画質を調整する

文書の**画質**によって、認識の結果が大きく左右されます。質の悪い文書をスキャンすると、Readiris は正しく認識することができません。

その理由は、Readiris では、テキストの文字の**写真**が、**実際のテキストの文字**に変換されるからです。文書が暗すぎると、文字が隣の文字と一体化して黒い点になってしまいます。文書が明るすぎると、文字がくずれてしまっています。その結果、Readiris は文字を認識することができなくなります。

例 1：テキストが暗すぎる

この例では、文字中の白い部分が黒くなって、文字が不明瞭になります。a、e、oなどの各文字は、完全にぼやけてしまっています。

*"Autoformatting" recreates a *facsimile* copy of the original document: the text blocks, graphics and tables are recreated in the same place and the word and paragraph formatting are maintained across the recognition.*

例 2：テキストが明るすぎる

この例では、テキストの文字間の隙間が広がって、形状が不完全になります。

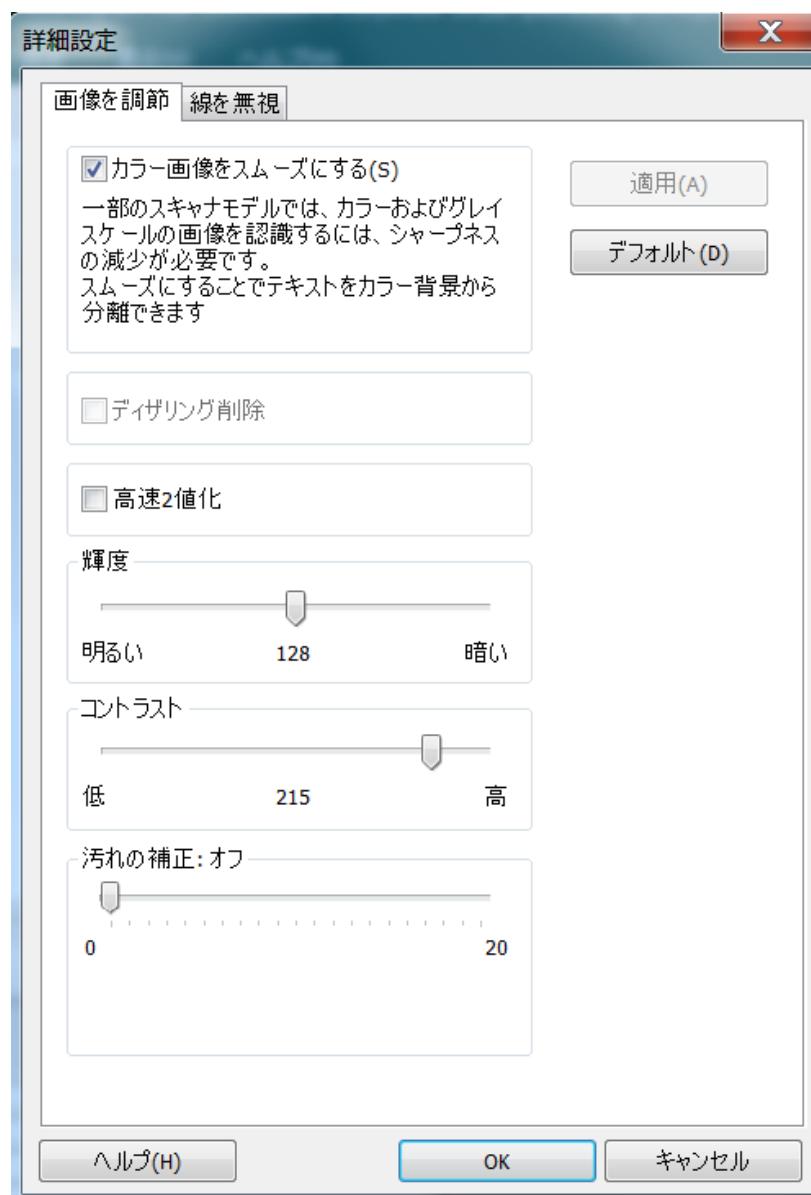
*"Autoformatting" recreates a *facsimile* copy of the original document: the text blocks, graphics and tables are recreated in the same place and the word and paragraph formatting are maintained across the recognition.*

認識結果の改善方法：

- 文書が 300 dpi 以上の解像度でスキャンされたことを確認してください。その設定になっていない場合には、適切な解像度で文書をもう一度スキャンします。
必要に応じて、[スキャナ設定の選択] の項を参照してください。
- [ホーム] タブで [調整] をクリックします。
([ページ] タブでも同じコマンドが利用できます。)



[画質を調整する] タブ



カラー画像をスムーズにする

出荷時の設定では、このオプションが選択されています。これは、強度の差をスムージングして、テキストと背景の間のコントラストを大きくします。カラー背景からテキストを分離するには、スムージングしか方法がない場合も時々あります。

ディザリング削除

背景がカラーで白黒でスキャンされたテキストを含む画像ファイルの場合、スキャンされた白黒ファイルにディザリング（白黒の斑点など）があり、OCRの品質に影響します。

ディザリング処理中、画像情報の一部が失われるため、ディザリングの削除後に生成される画像は元の画像とは異なります。ただし、生成される画像はOCRの品質を改善します。

このツールを使用できるのは、白黒画像に限られます。

高速 2 値化 (Readiris Corporate)

[元のファイル] オプションまたは [スキャナ設定] で [高速 2 値化] を選択した場合、[画像を調整] メニューで同じオプションが選択されます。このオプションは処理時間を大幅に短縮するので、同時に多数の画像ファイルをスキャンしたり読み込む場合に便利です。

ただし、このオプションを選択した場合、[輝度] と [コントラスト] の各オプションを手動で調整することはできなくなります。このオプションを解除すると、これらを手動で調整することができます。

明度

スライダーを動かすと、文書の輝度が増減できます。

例 1：画像が暗すぎる

下の画像は暗すぎるので、単に真っ黒な画像になっています。認識できるようなテキストはありません。

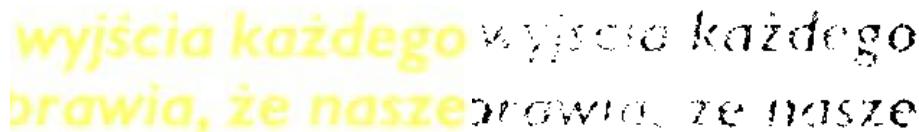


この場合、テキストを表示させるには、画像を明るくする必要があります。

**Verenigde Staten,
een antwoord te vi**

例 2：画像が明るすぎる

下の画像は明るすぎるので、テキストの文字がくずれてしまっています。テキストはほとんど読めません。



この場合、満足のいく結果を得るために、画像を暗くする必要があります。

**wyjścia každego
brawia, że nasze**

コントラスト

スライダーを動かすと、テキストと背景の間のコントラストが増減できます。

例

下の画像ではテキストの文字がくずれてしまっています。



この場合、満足のいく結果を得るために、コントラストを大きくする必要があります。

**A Look at International
Planning the Future**

ノイズ除去

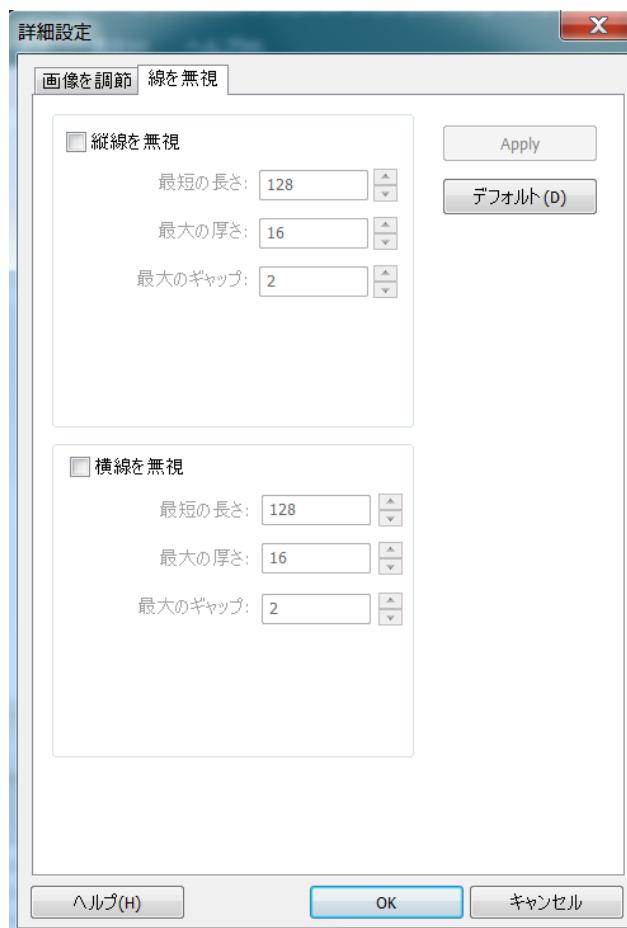
文書にたくさんの「ノイズ」（低画質の文書をスキャンした場合やスキャナの設定が不適切な場合に発生する、小さな黒いしみ）がある場合があります。

この小さな黒いしみを除去するには、[汚れの補正] スライダーを使用します。スライダーを右に動かすほど、大きな斑点状のノイズが除去されるようになります。

画質調整が終わったら：

- [適用]をクリックして、結果をプレビューします。
- 結果に満足できる場合は、[OK]をクリックします。満足できない場合は、設定を再度変更します。

[線を無視] タブ



このオプションを使用して、スキャンされた白黒画像から垂直または水平、もしくは両方のタイプの行を削除して、ページ分析を改善し OCR を容易にすることができます。

最短の長さ：削除する行の最短の長さです。

最大の厚さ：削除する行の最大厚みです。

最大のギャップ：閉じる行のすき間の長さの最大値です（行がくずれている、中断されている場合）。

このツールは、実際には出力ファイルから行を削除しません。

セクション 7: 認識した文書の編集

Readiris では、さまざまな方法で、認識した文書を編集できます。スキャンしたページの回転や傾き補正、および認識ゾーンの編集だけでなく、認識したテキストを **テキストコレクター** で編集することもできます。

詳細は、次のセクションを参照してください。

[ページオプションの変更](#)

[認識ゾーンの編集](#)

[ゾーニングテンプレートの使用](#)

[テキストコレクターの使用](#)

ページオプションの変更

- [ページ] パネルで、変更したいページを選択します。



- 次にメインツールバーの[ページ]タブをクリックします。



整理

[整理] グループの矢印を使うと、他のページに切り替わります。

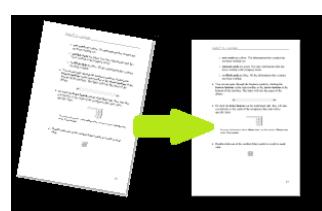
ツール

- Readiris でスキャンして現在開いている白紙ページを削除するには、[白紙ページの削除] をクリックします。
注意：文書に白紙ページがない場合にはこのオプションは利用できません。
スライダーを移動して、どのページを白紙ページであると判断するかを決定します。スライダーを「高い」方に移動させるほど、ページが白紙であると判断される速度が速くなります。
- 全部のページを出力ファイルに含めるには、[すべてのページを含める] をクリックします。
- 全部のページを出力ファイルから除外するには、[すべてのページを除外] をクリックします。

画像ツール

傾き補正

ページが斜めにスキャンされた場合、[傾き補正] をクリックします。



射影歪みの補正

画像に射影歪みの補正を適用するには、[射影歪みの補正] をクリックします。

注意： 良好的な認識結果を得るには、適切な射影歪みの補正をすることが非常に重要です。Readiris は自動的にページ枠やテキストの整列状態を検索して、どの射影歪みの補正を適用すべきかを決定します。



回転

下向き矢印をクリックし、ページの回転方向 (左右、上下) を選択します。

調整

[調整] オプションを使用すると、画質を調整することができます。 [セクション 6：画質を調整する](#) を参照してください。

印刷

このコマンドで、選択したページを印刷することができます。

画像として保存

[ページ] タブでは、ページを画像として保存することもできます。これは、[文書を画像ファイルとして保存](#) のセクションで説明されています。



ヒント： 認識ゾーンを変更したい場合には、[ゾーン] タブをクリックします。その詳細については、[\[認識ゾーンの編集\]](#) のトピックを参照してください。

認識ゾーンの編集

はじめに

Readiris で文書をスキャンしたり、画像ファイルを開いたりする場合、各ページは自動的に**認識ゾーン**に分割されます。それらを表示するには、[ゾーン] タブに移動します。Readiris はこれらのゾーンを使用して、文書の各部分の変換方法を決定します。文書にゾーンがない場合、認識は行われません。

Readiris Pro には、3種の認識ゾーンがあります。これらは、**テキストゾーン**、**画像ゾーン**、**表ゾーン**です。

Readiris Corporate には、**バーコードゾーン**というもう1つのゾーンがあります。

各ゾーンは色分けされています。

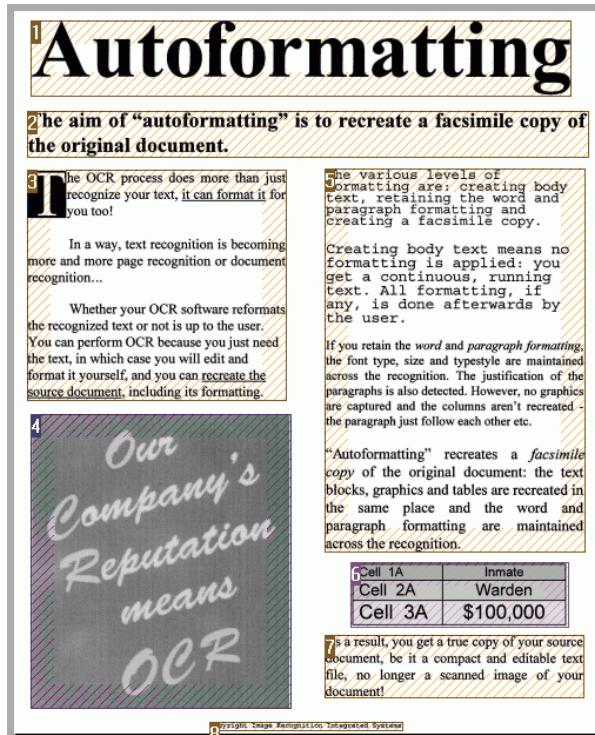
テキストゾーン	オレンジ
画像ゾーン	紫
表ゾーン	ピンク
*バーコードゾーン	緑

*Readiris Corporate のみ。

各ゾーンの左上には番号が付いています。番号は、左上から右下の順に付けられます。これは、ゾーンが認識される順番を示しています。

*注意：アラビア語の文書を処理する際に、アラビア語を主要言語として選択した場合、番号は右から左の順に振られます。

認識ゾーンの例



自動ページ分析の変更

上で説明したゾーンは、[ゾーン] タブをクリックすると自動的に作成されます。ただし、この自動ページ分析は固定されているわけではありません。いくつかの方法で変更することができます。たとえば、手動で新しいゾーンを作成したり、既存のゾーンを変更したり、ゾーンのサイズを拡大縮小したり、ソート順を変更することなどができます。

注意: テキストを編集する場合は [テキストコレクター](#) を使用します。

編集およびレイアウトのオプションにアクセスするには、次の操作を行います。

- Readiris で文書をスキャンするか開きます。
- [ゾーン] タブをクリックします。



編集およびレイアウトのオプション

以下では、Readiris の編集およびレイアウトのオプションの概要を説明します。

注意: レイアウトを変更すると、Readiris はページ全体の認識をもう一度実行します。

手動によるゾーンの描画

Readiris が認識ゾーンを見逃してしまった場合、手動で認識ゾーンを描くことができます。

バーコードゾーンは必ず手動で描区必要があります。

ゾーンを描くには、次の操作を行います。

- [編集] グループで、作成する [ゾーンタイプ] をクリックします。

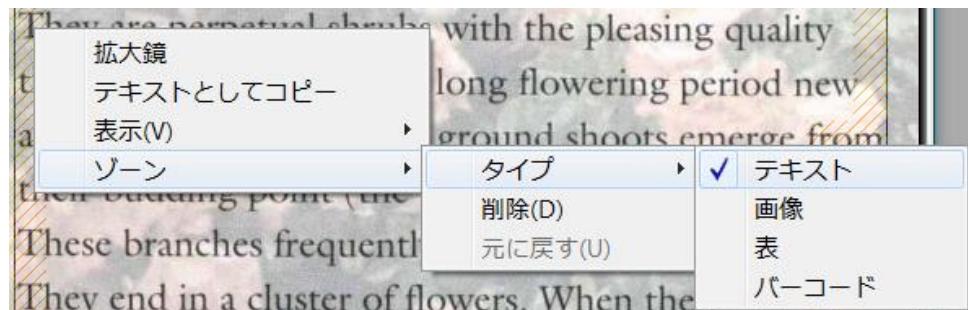


- 次に、マウスの左ボタンを押されたまま、認識するセクションの周囲にフレームを描きます。

ゾーンタイプの変更

画質の悪い文書をスキャンする場合、Readiris はゾーンタイプを正しく判定できないことがあります。その場合、次のように手動でゾーンを変更することができます。

- 変更するゾーンを右クリックします。
- [ゾーン] > [タイプ] にマウスポインタを置き、希望のゾーンタイプをクリックします。



重要: 画質の悪い画像をスキャンする場合、Readiris は正しく認識できない可能性があります。そのような問題を防止するには、「[画質の調整](#)」セクションを参照してください。

複数のゾーンのゾーンタイプの同時変更

画質の悪い文書をスキャンする場合、Readiris はゾーンタイプを正しく判定できないことがあります。その場合、次のように手動でゾーンを変更することができます。

- [編集] グループの [ゾーンを選択] をクリックします。



- Shift** キーを押したまま、変更するゾーンをクリックします。
- 次に、**Shift** キーを押したまま選択したゾーンを右クリックし、[ゾーン] > [タイプ] にマウスポインタを置き、希望のゾーンタイプをクリックします。

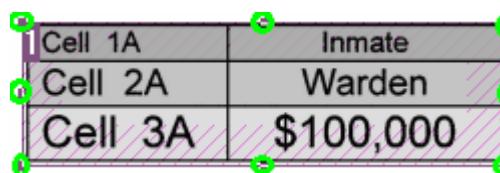
重要: 画質の悪い画像をスキャンする場合、Readiris は正しく認識できない可能性があります。そのような問題を防止するには、「[画質の調整](#)」セクションを参照してください。

ゾーンの拡大または縮小

- [編集] グループで [ゾーンの選択] をクリックします。



- 次に、拡大または縮小するゾーンの内側をクリックします。
- フレーム上の点を 1 つクリックして押されたまま、希望の方向にフレームをドラッグすると、ゾーンを拡大または縮小できます。

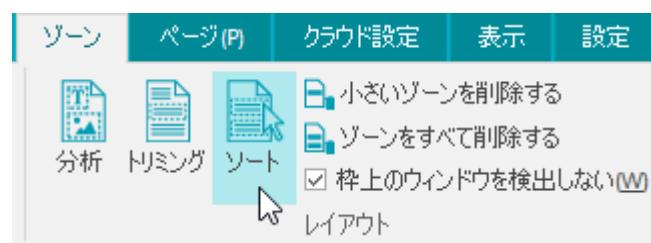


ゾーンのソート順の変更

ゾーンについている番号は、出力した文書に含まれる順番を示します。順番を変更するには、次の操作を行います。

- [レイアウト] グループの [ソート] ボタンをクリックします。

するとゾーンから番号が消えます。



- 並べ替える順に、認識ゾーンを 1 つずつクリックします。

ゾーンの移動

- [編集] グループの [ゾーンを選択] をクリックします。



- 移動するゾーンの内側をクリックし、マウスの左ボタンを押されたまま、希望の位置にフレームをドラッグします。

ゾーンの接続

同じグループに属するゾーンが 2 個あり、それらを 1 個のテキストゾーンにまとめるとします。その場合、次の操作を行います。

- [編集] グループの [テキスト] を選択します。



- 2 個のゾーンの間にテキストゾーンを描き、繋げます。



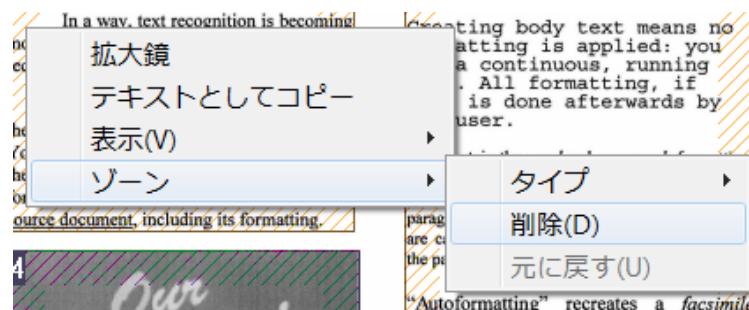
- 2 個のゾーンが 1 つに結合されます。

結合できるのは、同じタイプのゾーンのみです。

ゾーンの削除

認識の対象からゾーンを除外するには、次の操作を行います。

- [編集] グループの [ゾーンを選択] をクリックします。
- Shift キーを押したまま、削除するゾーンを選択します。
- 選択したゾーンのいずれかを右クリックし、[ゾーン] をポイントし、[削除] をクリックします。

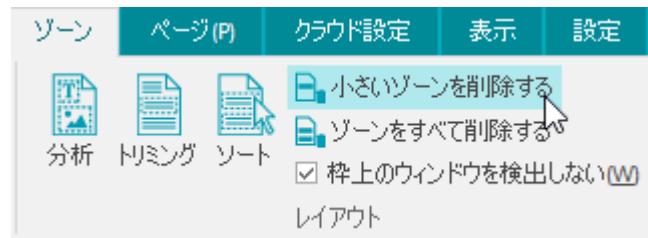


小さいゾーンの削除

文書にたくさんの「ノイズ」（低画質の文書をスキャンした場合やスキャナの設定が不適切な場合に発生する、小さな黒いしみ）が含まれる場合があります。この場合、役に立つ情報が含まれていないにも関わらず、Readiris はノイズを認識ゾーンとしてマーキングする傾向にあります。

このゾーンを認識から除外するには、次の操作を行います。

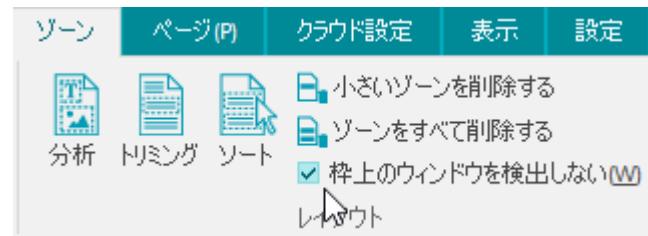
- [小さいゾーンを削除する] オプションをクリックします。
- このオプションは、1.27cm 未満のすべてのウィンドウを消去し、残りのゾーンをソートし直します。



枠上のゾーンを無視

スキャナによって文書の周囲に黒枠が作成された場合、役に立つ情報が含まれていないにも関わらず、Readiris は黒枠を認識ゾーンとしてマーキングする傾向にあります。

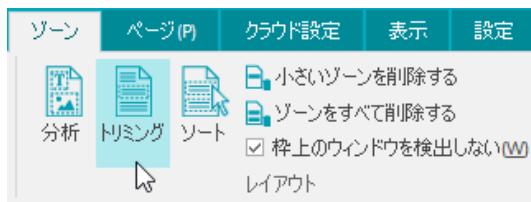
この場合、オプション [枠上のウィンドウを検出しない] を使用するようお勧めします。すると、認識の際にそのような枠ゾーンが除外されます。



特定のゾーンを無視

文書のページの一部分にしかコンテンツが含まれない場合、[トリミング] オプションを使用して、ページのその他の部分を認識から除外することができます。

- [レイアウト] グループの [トリミング] をクリックします。



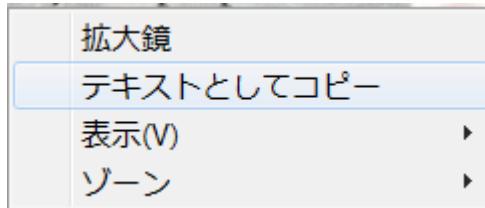
- 情報が含まれている部分の周囲にフレームを描きます。フレームの外はすべて無視されます。

注意: すべての文書のレイアウトが似通っている場合、このオプションを使用してゾーニングテンプレートを作成することができます。詳細は、「[ゾーニングテンプレートの使用](#)」を参照してください。

特定のゾーンのコンテンツの認識

特定のテキストゾーンのコンテンツのみを認識する際に、完全に変換された出力文書が必要でない場合は、[テキストとしてコピー] オプションを使用することができます。

- 認識するテキストゾーンを右クリックします。
- 次に、[テキストとしてコピー] をクリックします。



結果は、本文としてクリップボードにコピーされます。コピーされたテキストを他のアプリケーションに貼り付けることができます。

ゾーニングテンプレートを使用

外観が類似している文書を多数処理したい場合、毎回認識領域を編集する代わりに、**領域テンプレート**を適用すると便利です。領域テンプレートには、文書の外観、および、テキスト、写真、表の各領域の位置を指示することができます。こうすることによって、Readiris は、指定されたエリアのみを検索するので、処理時間が大幅に節約されます。

領域テンプレートを作成する方法：

- 最初の文書をスキャンします。
- [ゾーン] タブをクリックして、希望通りにゾーンを編集します。
その詳細については、[認識領域の編集] を参照してください。
- [保存]をクリックして、ゾーニングテンプレートを保存します。



領域テンプレートを使用する方法：

- Readiris で文書をスキャンするか、文書を開きます。
- [ゾーン] タブで[開く] をクリックします。
- ご希望のレイアウトオプションを選択します。
- Readiris で開いたすべてのページにこのレイアウトを適用したい場合には、[すべてのページにこのレイアウトを適用] を選択します。
- 次に [開く] をクリックします。

テキストコレクターを使用する

テキストコレクターを使用すると、認識結果を編集することができます。

テキストコレクターにアクセスするには：

- メインツールバーの[テキストコレクター]をクリックします。

注意：[テキストコレクター] コマンドは、Readiris で 1 つ以上の文書が開いているときにのみ利用できます。



テキストコレクターのしくみ

テキストコレクターには、現在選択されているページの認識結果が表示されます。左の列に元の画像が表示され、右の列に認識テキストが表示されます。デフォルトでは、テキストコレクターは、**縦向き**、すなわち、列を左右に並べた状態で表示されます。

横向き表示に切り替えるには、[横向き] を選択します。すると、列を上下に並べた状態で表示されます。

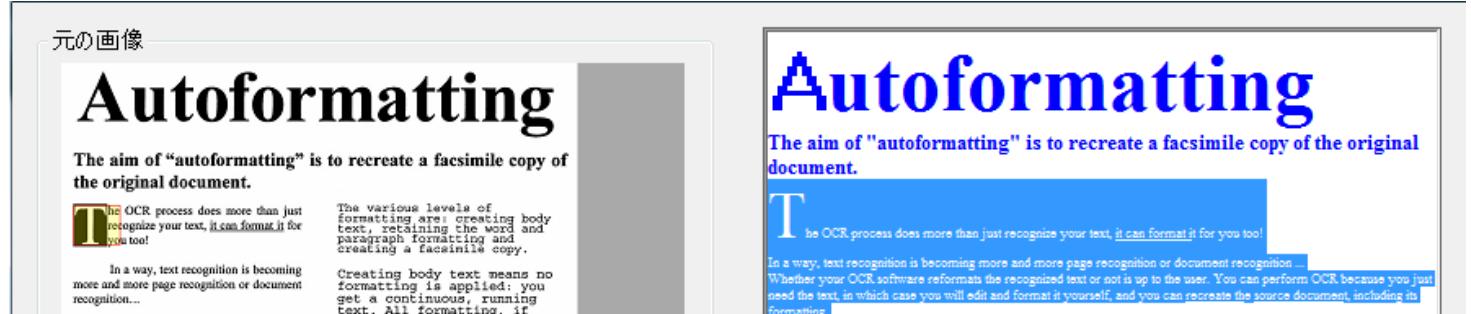


縦向き表示

認識間違いの可能性がある語は、赤枠で囲まれた黄色でマーキングされます。

語を修正するには：

- 認識したテキストの列の内側をクリックします。
- 修正をタイプします。
- 不要な結果を削除するには、キーボードの [削除] ボタンを押します。
- また、カーソルで語や段落全体を選択して、「削除」を押すと、それらを削除することができます。
- 編集操作を元に戻すには、キーボードで **Ctrl+Z** を押します。
- 操作をやり直すには、キーボードで **Ctrl+Y** を押します。



注意：認識結果には画像は表示されませんが、もちろん、出力ファイルには含まれます。

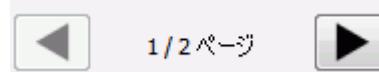
注意：表を含む文書を開くと、認識結果で表はプレーンテキストとして表示されるが出力ファイルにも含まれることを通知する警告文が、表示されます。表の内容は完全に編集可能です。

注意：テキストコレクターでは、アラビア語やヘブライ語など、右から左に書く言語はサポートされません。

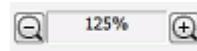
- 認識間違いの可能性がある次の語に切り替えるには、対応するボタンをクリックするか、キーボードの **F3** を押します。

間違いの可能性がある次の語に進む

- 別のページに移動するには、左向きまたは右向きの矢印をクリックします。



- 元の画像や認識結果を拡大・縮小するには、対応するズームコマンドを使用します。



- 元の画像と認識したテキストのズーム レベルを連結し、同期表示するには、以下のボタンをクリックします。



- 結果の編集が済んだら、[OK]をクリックして確認します。
- 編集内容をすべてキャンセルするには、[キャンセル] ボタンをクリックし、[はい] を選択して中止します。

セクション 8: PDF エクスポートの注釈の追加

注釈の使用

注釈オプションを使用すると、文書に、さまざまなタイプのコメントを追加することができます。

警告:

これらの注釈は、PDF フォーマットにエクスポートする場合にのみサポートされており、最終文書に含められます。PDF ビューアである Acrobat Reader を使うと、最適な結果が表示されます。他の PDF ビューアを使用すると、良い結果が得られるとは限りません。

注釈ツールにアクセスするには

- メニューバーの [PDF] タブをクリックします。



- リボンには、注釈を追加するコマンドが表示されています。
- 画面の右側に [PDF の注釈] パネルが表示されます。このパネルには、現在のページに保存されている注釈がリスト表示されます。

A screenshot of the software interface showing the PDF toolbar, a document page with annotations, and the 'PDFの注釈' panel. The toolbar is identical to the one in the previous screenshot. The document page shows a large title 'e a facsimile copy of' and a paragraph of text with several annotations: a redaction box, a yellow sticky note with the text 'The various levels of formatting are: creating bodytext, retaining the word and text, retaining the word and paragraph formatting and creating a facsimile copy.', and a sticky note with the text '付箋: メモ This is a sticky note'. The 'PDFの注釈' panel on the right lists these annotations. The 'Readirisストア' button is visible in the top right corner.

注釈タイプ

サポートされている注釈タイプは、次のとおりです。

- テキスト読み上げ
- 透かし
- 付箋
- 自由テキスト
- Web リンク
- 音声の録音
- ファイルの添付
- テキストの強調表示、下線、または取り消し線

すべての注釈は、保存されると、特定の日付と作成者のユーザー名に関連付けられます。これらの情報は、注釈のタイプに応じて、出力された PDF 文書に表示されます。付箋と音声の録音の場合です。

ページが変更された場合 (回転、テキスト編集など)、注釈は維持され、必要に応じて位置が再調整されたり回転されたりします。

ページの注釈を削除するには

3 つの方法があります。

[注釈] パネルのリスト:

1. 削除する注釈タイプを右クリックします。コンテキストメニューが開きます。
2. [削除] を選択します。



または、ページ上:

1. アイコンを右クリックします。コンテキストメニューが開きます。
2. [削除] を選択します。

または、キーボードの使用:

1. ページまたは注釈リストの注釈を選択します。
2. **Delete** キーを押します。

ページにある既存の注釈を編集するには

3 つの方法があります。

[注釈] パネルのリスト:

1. 編集する注釈タイプをダブルクリックします。[編集] ウィンドウが開きます。

または

1. 編集する注釈タイプを右クリックします。コンテキストメニューが開きます。
2. [編集...] を選択します。



または、ページ上

1. アイコンをダブルクリックします。[編集] ウィンドウが開きます。

注釈ツールを終了するには

- [PDF] タブを閉じます。

PDF としてエクスポートするには

- リボンの [PDF] ボタンをクリックします。[出力] ダイアログボックスが開きます。

その他の PDF 設定:

1. [PDF] ボタンの下にある下向き矢印をクリックします。
2. [PDF 設定] を選択します。



警告:

PDF以外のフォーマットを選択してエクスポートする場合は、警告ポップアップウィンドウが表示されます。注釈は、PDF以外のフォーマットではサポートされていません。

「このメッセージを今後表示しない」オプションを選択できます。

Readiris

選択した出力フォーマットは、定義したPDF注釈をサポートしていません。PDF注釈は出力ファイルに保存されません。

今後、このメッセージを表示しない。

OK

キャンセル

注釈タイプ

テキスト読み上げ

テキスト読み上げ (TTS) システムは、通常言語のテキストをスピーチに変換します。このタイプの注釈を使用することで、PDF としてエクスポートした後に、テキストを読み上げることができます。

文書にテキスト読み上げを追加するには、次の操作を行います。

[PDF] タブで:

1. リボン にある [テキスト読み上げ] をクリックします。編集ボックスが開きます。
2. [テキスト読み上げ] をオンにします。[OK] をクリックします。
3. テキスト読み上げエンジンが変換を実行します (「[アクティビティ] パネル」を参照)。注釈タイプがアクティブであることを示すために、PDF 注釈パネルに表示され、ページの右上にスピーカーのアイコンが表示されます。



デフォルトの機能は次のとおりです。

- テキスト読み上げは、文書のすべてのページに追加されます。オプションとして、選択したページの PDF エクスポートでテキスト読み上げを無効化できます。
 - [ページ] パネルで対象のページを選択し、右クリックして **コンテキストメニュー**を開きます。[このページの TTS を無効化] オプションを選択します。
 - [PDF の注釈] パネルで、テキスト読み上げタイプを右クリックし、[このページの TTS を無効化] オプションを選択します。注釈タイプが灰色になります。

同じ要領で、ページの TTS をもう一度有効化します。



注意:

- **テキスト読み上げ** 注釈は、新しい文書での作業を開始した際にリセットされません。
- 有効化されている場合、**テキスト読み上げ** 注釈は、バッチ処理、監視フォルダモード、または Windows エクスプローラで右クリックにより 変換 されて作成される **PDF** 文書にも追加されます。

音声と言語

出荷時の設定では、Windows は Windows インターフェース構成に含まれる「音声」を使用しています（【設定】>【時刻と言語】>【地域と言語】>【言語】）。音声や言語に関する詳細は、Windows ヘルプを参照してください。

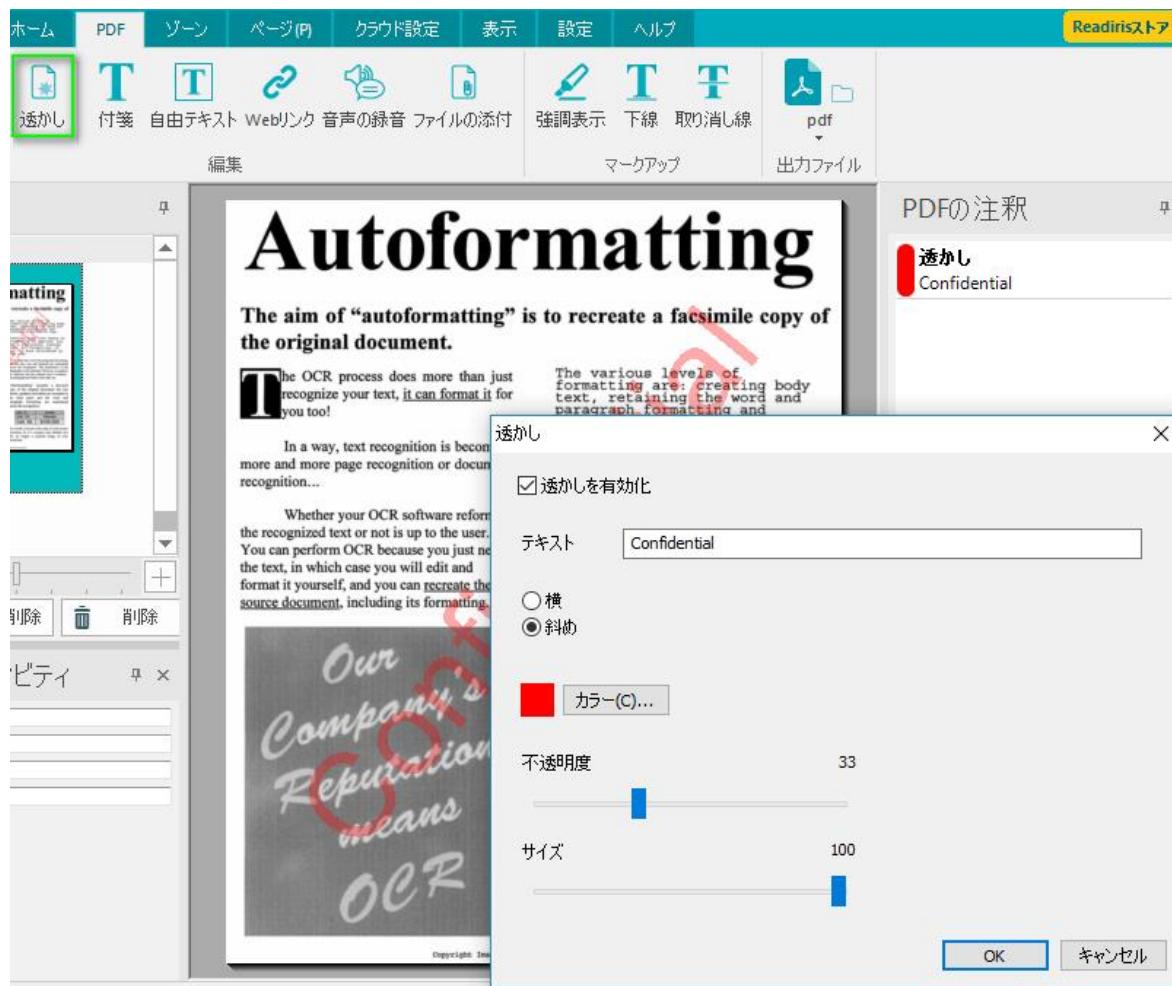
透かし

透かし注釈は、文書のページに上に描かれるテキストです。

透かしを追加するには、次の操作を行います。

[PDF] タブで:

1. リボンの [透かし] をクリックします。編集ボックスが開きます。
2. [透かしを有効化] をオンにします。
3. 透かしを定義して編集します。
4. [OK] をクリックします。



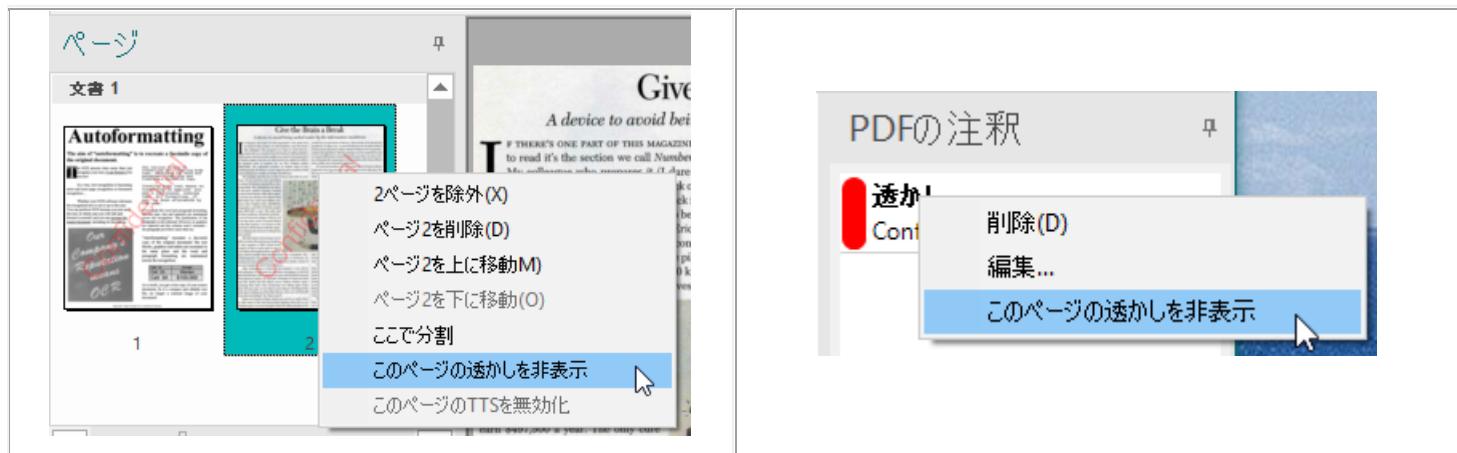
編集オプション:

- テキストの定義
- テキストの方向: 水平または斜め
- テキストの色
- テキストの不透明度 (0~100%)
- テキストのサイズ (0~100%)

透かしのデフォルトの機能は、次のとおりです。

- テキストは單一行です。
- テキストは、ページに対し縦横の中央に配置されます。
- テキストのフォントスタイルは事前に定義されています。
- 透かしは、文書のすべてのページに追加されます。オプションとして、選択したページの PDF エクスポートで透かしを非表示にできます。
 - [ページ] パネルで対象のページを選択し、右クリックしてコンテキストメニューを開きます。[このページの透かしを非表示] オプションを選択します。
 - [PDF の注釈] パネルで、透かしタイプを右クリックし、[このページの透かしを非表示] オプションを選択します。注釈タイプが灰色になります。

同じ要領で、ページの透かしをもう一度表示します。



透かしを削除するには、次の操作を行います。

- リボンの [透かし] をクリックするか注釈リストの透かし注釈をダブルクリックして、編集ダイアログボックスを開きます。
- [透かしを有効化] をオフにします。
- [OK] をクリックします。

注意:

- PDF ファイルにエクスポートする場合、透かしは恒久的に表示されます。表示または印刷時に非表示にすることはできません。
- 透かし属性は、新しい文書の作成が開始される際にリセットされませんが、Readiris にページがインポートされていない場合でも設定または編集できます。
- 透かしは、バッチ作成の文書、監視フォルダモードの文書、または Windows エクスプローラで右クリックして変換された文書にも追加されます。

付箋

付箋注釈は、ページ上の任意の場所に配置できるメモです。アイコンとして表示され、中にテキストが含まれます。アイコンの上にマウスポインタを合わせると、テキストのコンテンツがツールヒントとして表示されます。

付箋を追加するには、次の操作を行います。

[PDF] タブで:

1. [リボン](#)にある [付箋] をクリックします。
2. メモのアイコンを挿入するページの場所をクリックします。編集ボックスが開きます。
3. ドロップダウンリストから**付箋のタイプ**を選択します。
4. 付箋の色を選択します。
5. テキストボックスにテキストを入力します。
6. [OK] をクリックします。
7. 付箋を選択して**移動カーソル**が表示されたら、その位置を移動できます。



編集オプション:

- アイコンの色
- 付箋には次のようなタイプがあります。
 - コメント: 吹き出しのアイコンで示されます
 - メモ: メモ帳マークのアイコンで示されます
 - ヘルプ: 疑問符アイコンで示されます
 - 重要: 鍵アイコンで示されます



- テキストコンテンツ: テキストの編集はテキストボックスで行われ、[注釈] パネルに表示されます。

注意: 付箋に使うテキストの色またはフォントを編集することはできません。PDF フォーマットではサポートされていません。

自由テキスト

自由テキスト注釈は、文書のページ上に追加される 1 行以上のテキストです。

自由テキストを追加するには、次の操作を行います。

[PDF] タブで：

1. リボンにある [自由テキスト] をクリックします。
2. 自由テキストを表示するページ内の場所をクリックします。編集ボックスが開きます。
3. テキストボックスにテキストを入力します。
4. [OK] をクリックします。
5. ページ上にサイズ変更アイコンが表示されると、ボックスのサイズを変更できます (幅  または高さ  、または両方 )。テキストボックスの枠の周りにマウスをドラッグします)。
6. 自由テキストを選択して **移動カーソル** が表示されたら、その位置を移動できます。

編集オプション：

- テキストの **色** (および選択されている場合は引き出し線)
- テキストの **フォントサイズ**
- テキストの **整列**: 左、中央、右
- **引き出し**としての自由テキスト。 **引き出し線**が選択されている場合、テキストボックスに小さな「尾」が付きます。その線の終点をページの任意の場所にドラッグアンドドロップすることができます (**移動カーソル** を使用)。終点を移動すると、引き出し線が注釈テキストの上に描かれないように、始点の場所が自動的に更新されます。



自由テキストのデフォルトの機能:

- テキストは、半透明な白い背景上に描かれます。こうすることで、その後ろにあるコンテンツが完全に隠れることがなく読みやすくされています。
- 自由テキストのコンテンツは、PDF エクスポートで定義し直すことができます。

Web リンク

Web リンク注釈を使用すると、ページの任意の場所に URL を含めることができます。

Web リンクを追加するには、次の操作を行います。

[PDF] タブで:

1. リボンにある [Web リンク] をクリックします。
2. Web リンクを表示するページ内の場所をクリックします。編集ボックスが開きます。
3. テキストボックスに URL を入力します。
4. [OK] をクリックします。
5. Web リンクを選択して **移動カーソル** が表示されたら、その位置を移動できます



編集オプション:

- テキストとボーダーの色



注意: ページに Web リンクのボックスのみが表示され、テキストは表示されません。ボックスの上にマウスポインタを合わせると、URL がツールヒントとして表示されます。PDF エクスポートでは、カーソルがハンドツールのアイコンに変わり、クリックする URL があることを示します。

音声の録音

音声注釈は、ファイルに埋め込まれた短い録音です。

音声の録音を追加するには、次の操作を行います。

[PDF] タブで:

1. リボンにある [音声の録音] をクリックします。
2. 音声の録音のアイコンを挿入するページの場所をクリックします。編集ボックスが開きます。
3. ドロップダウンリストから**アイコンのタイプ**を選択します。
4. アイコンの色を選択します。
5. 録音ボタンを使用して、音声注釈を録音します。
6. [OK] をクリックします。
7. 音声コメントを選択して**移動カーソル**が表示されたら、その位置を移動できます 。

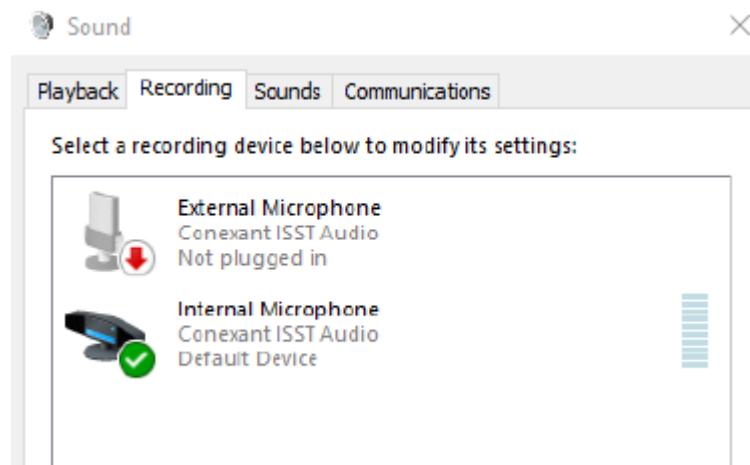
編集オプション:

- アイコンの**タイプ**: スピーカー  またはマイク 
- アイコンの**色**
- 録音ボタン**:
 - 録音: [録音] をクリックすると、録音が開始します。
 - 停止: [停止] をクリックすると、録音または再生が停止します。
 - 再生: [再生] をクリックすると、録音が再生します。



音声記録のデフォルトの機能:

- 録音ボタンは関連性のある場合にのみ有効化されます。
- 音声の録音の登録には、PC の内蔵マイクが使用されます。音声入力用のデバイスを変更するには、【サウンドの設定】または【デバイスマネージャ】を参照してください。Windows ヘルプではより詳しい情報を確認できます。



Windows 10 のサウンド設定

PDF エクスポートの音声注釈を再生するには、次の操作を行います (Acrobat Reader)。

1. スピーカーアイコンをクリックします 。デバイスのデフォルトの音声出力で、録音が再生されます。

ファイルの添付

ファイルの添付注釈は、文書内の選択した場所にファイルを埋め込むため、PDF としてエクスポートした後に、そのファイルを開いて表示することができます。ファイルをコメントとして添付することによって、付箋やテキストボックスに簡単に貼り付けられない長い文書を参照することができます。添付を表示するには、その添付を開くことのできるアプリケーションがインストール済みである必要があります。

ファイルの添付を追加するには、次の操作を行います。

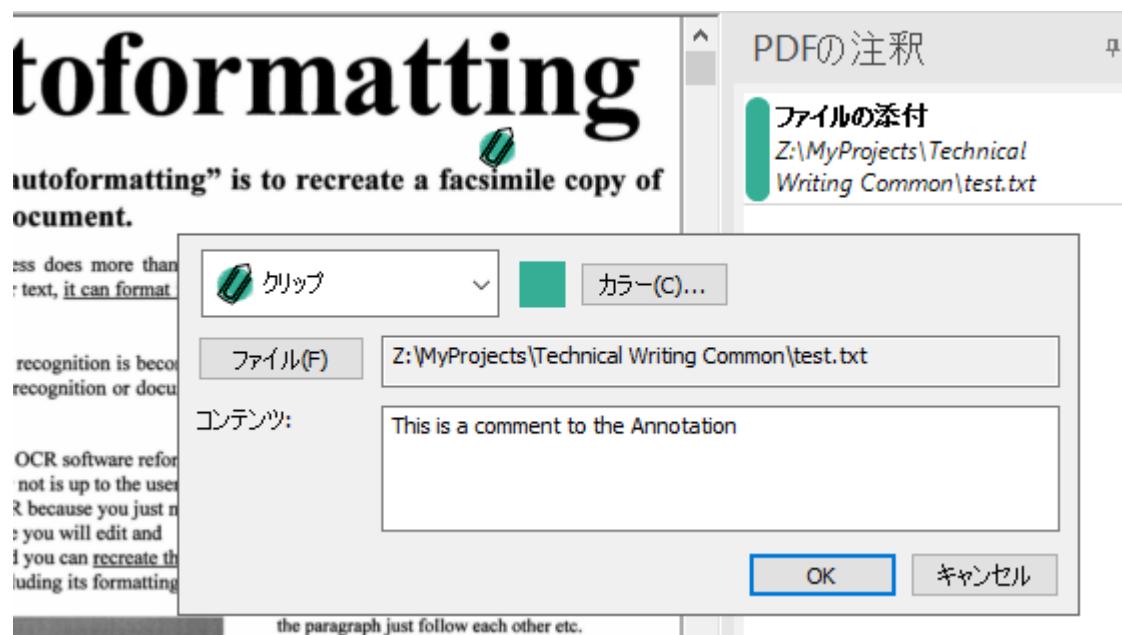
[PDF] タブで:

1. リボンにある [ファイルの添付] をクリックします。
2. 添付ファイルのアイコンを表示するページ内の場所をクリックします。
3. ファイルのブラウザウィンドウが開きます。添付する文書を選択し、[開く] をクリックします。
4. [編集] ウィンドウが開きます。[OK] をクリックします。注釈が作成されます。
5. アイコンを選択して **移動カーソル** が表示されたら、その位置を移動できます



編集オプション:

- アイコンの色
- アイコンのタイプ:
 - クリップ:
 - 押しピン:
- コンテンツ/コメント: 一部の PDF ビューアでは、このコンテンツまたはコメントはマウスカーソルがアイコンの上に移動したときに表示されます。



テキストの強調表示、下線、または取り消し線

これらのテキスト注釈により、既存のテキストにグラフィック効果が追加されます。

既存のテキストに強調表示、下線、または取り消し線を追加するには、次の操作を行います。

[PDF] タブで:

1. リボンにある 3 つのマークアップから 1 つを選択します。



2. 画像ビューでテキストを選択することによって、テキストの強調表示、下線、または取り消し線を作成します。
3. 注釈は、選択が完了すると作成されます。

編集オプション:

- マークアップの色
- コンテンツ/コメント: 一部の PDF ビューアでは、このコンテンツまたはコメントはマウスカーソルがアイコンの上に移動したときに表示されます。

The aim of “autoformatting” is to recreate a facsimile copy of the original document.

The OCR process does more than just recognize your text, it can format it for you too!

In a way, text recognition is becoming more and more page recognition or document recognition...

Whether your OCR software reformats the recognized text or not is up to the user. You can perform OCR because you just need the text, in which case you will edit and format it yourself, and you can recreate the source document, including its formatting.

Color selection dialog:

PDFの注釈

強調表示

The various levels of formatting are: creating body text, retaining the word and text, retaining the word and paragraph formatting and creating a facsimile copy.

下線

Creating body text means no formatting is applied: you get a continuous, running text. All formatting, if any, is done afterwards by the user.

取り消し線

If you retain the word and paragraph formatting, the font type, size and typestyle are maintained across the recognition. The justification of the paragraphs is also detected. However, no graphics are captured and the columns aren't recreated - the paragraph just follow each other etc.

注意: 1 つの同一のテキスト選択のタイプは、保存後に変更または編集できません。この場合、一旦削除してからもう一度作成する必要があります。

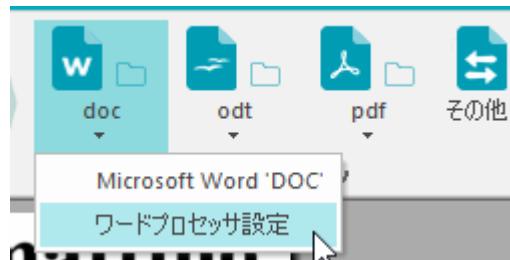
セクション 9：文書の保存

Readiris で処理した文書は、プレーン テキスト ファイルから、完全レイアウト済み Word および Excel ファイル、さらに、PDF や XPS ファイルに至るまで、多数の出力フォーマットで保存できます。

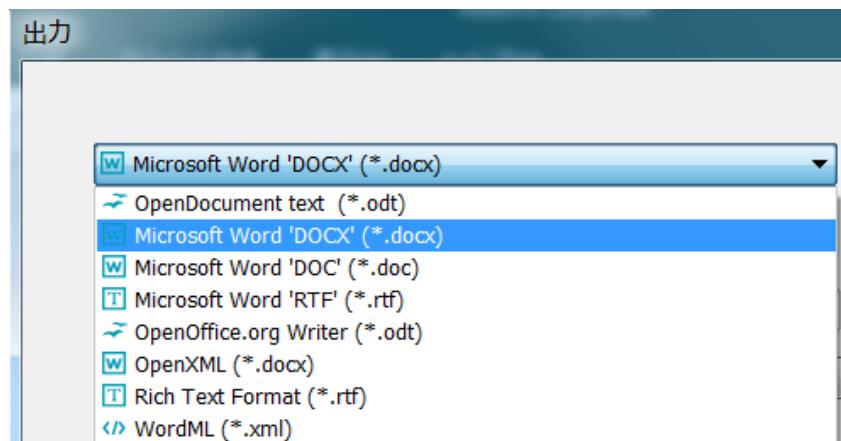
Readiris を使用すると、画像 PDF (テキストを選択したりコピーできない) を、完全テキスト検索可能な PDF 文書に変換することもできます。画像 XPS 文書にも同じことが適用されます。

出力フォーマットを選択するには：

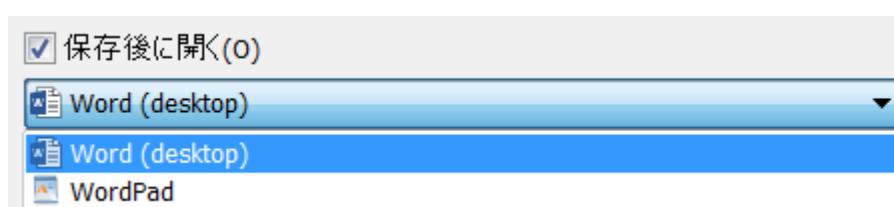
- メインツールバーの[出力]グループで一般的な出力フォーマットのいずれかをクリックします。
最近選択された 3 つの出力フォーマットが表示されます。初めて Readiris を使用する際のデフォルト出力フォーマットは、.docx、.pdf、.txt の 3 つです。
利用可能な出力フォーマットに関する詳細は、[\[利用可能な出力フォーマット\]](#)をご参照ください。
- フォーマットの設定を構成するには、その下にある下向き矢印をクリックします。



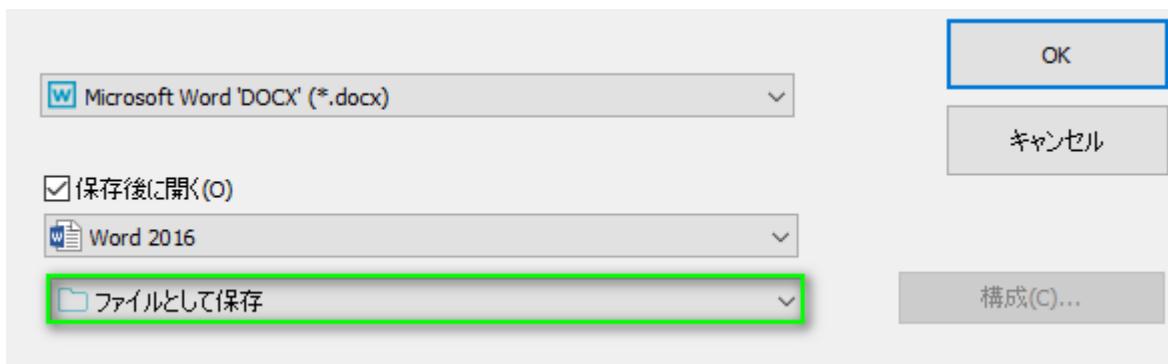
- 最初のドロップダウンリストでファイル拡張子を選択します。



- 処理後直ちに出力ファイルを開きたい場合、[保存後に開く] を選択します。
 - 2 番目のドロップダウンリストには、コンピュータにインストールされていて選択されたファイルフォーマットを開くことができるアプリケーションが表示されます。
 - リストからお好みのアプリケーションを選択します。



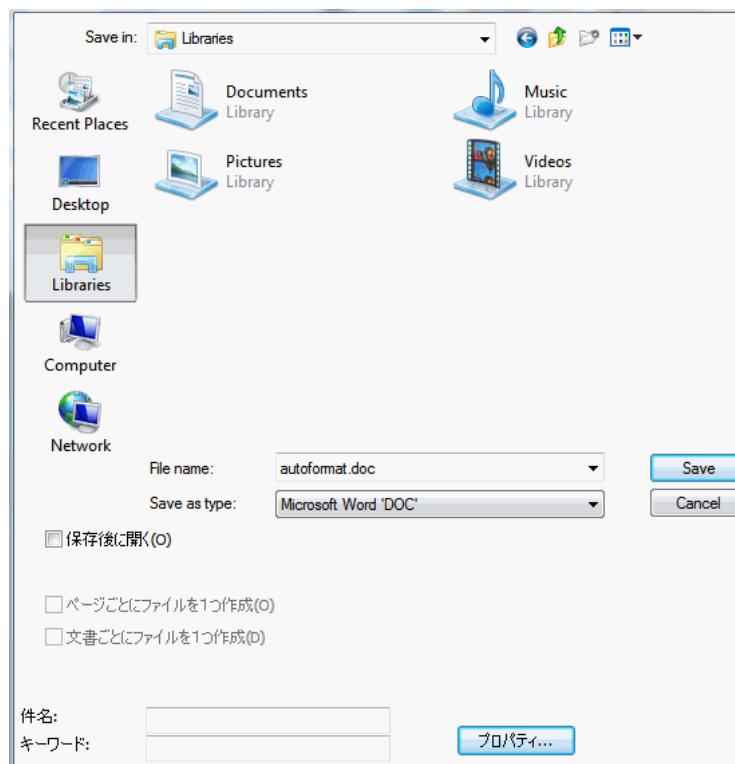
- 3番目のドロップダウンリストで送信先を選択することができます。
デフォルトでは、出力ファイルは、コンピュータに**ファイルとして保存**されます。
クラウド送信先も選択することができます。詳細に関しては、「[セクション 9：文書をクラウドに送信する](#)」をご参照ください。



- 画面下のタブでフォーマットオプションを選択します。

注意：選択されたフォーマットで利用できる設定のみが利用できます。詳細に関しては、「[フォーマットオプションの選択](#)」をご参照ください。

- [OK] をクリックすると、文書が変換されて保存されます。
- Readiris が処理を完了すると、[出力ファイル] ウィンドウが開きます。出力ファイルに名前を付けます。



注意：出荷時の設定では、Readiris は、1つの出力ファイルに全部のページを保存します。スキャンされたページごとに別々のファイルを作成したい場合には、[ページごとに 1 つのファイルを作成] を選択します。

[文書ごとにファイルを 1 つ作成] オプションが存在するのは、ページと文書の間で区別がつく Readiris Corporate のみであることに注意してください（異なる文書にページを分割したり、保存するなど）。

注意：文書を保存しても、Readiris インターフェースから自動的に削除されません。このため、必要に応じて、設定を変更したり、別のフォーマットで文書を保存することもできます。

PDF 文書に追加

既存の PDF 文書にページを追加することができます。

- 出力フォーマットとして PDF を選択します。
- [PDF 出力フォーマット] ボタンをクリックします。
- 既存の PDF 文書を選択し、[保存] をクリックします。
- Readiris が、既存のファイルを追加するか、それとも上書きするか尋ねてきます。
- 文書にページを追加する場合には、[追加] を選択します。



Readiris で新しいプロジェクトを開始する

Readiris で新しいプロジェクトを開始するには：

- [ページ] パネルの下にあるゴミ箱 [すべて削除] アイコンをクリックします。このコマンドを実行すると、Readiris から文書が削除されるので、新しいプロジェクトを開始することができます。



利用できる出力フォーマット

サポートされている出力フォーマットの概要を説明します。

• PDF

PDFは「Portable Document Format (ポータブルドキュメントフォーマット)」の略です。これは、文書の交換を容易にする目的で、Adobe Systems Inc.によって開発されたフォーマットです。PDFファイルは、デバイスや解像度と一切関係なく、あらゆるオペレーティングシステム (Windows、Mac OS、Linux、iOS、Androidなど) でも開くことができるフォーマットです。PDFファイルは、主に、保管目的で使用されます。PDFファイルのコンテンツは(簡単には)編集できません。

Readirisでは、4種類のPDFファイルを作成できます。

- **PDF 画像-テキスト (= PDF 検索可能画像)**。最も一般的に使用されるファイルタイプです。これには、認識されたテキストのレイヤーと、そのテキストの上に配置される画像化された元の文書のレイヤーが含まれます。こうすることにより、認識されたテキストにアクセスできると同時に、画像化された元の文書を見るることができます。

注意: テキストは画像に覆われているため、認識ミスを視覚的に確認することはできません。

- **PDF 画像**。このファイルタイプを選択すると、Readirisは文書に対してテキスト認識を実行しません。PDFファイルはテキスト検索可能なファイルではなく、画像化された元の文書のみを含みます。
- **PDF テキスト-画像 (Readiris Corporate のみ)**。このファイルタイプは、PDF 画像-テキストの逆です。これは、画像化された元の文書が背景に埋め込まれ、認識されたテキストがその画像の上に配置されます。

注意: このフォーマットでは、認識ミスがはっきりとわかります。

- **PDF テキスト (Readiris Pro および Corporate)**。このファイルタイプには、認識されたテキストは含まれますが、画像化された元の文書は含まれません。PDFファイルには、元の文書に含まれるすべての画像はグラフィックとして含まれます。

注意: PDFファイルには、多数のオプションが用意されています。Readirisでは、超圧縮されたPDFファイル、パスワード保護されたPDFファイル、PDFファイル、PDF/A準拠のPDFファイルを作成できます。詳細は、「[PDFオプションの選択](#)」セクションを参照してください。

 **ヒント:** Readirisを使用すると、画像 PDF をテキスト検索可能な PDF に変換することができます。

• XPS

XPSは「XML Paper Specification」の略です。これは、Microsoft社が開発した、文書の忠実度を維持するための固定レイアウト書式です。XPSファイルは、PDFファイルと同様に、主に保存目的に使用されます。XPSファイルのコンテンツは、(簡単には)編集できません。

Readirisでは、4種類のXPSファイルを作成できます。

- **XPS 画像-テキスト**。最も一般的に使用されるファイルタイプです。これには、認識されたテキストのレイヤーと、そのテキストの上に配置される画像化された元の文書のレイヤーが含まれます。こうすることにより、認識されたテキストにアクセスできると同時に、画像化された元の文書を見ることができるようになっています。

注意: テキストは画像に覆われているため、認識ミスを視覚的に確認することはできません。

- **XPS 画像**。このファイルタイプを選択すると、Readiris は文書に対してテキスト認識を実行しません。XPS ファイルはテキスト検索可能なファイルではなく、画像化された元の文書のみを含みます。
- **XPS テキスト-画像 (Readiris Corporate のみ)**。このファイルタイプは、XPS 画像-テキストの逆です。これは、画像化された元の文書が背景に埋め込まれ、認識されたテキストがその画像の上に配置されます。

注意: このフォーマットでは、認識ミスがはっきりとわかります。

- **XPS テキスト (Readiris Corporate のみ)**。このファイルタイプには、認識されたテキストは含まれますが、画像化された元の文書は含まれません。XPS ファイルには、元の文書に含まれるすべての画像はグラフィックとして含まれます。

注意: Readiris では、超圧縮された XPS ファイルも作成できます。詳細は、「[XPS オプションの選択](#)」セクションを参照してください。

• RTF

RTF は、「Rich Text Formatting (リッチテキストフォーマット)」の略です。これは、文書の交換を容易にする目的で、Microsoft 社によって開発された無料文書ファイルフォーマットです。Microsoft Word など、大部分のテキストプロセッサで RTF 文書の読み書きができます。

このフォーマットでも、各種のフォーマットレベルが利用できます。詳細は、「[フォーマットオプションの選択](#)」セクションを参照してください。

• DOCX

DOCX は、Microsoft Word 2007 以降で使用される、標準的なテキストプロセッサ書式です。このファイルフォーマットは、XML 「extensible markup language」、(拡張可能なマーク付け言語) フォーマットに基づいています。

DOC や RTF 文書と同じレイアウトオプションを利用できます。詳細は、「[フォーマットオプションの選択](#)」セクションを参照してください。

• DOC

DOC は、Microsoft Word 2003 以前で使用されていた標準フォーマットです。

.doc 文書では、多数のレイアウトレベルが利用できます。詳細は、「[フォーマットオプションの選択](#)」セクションを参照してください。

DOC ファイルを作成するには、お使いのコンピュータに Microsoft Word をインストールする必要があります。

- **ODT**

ODTは「Open DocumentText (オープンドキュメントテキスト)」の略です。これは、オープンソースのファイルフォーマットです。

ODTはOpenOffice互換のテキストプロセッサで開くことができます。

利用可能なレイアウトオプションについては、「[フォーマットオプションの選択](#)」セクションを参照してください。

- **SpreadsheetML (xml)**

SpreadsheetMLは、Microsoft社が開発したXML派生ファイルフォーマットです。これは、Microsoft Excel 2003の標準スプレッドシートフォーマットです。このフォーマットは、多数の表や図がある文書を処理する際に便利です。

SpreadsheetMLでは、それ専用のレイアウトオプションを利用できます。詳細は、「[SpreadsheetML オプション](#)」セクションを参照してください。

- **XLSX**

XLSXは、Microsoft Excel 2007以降で使用される、標準的なスプレッドシートファイルフォーマットです。

XLSXファイルはOpen XML標準を使用して作成されます。XLSXファイル内の各セルは、異なるフォーマットに設定することができます。

利用可能なレイアウトオプションについては、「[フォーマットオプションの選択](#)」セクションを参照してください。

- **CSV**

CSVは「Comma Separated Value (カンマ区切り値)」の略です。これは、表データを保存するためのテキストフォーマットです。CSVでは、値の区切りにカンマが使用されます。このフォーマットは、通常、WindowsコンピュータのMicrosoft Excelに関連付けられています。

- **TXT**

TXTファイルは、未フォーマットのテキストが含まれている、標準テキスト文書です。TXTファイルは、どんなテキスト編集アプリケーションやワードプロセッシングアプリケーションでも開くことができます。

TXTファイルでは、レイアウトオプションを利用できません。

- **HTML**

HTMLは「Hypertext Markup Language (ハイパーテキストマークアップランゲージ)」の略です。これは、Webページでよく用いられるマークアップ言語です。これは、文書中のテキストベースの情報の構造やフォーマットを記述するための方法を提供します。このファイルフォーマットは、Microsoft Excel、Internet ExplorerなどのWebブラウザ、Adobe DreamweaverなどのWebページエディタで開くことができます。

レイアウトオプションの詳細については、「[フォーマットオプションの選択](#)」セクションを参照してください。

• **TIF**

TIF は「Tagged Image File (タグ付き画像ファイル)」の略です。これは高品質のグラフィックフォーマットで、多色画像の保存によく使用されます。

Readiris で文書を画像ファイルに変換する場合、このフォーマットを選択します。このフォーマットでは、文書のテキスト認識は行われません。

• **JPG**

JPEG は、「Joint Photographic Experts Group」の略です。インターネットでの用途に最適化されたデジタル画像の標準圧縮形式で、画質と保存サイズのバランスをうまくとることができます。

JPEG フォーマットでは、1 つのページ/画像のみが 1 つのファイルに保存されます。

• **EPUB**

EPUB は、国際電子出版フォーラム (IDPF) が普及促進している無料の電子書籍用オープン規格です。EPUB はリフロー型コンテンツ用に設計されており、コンテンツの表示は、コンテンツを開いているデバイスに自動的に適応するようになっています。EPUB は等幅レイアウトのコンテンツもサポートします。

Readiris では、テキストの本文のみを EPUB ファイルで作成します。これには画像は含まれません。

• **WAV / MP3**

WAV は「Waveform Audio File Format」の略です。Microsoft と IBM によって制定された音声ファイルフォーマットです。

MP3 は「Moving Picture Experts Group Layer-3 Audio」の略です。このフォーマットでは、ファイルのサイズを抑えるためにデータ圧縮が使用されます。

認識結果をこのフォーマットで保存すると、メディアプレーヤーの技術により、テキストを聞くことができます（テキスト読み上げ）。

出荷時の設定では、Windows は Windows インターフェース構成に含まれる「音声」を使用しています（**設定/時刻と言語/地域と言語/言語**）。音声や言語に関する詳細は、Windows ヘルプを参照してください。

注意:

- 古いファイルフォーマットも多数サポートされています。
- Readiris で作成された RTF ファイルは、Web ベースの事務系アプリケーションでも開くことができます。これらのアプリケーションを使用する場合は、必ずレイアウトオプションの **【文字と段落の書式を維持】** を選択します。

文書にプロパティを追加する

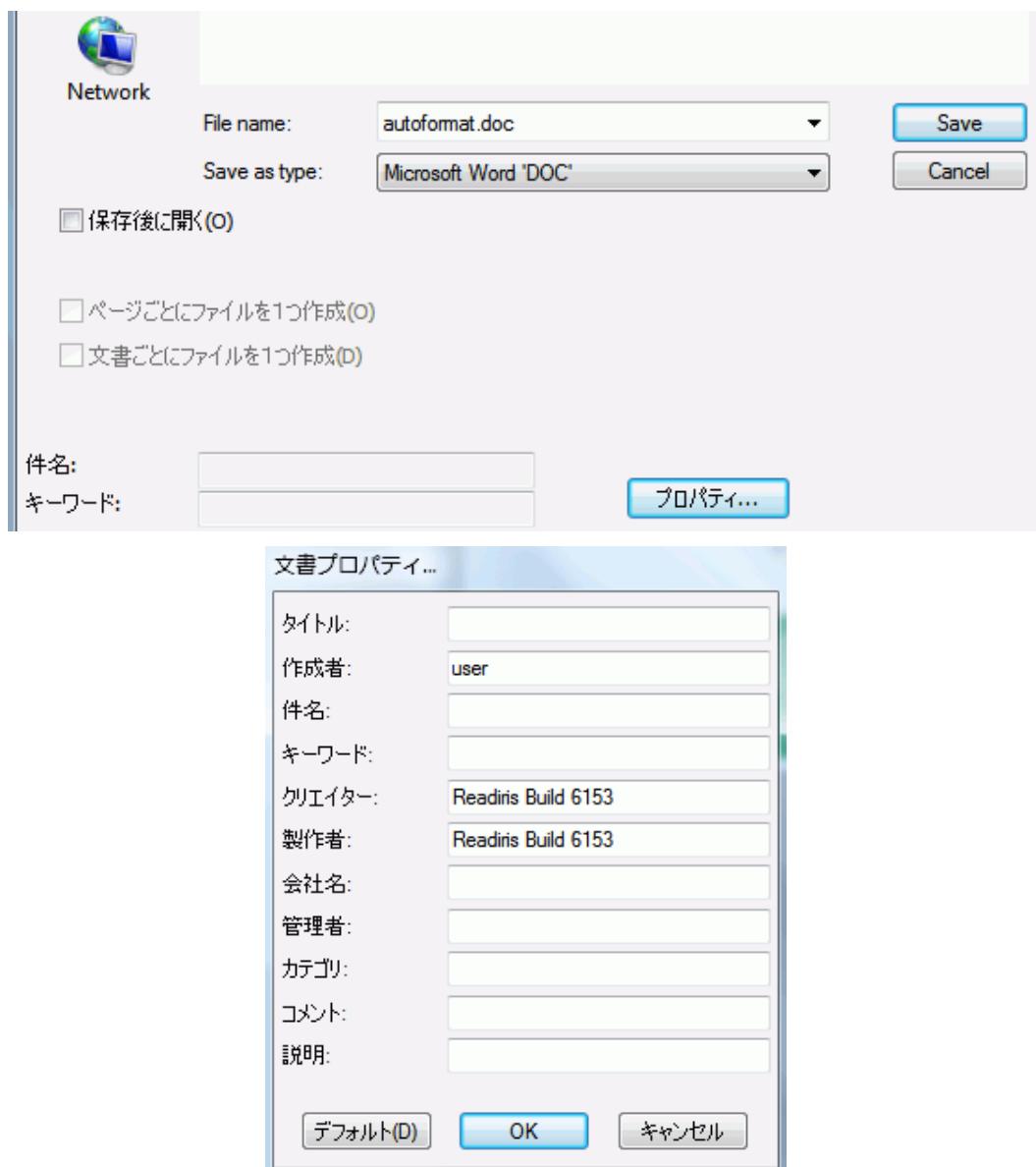
処理した文書を、プロパティで補完することができます。これは、文書に、著者や文書のタイプやスキャンした日付など主要な「タグ」が適用できることを意味します。こうすると、保存した後で文書を簡単に取得することができます。

文書にプロパティを追加するには：

- Readiris で文書をスキャンするか、文書を開きます。
- [出力ファイル] グループから希望の出力フォーマットを選択します。
- オプション[ファイルとして保存]が、選択された出力フォーマットで起動していることを確認してください。



- 選択された出力フォーマットボタンをクリックして、文書を保存します。
- [出力ファイル] ウィンドウが開いたら、[プロパティ] をクリックして、文書にプロパティを追加します。



- プロパティを記入し、[OK] をクリックして保存します。

スキャンされた文書を画像ファイルとして保存

スキャンされた文書は、必ずしもテキスト出力ファイルとして保存する必要はありません。最適化された画像ファイルとして保存することもできます。

そのための手順は以下の通りです。

- Readiris で文書をスキャンするか、文書を開きます。

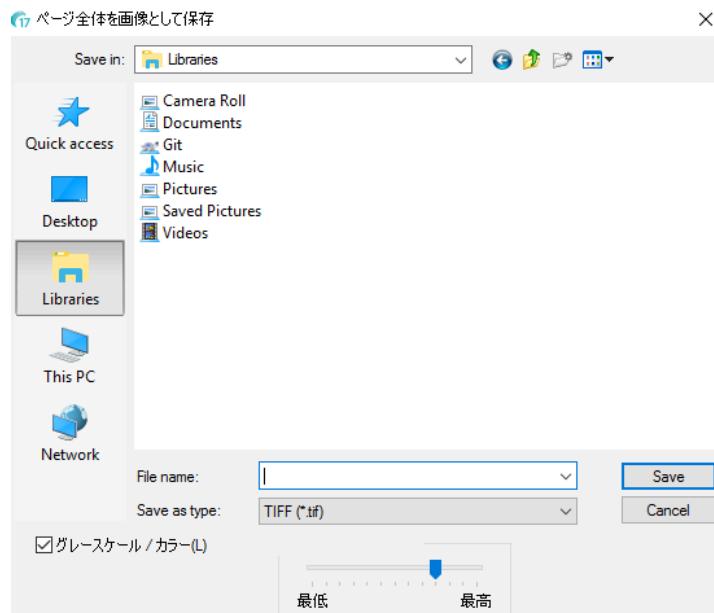


- 次に[ページ] タブをクリックします。
 - [写真を保存] をクリックすると、写真ゾーンのみが画像ファイルに保存されます。
 - [ページ全体を画像として保存] をクリックすると、現在のページが画像ファイルとして保存されます。
 - [すべてのページを画像として保存] をクリックすると、Readiris の全ページが画像ファイルとして保存されます。

注意：この 3 番目のオプションでは、すべてのページを複数のページがある 1 つの画像ファイルに保存するか、各ページを別々の画像ファイルに保存するかを選択することができます。



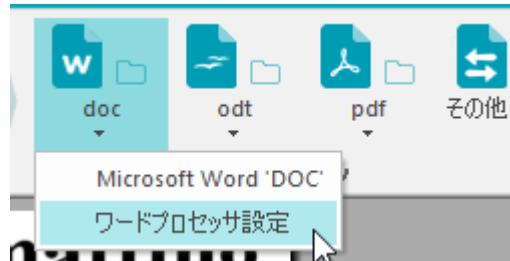
- 文書に名前を付け、保存させたい画像の種類を選択します。



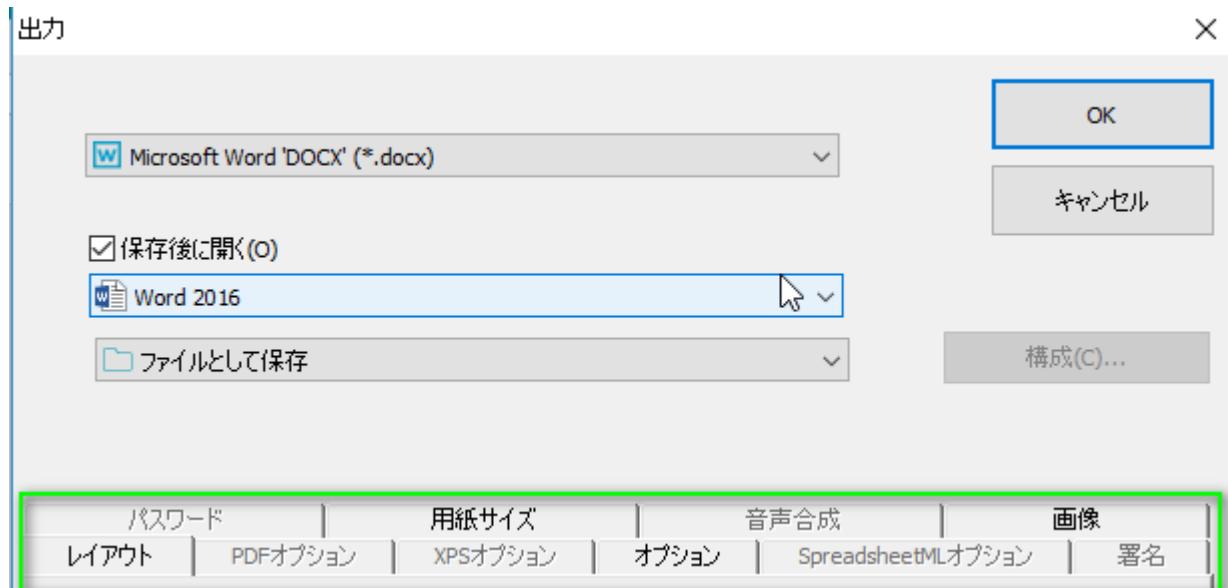
- 選択した画像ファイルの種類に応じて、[JPEG の品質] スライダが表示されます。このスライダで、画像ファイルの質を決定することができます。

フォーマットオプションの選択

[出力] ウィンドウで選択した出力フォーマットに応じて、利用可能なフォーマットオプションが異なります。



以下では、各オプショングループについて簡単に説明します。詳細は、以下の対応するセクションを参照してください。



レイアウトオプション

[レイアウト] オプション は、ワードプロセッサ文書、スプレッドシート文書、Web ページ文書を作成する際に重要な役割を果たします。このオプションによって、最終的な文書の外観がほぼ決定します。

一般オプション

Readiris がテキスト認識を実行する出力フォーマットでは、[一般] オプションを利用できます。たとえば PDF 画像や TIF などの画像出力フォーマットを選択すると、[一般] オプションは利用できません。

[一般] オプションは [レイアウト] オプションを補完するもので、特に、出力文書で色やグラフィックが維持されているかどうかを判断するものです。

SpreadsheetML オプション

Microsoft Excel (2007 以降) 用の **SpreadsheetML** 文書を作成すると、レイアウトや一般オプション以外に、専用の [SpreadsheetML] オプションを利用できます。

[SpreadsheetML] オプションは、Excel 文書でのワークシートのフォーマット状態を決定するものです。

PDF オプション

PDF 文書を作成する際には、特定の [PDF] オプションのみを利用できます。これには、ブックマーク、iHQC 圧縮、パスワード保護、デジタル署名が含まれます。

XPS オプション

XPS 文書を作成する際には、特定の [\[XPS\] オプション](#)のみを利用できます。これには、ブックマークや iHQC 圧縮が含まれます。

用紙サイズ

[\[用紙サイズ\]](#) オプションでは、出力文書の用紙サイズ (A4、Letter サイズ、Legal サイズ) を定義することができます。これらのオプションは、大半の RTF 出力フォーマットで利用できます。

画像

[\[画像\] オプション](#) は、出力文書で画像をどのように (カラーか白黒か) 表示させるかを決定します。解像度も定義できます。

注意: 画像をサポートしない出力フォーマットやアプリケーションを選択した場合、Readiris では [画像] オプションは利用できません。

テキスト読み上げ

[\[テキスト読み上げ\] オプション](#) では、認識結果が読み上げられる際の音声と言語を選択できます。

レイアウトオプション

レイアウトオプションは、ワードプロセッサ文書 (.doc、.docx、.rtf、.odt)、スプレッドシート文書 (.xml、.xlsx) および Web ページ文書 (.htm) を作成する際に、重要な役割を果たします。これによって、最終的な文書の外観がほぼ決定されます。

下で、各レイアウトオプションで実行できること、および、実際の文書の例について説明します。ウィンドウの右側にあるサムネールにもご注目ください。選択されたレイアウトオプションに基づいて設定された、文書のレイアウトの概要を知ることができます。

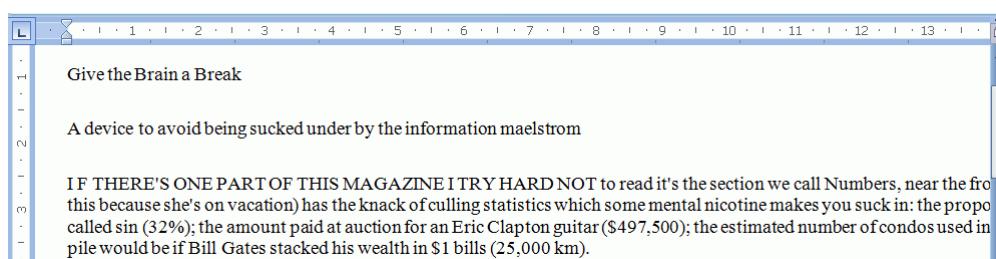
注意：出力フォーマットとして PDF、XPS、TIF を選択した場合は、もちろん、[レイアウト] タブは利用できません。PDF と XPS は固定レイアウトフォーマットで、出荷時の設定では、文書原本のレイアウトを再構成するようになっています。また、TIF は、認識が行われない画像フォーマットです。

注意：選択された出力フォーマットでレイアウトオプションが利用できない場合、そのオプションに対応していないことを意味します。



- テキストの本文を作成というオプションは、連続して続くテキストの行を生成します。その結果、書式設定のないドキュメントになります。書式設定は、ユーザーが手動で行うようになっています。

本文の例



- 文字と段落の書式を維持というオプションは、スキャンしたドキュメントの一般的な書式構造をそのまま維持します。

フォントのタイプ、サイズ、そしてスタイルは、文字認識の処理全般にわたって維持されます。

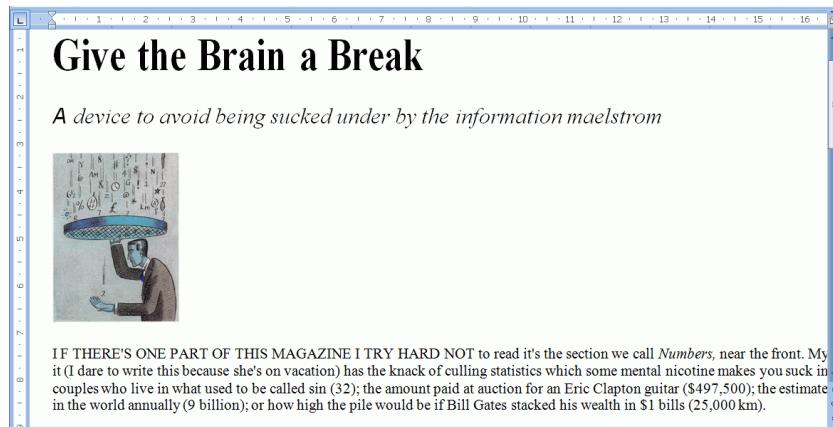
各ブロックのタブとアライメントは、再現されます。

テキストブロックと列は、再現されません。段落は、単純に後に続けられることになります。

表は、再度正しくキャプチャされます。

写真はキャプチャされません。

語と段落の書式設定の例



- 原本の文書を再現のオプションは、ドキュメントのレイアウトをオリジナルのレイアウトにできるだけ近い形で維持しようとします。

テキストブロック、表、および写真は、オリジナルと同じ場所に再現されます。

文字と段落の書式は維持されます。

ハイパーリンクも再現されます。

再現された元の文書の例



- [フレームの代わりに段組を使用]オプションでは、テキストフレームの代わりに段組が作成されて、ページ上の情報が配置されます。

段組みされたテキストは、複数のテキストボックスのあるドキュメントに比べ、編集が楽です。テキストは、一つの段から次へと自然に流れます。

注意：元の文書に段組を検知できない場合は、代わりにフレームが使用されます。

ヒント：Word のドキュメントを作る時は、このオプションを使ってください。

- **段区切りを挿入**のオプションは、各段の最後にハードな段区切りを挿入し、それより前にあるテキストの書式を維持します。編集、追加、削除したテキストは、その段の中に残り、段区切りを超えて、自動的にテキストが連続することはありません。

ヒント：もし、本文のテキストが段組みを含んでいる場合は、この（**段区切りを挿入**）のオプションを無効にしてください。テキストの一つの段から次の段への自然な流れを確実にすることができます。

- **ページ背景として画像を追加**のオプションは、スキャン済みの画像をページの背景として、認識されたテキストの下に配置します。

注記：このオプションを採用すると、出力ファイルのサイズが、大幅に増加します。

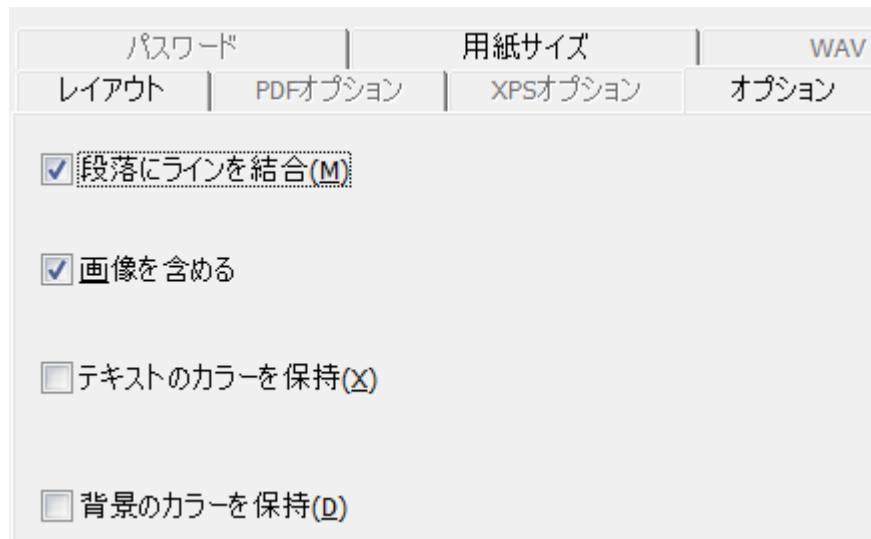
PDF テキスト-画像のファイル形式は、PDF ファイルと同じ方法で変更したものです。

前述のように出力ファイルのサイズを大幅に増加させたくない場合には、[オプション] タブで [背景のカラーを保持] オプションを選択してください。これで、劇的な減少とはいからいまでも、より小さくコンパクトなサイズのファイルが生成されます。

一般オプション

Readiris がテキスト認識を実行する出力フォーマットでは、[一般オプション](#)が利用できます。たとえば PDF 画像や TIF などの画像出力フォーマットを選択すると、「一般オプション」は利用できません。「一般オプション」は、「レイアウト」や「SpreadsheetML」など、他のオプションを補完します。ただし、他のフォーマッティングオプションを選択した場合には、一部の一般オプションは利用できなくなる場合があります。

下で、各オプションで実行できること、および、実際の文書の例について説明します。



- 行を段落に統合というオプションは、段落の自動検出を有効にします。

Readiris は、新しい段落が始まるまで認識したテキストをワードラップし、行末のハイフンで分割された単語を連結します。

- [写真を含める] オプションは読んで字の如しであり、出力文書に画像を添付します。

レイアウトされたテキストだけが必要な場合は、このオプションを解除してください。

- [テキストのカラーを保持] オプションは、認識処理に際してテキストオリジナルの色を維持します。
- [背景のカラーを保持] オプションは、各文書の背景のカラーを再作成します。

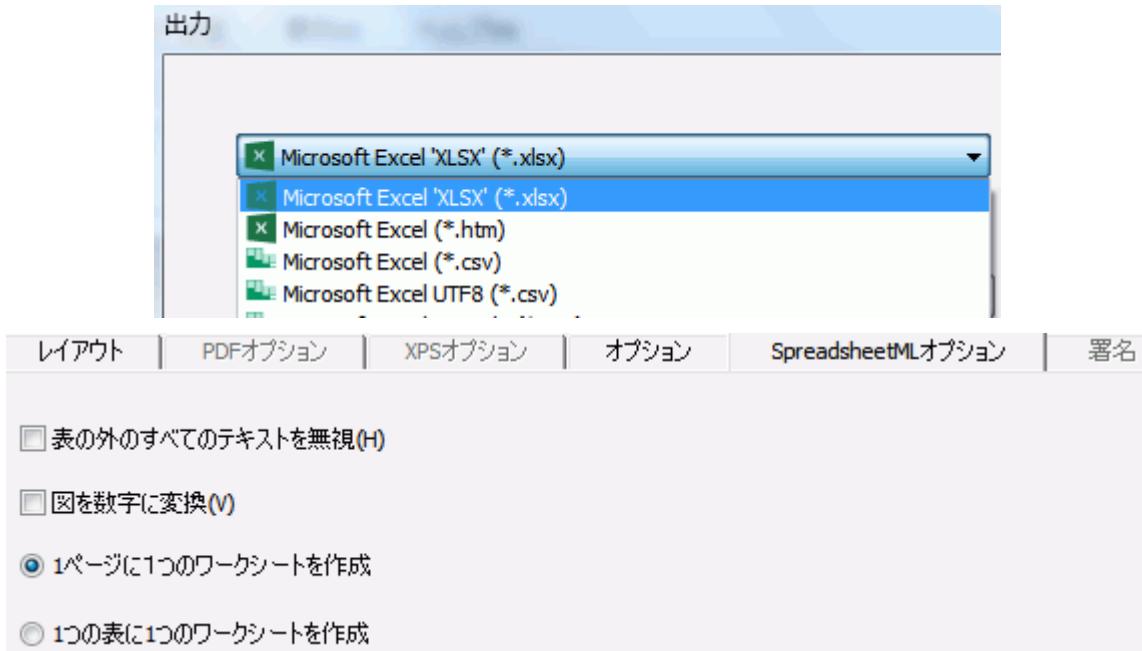
注意：スプレッドシート アプリケーションでは、このオプションは、各セルの背景のカラーを再現します。

	A	B	C
1	Performance optical media		
2	CD-ROM	Average access time (msec)	CPU utilization (%)
3	Digital Versatile Disk		
4	CD-ROM 24x speed	80	58.2
5	CD-ROM 32x speed	60	72.1
6	DVD	58	78.9
7	Tested on 333 MHz Pentium II with 64 MB RAM and 4 GB HD		

SpreadsheetML オプション

出力フォーマットとして **Microsoft Excel 2007、2010 (SpreadsheetML)** を選択した場合、SpreadsheetML オプションが利用できます。

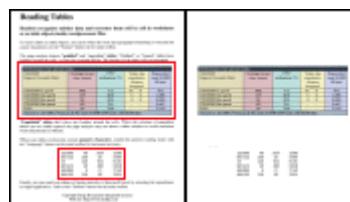
下で、各オプションで実行できること、および、実際の文書の例について説明します。



- 表の外のテキストをすべて無視というオプションは、表を保存してその他すべての認識結果を無視します。

表の中のデータはすべて取得されますが、表の外のデータは取得されません。

画像例



- [画像を数字に変換]オプションは、認識した画像を数字に変換します。

その結果、これらのセルに算術演算を実行することができます。テキストのセル (すべての表で) はテキストのまま残ります。

表の中のデータだけが、数字に変換されることにご留意ください。

- 1 ページに 1 つのワークシートを作成**オプションは、スキャンしたページごとにワークシートを 1 つ作成します。

ページに表とテキストがある場合は、すべてが同じワークシート内に配置されます。

- [1 つの表に 1 つのワークシートを作成]**オプションは、別個のワークシートに各表を配置し、認識したテキスト (表の外) を別のワークシートに入れます。

処理した文書が複数ページに渡る場合は、ページごとに同様の処理が施されます。

このオプションは、サイズや見出しが異なる表を処理する際に便利です。

用紙サイズ

[用紙サイズ] オプションで、出力文書の用紙サイズ (A4、レターサイズ、法定サイズ) を定義することができます。これらのオプションは、大部分のリッチテキスト出力フォーマットで利用できます。



- **[用紙サイズ]** タブをクリックし、矢印ボタンで用紙サイズを適用し、実行します。
- Readiris は、「該当フォーマット」に設定された用紙サイズを指定した順番をたどり、スキャンした文書に十分な大きさの最初の用紙サイズを使用します。

注意：出荷時の用紙サイズは、お使いのオペレーティングシステムの設定によって異なります。

写真

[写真オプション] は、出力文書で画像をどのように（すなわち、カラーか白黒か）表示させるかを決定します。解像度も定義できます。

注意：画像に対応しない出力フォーマットやアプリケーションを選択した場合、Readiris では [写真オプション] は利用できません。

各オプションについて下で説明します。

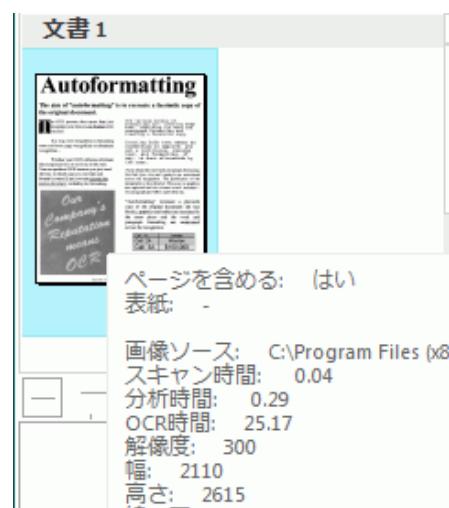


- **白黒画像**

出荷時の設定では、Readiris はグラフィックをカラーで保存します。白黒の画像を作成するにはこのオプションを選択します。文書内のテキストの色は原本通りに保持されます。

- **スキャンの解像度を保持する**

出荷時の設定では、このオプションが起動しています。Readiris は、スキャンされた文書と同じ解像度の出力文書を作成します。スキャンした際の解像度を確認するには、[スキャナの設定] を確認してください。もしくは、ページサムネールをポイントして、プロパティを表示させることもできます。



- **解像度を下げる：**

原本と同じ解像度を保持したくない場合には、[解像度を下げる] オプションを選択し、どの解像度まで下げるかを指示します。

注意：少なくとも解像度 72 dpi をご使用になるようお勧めします。

- **JPEG の画質**

PDF、XPS、Word、RTF 文書の中に保存された画像は、JPEG で保存されています。

スライダを使用して、JPEG の品質を調整します。

- **JPEG 2000 圧縮**

PDF、XPS フォーマットでファイルを保存する場合は、Readiris は、これらのファイルの中に保存されているカラー画像、またはグレースケール画像に JPEG 2000 を適用できます。

PDF オプションの選択

Readiris で処理した文書を PDF 文書として保存できます。

PDF 文書について

PDF は「Portable Document Format (ポータブルドキュメントフォーマット)」の略です。これは、文書の交換を容易にする目的で、Adobe Systems Inc. によって開発されたフォーマットです。PDF ファイルは、デバイスや解像度と一切関係なく、あらゆるオペレーティングシステム (Windows、Mac OS、Linux、iOS、Android など) でも開くことができるフォーマットです。PDF ファイルは、主に、保管目的で使用されます。PDF ファイルのコンテンツは (簡単には) 編集できません。

文書を PDF 文書として保存するには、次の操作を行います。

- [出力] グループで [PDF] を選択し、その下にある下向き矢印をクリックして設定を構成します。
または、[出力] グループに [PDF] が表示されていない場合は、[その他] をクリックします。



- ドロップダウンリストから希望の PDF タイプを選択します。



- **PDF 画像-テキスト (= PDF 検索可能画像)**。最も一般的に使用されるファイルタイプです。これには、認識されたテキストのレイヤーと、そのテキストの上に配置される画像化された元の文書のレイヤーが含まれます。こうすることにより、認識されたテキストにアクセスできると同時に、画像化された元の文書を見ることができるようになっています。

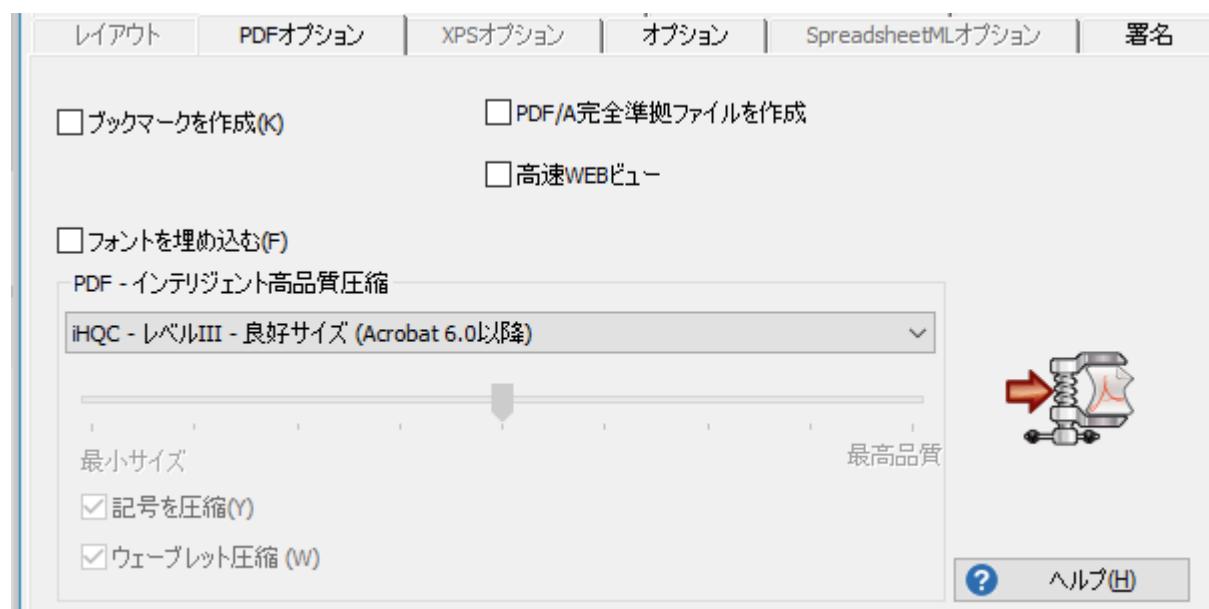
注意: テキストは画像に覆われているため、認識ミスを視覚的に確認することはできません。

- **PDF 画像**。このファイルタイプを選択すると、Readiris は文書に対してテキスト認識を実行しません。PDF ファイルはテキスト検索可能なファイルではなく、画像化された元の文書のみを含みます。
- **PDF テキスト (Readiris Corporate のみ)**。このファイルタイプには、認識されたテキストは含まれますが、画像化された元の文書は含まれません。PDF ファイルには、元の文書に含まれるすべての画像はグラフィックとして含まれます。

- **PDF テキスト-画像 (Readiris Corporate のみ)**。このファイルタイプは、PDF 画像-テキストの逆です。これは、画像化された元の文書が背景に埋め込まれ、認識されたテキストがその画像の上に配置されます。

注意: このフォーマットでは、認識ミスがはっきりとわかります。

[PDF] オプション



ブックマークの作成

ブックマークは、PDF 文書内に存在するリンクの一種であり、リンク先のセクションに関する情報が含まれます。ブックマークは、PDF 文書の構造を記述するものです。これは、[ナビゲーション] ペインの [ブックマーク] パネルでグループ化されています。

Readiris では、[ブックマークの作成] オプションによって、PDF ファイル内にある各テキストゾーン、画像ゾーン、および表ゾーンのブックマークが作成されます。

フォントを埋め込む

[フォントを埋め込む] オプションを使用すると、PDF ファイルには、元の文書に含まれていたフォントが埋め込まれ（含まれ）ます。これにより、他のユーザーが文書をコンピュータで開いたときに、文書に使用されている特定のフォントがそのコンピュータにインストールされていない場合でも、元のフォントで表示することができます。

フォントを埋め込むと、出力文書のファイルサイズが大きくなります。

PDF/A 完全準拠ファイルを作成 (Readiris Corporate)

このオプションは、長期間のアーカイブに適した PDF ファイルを作成します。PDF/A は「Portable Document Format Archivable (アーカイブ可能なポータブルドキュメントフォーマット)」の略です。PDF/A ファイルには、ファイルを開いたり表示したりするために絶対的に必要なものだけが含まれています。

高速 WEB ビュー

[高速 WEB ビュー] オプションは、Web サーバーから PDF 文書を 1 ページずつダウンロードされるように再構成します。このオプションは、クラウドに送信した文書にアクセスする際に便利です。

PDF - インテリジェント高品質圧縮

Readiris には、PDF 文書を圧縮する機能も含まれています。詳細は、「[PDF 文書の圧縮](#)」セクションを参照してください。

 **ヒント:** また、「[PDF 文書のパスワード保護](#)」と「[PDF 文書のデジタル署名](#)」のセクションも参照してください。

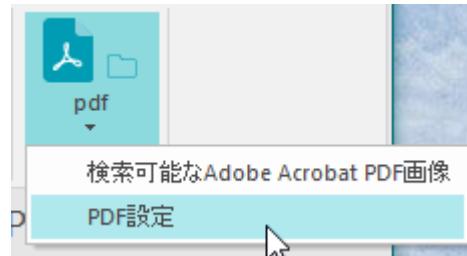
PDF 文書の圧縮

Readiris で作成された PDF 文書は、iHQC 方法を利用して超圧縮できます。iHQC は **intelligent High-Quality Compression (インテリジェント高品質圧縮)** の略であり、I.R.I.S. が開発し、特許を有している効率性の高い圧縮技術です。iHQC は、MP3 が音楽、DivX が映画を圧縮しているのと同じ要領のものです。

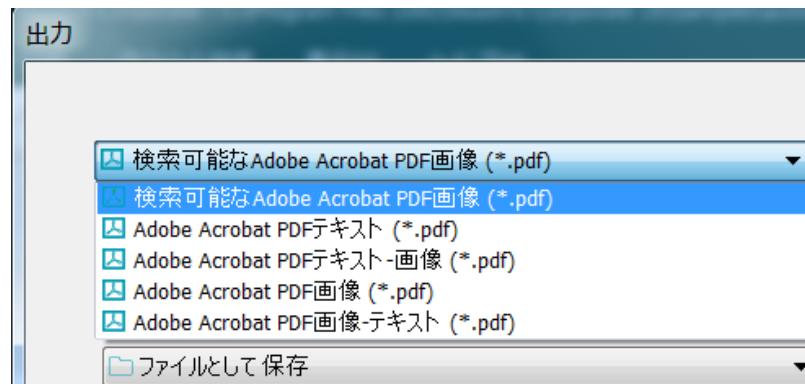
圧縮 PDF 文書を作成するには：

- [出力] グループで PDF を選択し、その下にある下向き矢印をクリックして設定を構成します。

[出力] グループにで PDF が表示されていない場合、[その他] をクリックします。

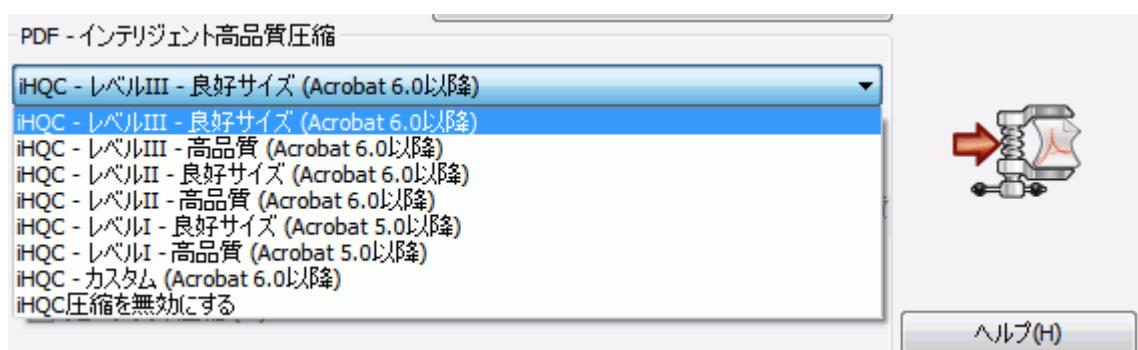


- ドロップダウンリストから必要な PDF タイプを選択します。
iHQC 圧縮は、**PDF テキスト**や**PDF テキスト-画像**ファイルでは利用できません。



- 必要な圧縮レベルを選択します。次の3つの圧縮レベルがあります。

各レベルには、次の2つの圧縮タイプがあります。**良好サイズ**と**高品質**。良好サイズは、画質の損失を最小限に抑えて最適な圧縮を提供します。高品質では、出力ファイルのサイズは多少大きくなりますが、画質が向上します。



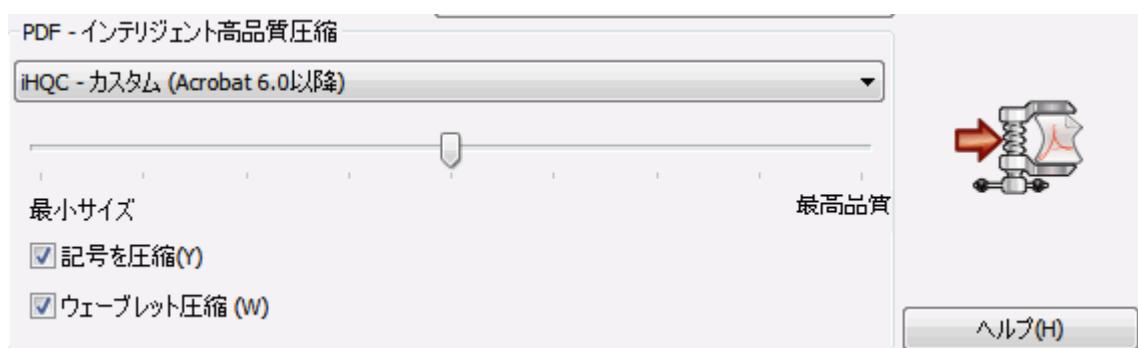
注記：

Readiris Pro では、レベルI - 良好サイズとレベルI - 高品質が選択できます。

Readiris Corporate では、あらゆるレベルの iHQC にアクセスできます。

圧縮のカスタマイズ (**Readiris Corporate**)

Readiris Corporate では**カスタム**圧縮も選択できます。このオプションを選択すると、スライダーを使って、ユーザーがサイズと品質の比率を決定することができます。



出荷時の設定では、[記号を圧縮] が選択されています。このオプションでは、文書内のテキストが圧縮されます。

出荷時の設定では、[ウェーブレット圧縮] も選択されています。このオプションでは、文書内の画像が圧縮されます。

PDF 文書をパスワードで保護する

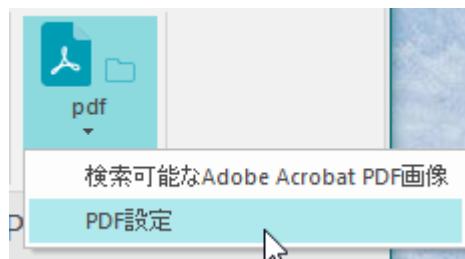
(この項目は **Readiris Corporate** のみに適用されます)

Readiris で作成された PDF 文書は、パスワードで保護することができます。さらに、ドキュメントを開くためのパスワードとは別に、ドキュメントの変更を制限するためのパスワードを設定することができます。

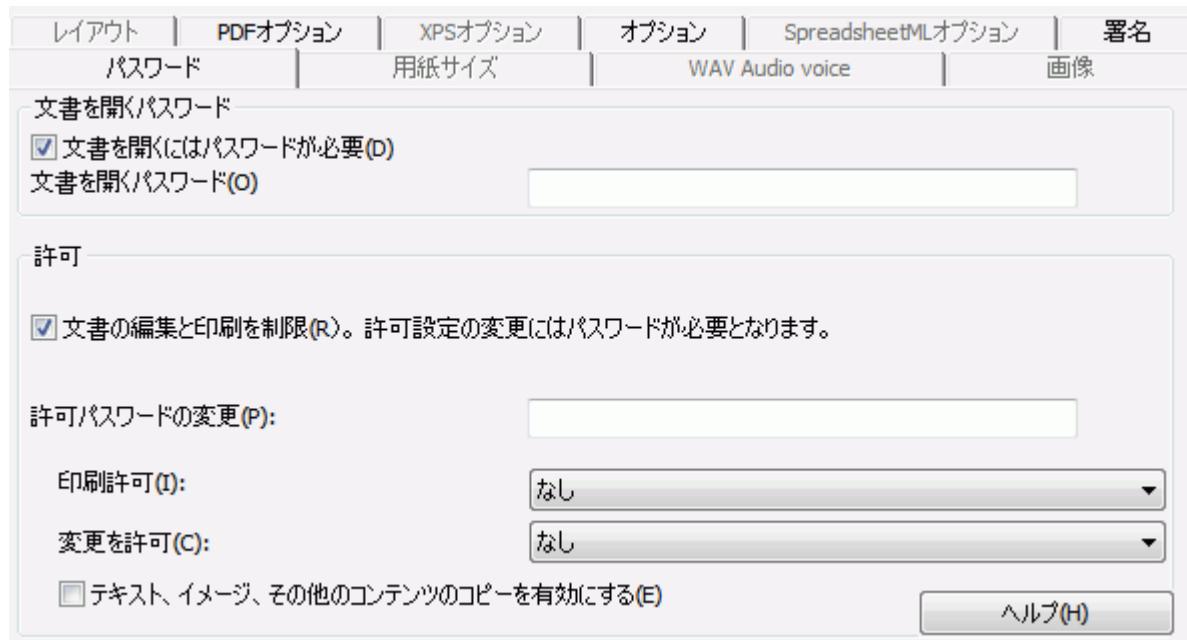
PDF 文書をパスワードで保護するには：

- [出力] グループで PDF を選択し、その下にある下向き矢印をクリックして設定を構成します。

[出力] グループに PDF が表示されていない場合、[その他] をクリックします。



- ドロップダウンリストから必要な PDF タイプを選択します。
- 次に [パスワード] タブをクリックします。



- **ドキュメントを開くパスワード**を設定しようとすると、PDF 出力を開く時のパスワードを入力するよう求められます。
- **権限のパスワード**の設定時は、セキュリティ設定で許可されたアクションしか実行することができません。これらの設定を変更したい場合は、ここでも権限のパスワードを入力しなければなりません。

Readiris のセキュリティ設定は、Adobe Acrobat で提供されている標準保護機能と類似しています。

ただし、Readiris の文書を開くパスワードと許可パスワードは、別個のものでなければなりません。

電子署名 PDF 文書

(この項目は **Readiris Corporate** のみに適用されます)

Readiris で作成された PDF 文書には、電子署名を追加することができます。デジタル署名は、その PDF ドキュメントを作成した人物を識別します。即ち、その PDF ドキュメントが原作者によるものであることを認証し、ドキュメントへの望まざる改変を防止すると共に、改変が加えられていないことを証明します。

ただし、Readiris では電子署名は作成できません。Readiris で電子署名文書が作成できるように、ご自分で電子署名を用意する必要があります。Adobe Acrobat を使ってデジタル署名を生成するか、或いは VeriSign のような会社から入手する方法もあります。

電子署名文書の生成方法:

- [出力] グループで PDF を選択し、その下にある下向き矢印をクリックして設定を構成します。
[出力] グループにて PDF が表示されていない場合、[その他] をクリックします。
- ドロップダウンリストから必要な PDF タイプを選択します。
- [署名] タブをクリックし、署名オプションにアクセスします。
- [この署名を使用する] を選択し、希望の署名を検索します。



ヒント :

このリストで署名が見つからない場合、[管理] ボタンをクリックします。次に、[インポート] をクリックし、[証明書のインポートウィザード] の指示に従います。

また、[管理] ボタンの背後にあるオプションを使用して、PC で電子署名を編集・削除・エクスポートすることもできます。

[詳細] ボタンをクリックし、現在の署名に利用可能な情報すべてを表示します。

署名の詳細に関しては、Acrobat の説明書をご参照ください。

電子署名を使用すると、Adobe Acrobat や Adobe Reader の [署名] タブに表示されます。

XPS オプションの選択

XPS オプションの選択

Readiris で処理された文書は XPS 文書として保存できます。

XPS 文書について

XPS は「XML Paper Specification」の略です。これは、Microsoft 社が開発した、文書の忠実度を維持するための固定レイアウト書式です。XPS ファイルは、PDF ファイルと同様に、主に保存目的に使用されます。XPS ファイルのコンテンツは、(簡単には) 編集できません。

文書を XPS 文書として保存するには：

- [出力] グループで[その他] をクリックします。



- ドロップダウンリストから希望の XPS タイプを選択します。



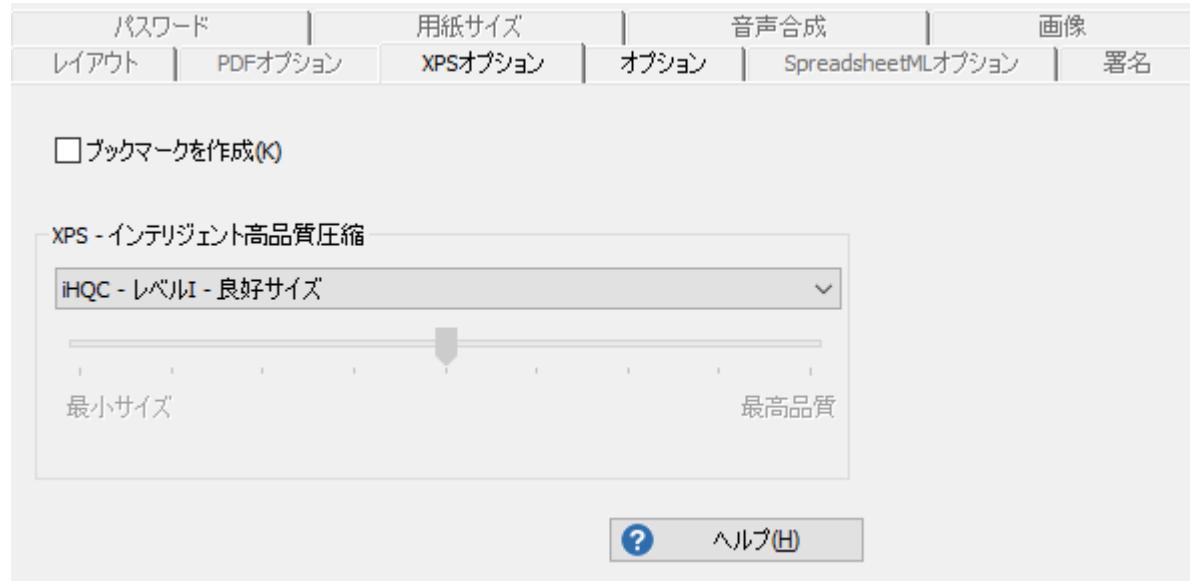
- **XPS 画像-テキスト。** このファイル形式は、最も一般的に使われています。画像テキストファイルは、認識されたテキストと、その上にある元の画像という二つのレイヤーで構成されています。ですから、元の画像を見ながら、認識されたテキストにもアクセスすることができます。

注意： 画像はテキストを覆うようになっているので、認識ミスがあるかどうかはわかりません。

- **XPS 画像。** この種のファイルを選択すると、Readiris は、文書内のテキスト認識を実行しません。この XPS ファイルではテキストを検索することはできません。このファイルには、原本にあった画像のみが含まれます。
- **XPS テキスト (Readiris Corporate のみ)。** このファイル形式は、認識されたテキストで構成され、ドキュメントの元の画像は含んでいません。この XPS ファイルでは、原本の文書にあった画像はグラフィックとして埋め込まれます。
- **XPS テキスト-画像 (Readiris Corporate のみ)。** このファイルタイプは、XPS 画像-テキストの逆です。この形式は、元の画像を背景に持ち、認識されたテキストは画像の上にあります。

注意： このフォーマットでは、認識ミスがはっきりとわかるようになっています。

XPS オプション



ブックマークの作成

ブックマークは、XPS 文書中に存在するリンクの一種であり、その中には、それにリンクされているセクションの関連情報が含まれています。ブックマークは、XPS 文書の構造を記述するものです。

Readiris では、[ブックマークの作成] オプションで、XPS ファイル内にある各テキストゾーンと画像ゾーンとテーブルゾーンのブックマークが作成されます。XPS のブックマークの例

XPS - インテリジェント高品質圧縮

Readiris には、XPS 文書を圧縮する機能も含まれています。詳しくは「[XPS 文書の圧縮](#)」セクションを参照してください。

XPS 文書の圧縮

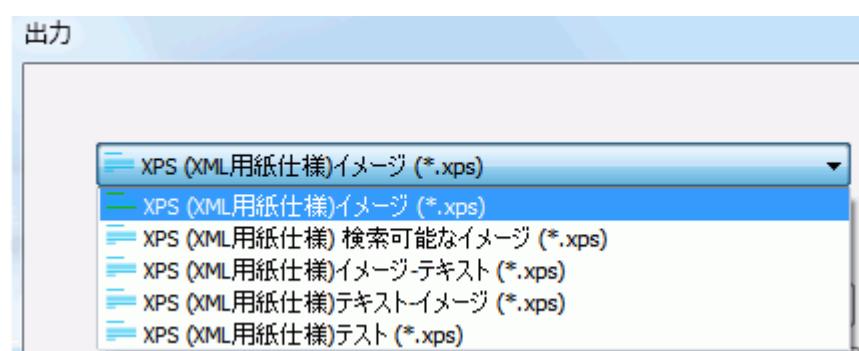
Readiris で作成された XPS 文書は、iHQC 方法を利用して超圧縮できます。iHQC は **intelligent High-Quality Compression (インテリジェント高品質圧縮)** の略であり、I.R.I.S. が開発し、特許を有している効率性の高い圧縮技術です。iHQC は、MP3 が音楽、DivX が映画を圧縮しているのと同じ要領のものです。

圧縮 XPS 文書を作成するには：

- 【出力】グループで【その他】をクリックします。



- ドロップダウンリストから、必要な XPS タイプを選択します。
iHQC 圧縮は、**XPS テキスト**や**XPS テキスト-画像**ファイルでは利用できません。



- 必要な圧縮レベルを選択します。

レベル I には、次の 2 つの圧縮タイプがあります。**良好サイズ**と**高品質**。良好サイズは、画質の損失を最小限に抑えて最適な圧縮を提供します。高品質では、出力ファイルのサイズは多少大きくなりますが、画質が向上します。



Readiris Corporate では**カスタム**圧縮も選択できます。このオプションを選択すると、スライダーを使って、ユーザーがサイズと品質の比率を決定することができます。



セクション 10：文書をクラウドに送信する

Readiris で処理された文書は、各種のクラウドアプリケーションに送信できます。Readiris Pro では、文書を、Evernote、Dropbox、Google Drive、OneDrive a、Box. に送信できます。Readiris Corporate を使用すると、文書を Microsoft SharePoint、Therefore、IRISNext、FTP にも送信できます。

クラウドにエクスポートする前に、接続を設定する必要があります。

重要：Dropbox、Google Drive、Evernote、Box、OneDrive、SharePoint、Therefore、IRISNext または FTP の有効なアカウントがなければ、接続を設定することはできません。

重要(Readiris Corporate)：Therefore を使用する場合、コンピュータに Therefore Client をインストールして、正しく設定する必要があります。

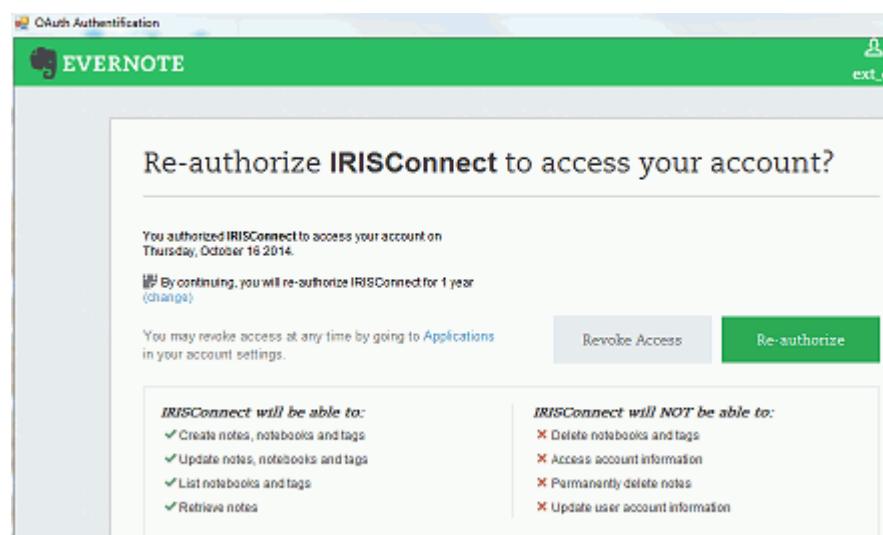
コネクターの構成

- [クラウドセットアップ] タブで、希望のクラウドアプリケーションをクリックします。



Evernote、Dropbox、Box、OneDrive、Google Drive

- [参照] をクリックします。
- [OAuth 認証] ウィンドウが開きます。
- 認証情報を入力して [サインイン / 認可] をタップします。
- IRISConnect にあなたのアカウントへのアクセスを許可するオプションを選択します。



Evernote の例

- 希望のフォルダを選択します。

注意：「エクスポートの前に確認を要求する」が選択された以下のオプションを維持した場合、文書を処理する際に、必ずエクスポートフォルダを指定する必要があります。この手順を省略するには、このオプションを消去します。

- [OK]をクリックして、設定を終了します。

SharePoint、Therefore、IRISNext

- ユーザー名とパスワードを入力します。
- 接続先の SharePoint サーバを入力します。
- 次に [参照] をクリックします。
- エクスポート先のフォルダを選択します。
- 必要に応じて [内容のタイプ] を選択します。

注意：「エクスポートの前に確認を要求する」が選択された以下のオプションを維持した場合、文書を処理する際に、必ずエクスポートフォルダを指定する必要があります。この手順を省略するには、このオプションを消去します。

- [OK]をクリックして、設定を終了します。

FTP

- ユーザー名とパスワードを入力します。
- [サーバ] フィールドに FTP アドレスを入力します。
- 必要に応じて [パス] を入力します。
- プロキシー ホスト** : FTP サーバが、外部サーバへの接続に SSL プロキシーを必要とするファイヤウォールの背後で実行される場合、このフィールドにプロキシホスト名を入力します。お使いのコンピュータからインターネットに正しく接続できる場合、このフィールドを空白にしておきます。

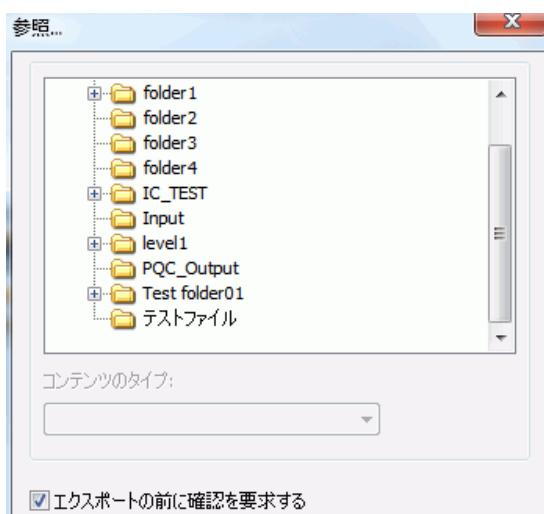
文書の送信

- 文書をスキャンするか、文書を開き、必要な処理設定を選択します。
- [出力ファイル] グループで、[その他] をクリックし、設定したクラウドアプリケーションを選択します。

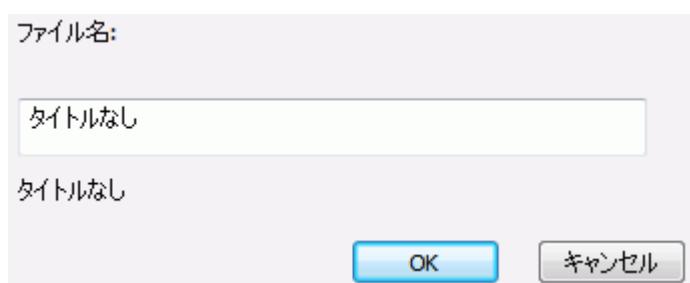


- 続いて、[必要な出力フォーマット] ボタンをクリックして、文書をクラウドに送信します。
- クラウドシステムのどこに文書をエクスポートするか正確に指示するよう、尋ねられます。ロケーションを指示して、[OK] をクリックします。

ヒント：将来、ロケーションを指示しなくても済むようにするには、「エクスポートの前に確認を要求する」オプションをクリアしてください。



- このとき、文書に名前を付けるよう指示されます。文書に名前を付け、[OK] をクリックすると、エクスポートが完了します。



インデックス付き文書をクラウドに送信する

(この項目は **Readiris Corporate** のみに適用されます)

文書をクラウドロケーションに送信する際に、Readiris は、自動的に、クラウドロケーションで、**必須インデックスフィールド**に記入する必要があるか否かを検出します。

The screenshot shows a SharePoint form with the following fields:

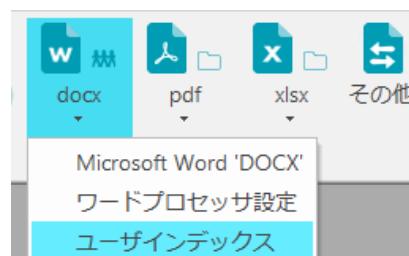
- Content Type ***: Technical notes
- Name ***: Readiris
- Title ***: Readiris.pdf

SharePoint の必須フィールドの例

インデックス付き文書を送信するには：

- インデックスをサポートする次のクラウド コネクタのいずれかを設定します。SharePoint、Therefore、IRISNext。
- 必要に応じて [文書をクラウドに送信する](#) をご覧ください。
- [出力ファイル] グループで [その他] をクリックし、設定したコネクタを選択します。
- OK をクリックします。
- [出力ファイル] グループに戻り、出力ファイルフォーマットの下にある先に選択した下向き矢印をクリックし、[ユーザインデックス] を選択します。

注意：[ユーザーインデックス] を選択しなかった場合、文書を送信する際に、Readiris は、必須インデックスフィールドのみを表示します。



- 文書を処理して、希望の出力ファイルフォーマットをクリックして送信します。
- [インデックス] タブに (必須) インデックスフィールドが表示されます。

The screenshot shows the 'Index' tab in the Readiris interface with the following data:

ファイル名	Untitled	THEME
DOC-TYPE		DATE
DOC-ID		test-1de Value1
LANGUE		test-1de1
SERVICE		test-1de2

- インデックスフィールドに手で記入するか、

- Readiris の「ドラッグアンドドロップ」認識テクノロジーを使用して、記入します。
 - 記入したいフィールドの内部をクリックします。
 - 次に、[テキスト] アイコンをクリックしてテキストゾーンを認識するか、[バーコード] アイコンをクリックしてバーコードトゾーンを認識します。
 - インデックスとして使用したいゾーンの周りにフレームを描きます。マウスボタンを離すと、フィールドにテキストが記入されます。
- 希望の出力ファイルフォーマット をクリックするとインデックス付き文書が送信され、[廃棄] をクリックすると、初めに戻ります。

操作手順

Readiris でスキャナを構成する方法

Readiris で文書をスキャンするにはスキャナを正しく設定する必要があります。

1.PC にスキャナが接続され、電源が入っていることを確認してください。

注意：USB ケーブルでスキャナがコンピュータに物理的に接続されていることを確認します。メーカーから提供された Twain ドライバがイーサネットやワイヤレス接続に対して設定されている場合、それらを使用することもできます。

2.スキャナに、最新 Twain ドライバがインストールされていることを確認します。

通常、ドライバは、スキャナメーカーの Web サイトにあります。I.R.I.S. ではドライバを提供しません。スキャナドライバの一部は、Windows 最新バージョンで稼動しない場合がありますのでご留意ください。サポートされているプラットフォームに関しては、スキャナに同梱されていた文書をご参照ください。必要に応じて、スキャナのメーカーにお問合せください。

Readiris でのスキャナ設定

Readiris はインストールされているスキャナ、ドライバを自動的に検知し、その他に設定が必要な解像度、用紙フォーマットなどの自動設定を行います。

自動スキャナ検知は、現在、インストールされている I.R.I.S.、Canon、および HP デバイスで利用できます。

その他のデバイスについては、手動で設定する必要があります。

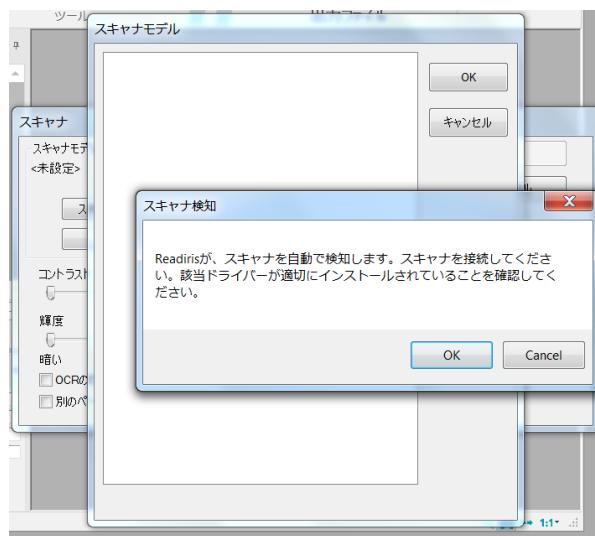
自動スキャナ検知

- [スキャン] ボタンをクリックすると、この機能が起動します。
 - 初めてインストールされているスキャナを使用する際
または、
 - [出荷時の設定に戻す] の操作後



- スキャナ検知 メッセージ が表示されます。

- 自動検知の操作を確定するには、[OK] をクリックします。

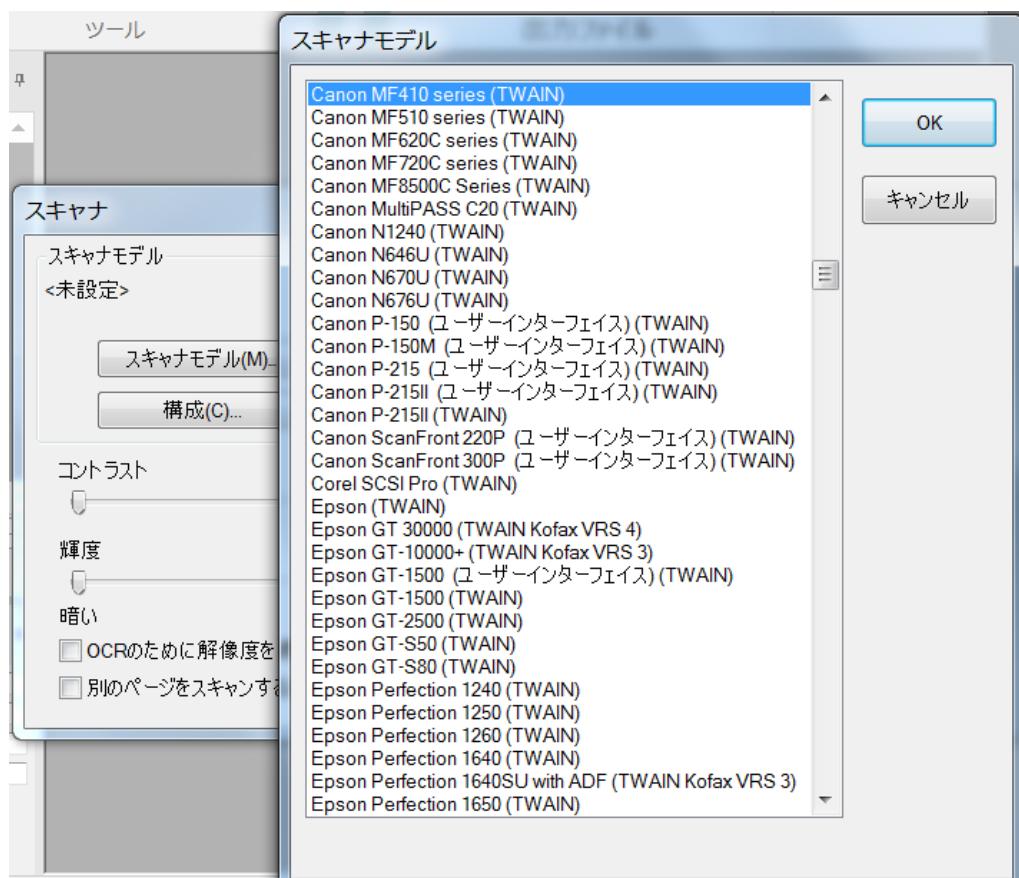


- [OK] をクリックすると、Readiris はマッチング処理を開始します。インストールされているスキャナをスキャナモデルまたは、Readiris で確認済みのスキャナ一覧プロファイルと一致させようとします。

当面の間、この一覧は主に Canon、HP、IRIS のデバイスで構成されます。

- Readiris が一致を検知すると、対応するスキャナプロファイルを、[スキャナモデル] ウィンドウに提案します。

この例では、Canon MF416dw MFP デバイスが設定されており、Readiris は **Canon MF410 シリーズ**を提案しています。



- 提案されているデバイスを Readiris で使用する現在のモデルとして確定するには、[OK] をクリックします。Readiris が使用しているスキャナモデルを検知しない場合、[手動スキャナ検知](#) セクションをご覧ください。
- Readiris は続いて、システムにインストールされている対応する TWAIN ドライバを読み込み、解像度、用紙フォーマットなどが、予め入力されている [スキャナ] 設定ウィンドウが表示されます。



- スキャンを開始するには、[OK] をクリックします。

別のスキャナ設定の詳細については、「[スキャナ設定の選択](#)」の項を参照してください。

手動スキャナ検知

- Readiris が使用しているスキャナモデルを自動的に検知しない場合、[スキャナモデル] リストから、お使いのスキャナを手動で選択します。

このリストでお使いの **スキャナプロファイル** を選択します。スキャナプロファイルを使用すると、お使いのスキャナ専用の機能にアクセスできます。例：両面スキャンなど。

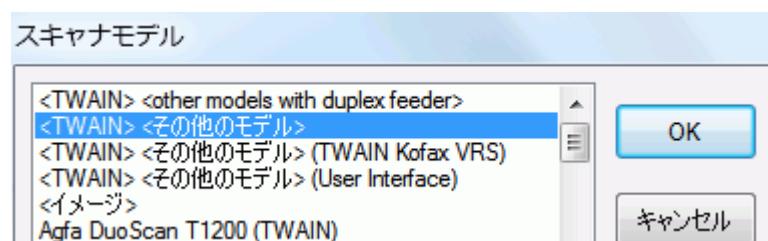
リスト中にお使いのスキャナが見つからない場合でも心配はいりません。スキャナの中には、専用のスキャナプロファイルを持たないものもあります。

重要：正確なプロファイルが見つからない場合でも、似たようなプロファイルは **選択しないでください**。代わりに **汎用 Twain プロファイル** を選択してください。別の Twain プロファイルが利用できます。

通常のフラットベッドスキャナを使用している場合、**<Twain><OTHER MODELS>** を選択します。

Readiris ではなく、スキャナのユーザー インターフェースを使用して文書をスキャンしたい場合、**<Twain><OTHER MODELS>(ユーザー インターフェース)** を選択します。

ページの表裏をスキャンする両面スキャナを使用したい場合、**<Twain><OTHER MODELS with duplex feeder>** を選択します。



- スキャナモデルを選択したら、スキャナ ドライバを設定する必要があります。
 - [設定] をクリックし、スキャナ ドライバを選択します。

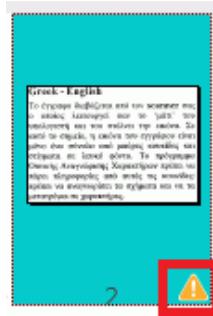
[ソースの選択] ウィンドウにお使いのスキャナが見つからない場合、スキャナドライバは正しくインストールされていません。スキャナドライバをもう一度インストールしてから、Readiris を設定しなおしてください。通常、スキャナドライバは、スキャナメーカーの Web サイトにあります。



- スキャナの設定が終わったら、出荷時のスキャナ設定を使って、スキャンを開始することができます。各スキャナの設定方法やその変更方法については、[スキャナ設定の選択](#)をご覧ください。

良好な認識結果の取得方法

三角形の「再試行する」記号は、文書の認識に複数の問題があることを示しています。



認識結果の質は、さまざまな因子に左右されます。以下の各項目を確認してください。

- ドキュメント言語

[取得] グループで、適切な **ドキュメント言語** 言語を選択してください。詳しくは「[認識オプション](#)」セクションを参照してください。

- スキャンされる文書の質

スキャンされる文書の文字が明るすぎたり、濃すぎると、Readiris は認識しづらくなります。幸い、スキャンされた文書の質が調整できる機能があります。その方法については、「[画質を調整する](#)」セクションを参照してください。

- 画像の回転

インポートされた画像の回転が適切であることを確認してください。不適切な場合、[ホーム] タブの [回転] ツールを使用します。

- インポートされた画像の解像度

文書のスキャンにスキャナを使用する場合、画像の質はスキャナの設定にも関係してきます。スキャナが正しく設定されているかどうかを確認するには、「[スキャナ設定の選択](#)」セクションを参照してください。

通常の文書ではスキャン解像度を 300 dpi に設定し、小さな文字やアジア言語の場合は 400 dpi に設定してください。

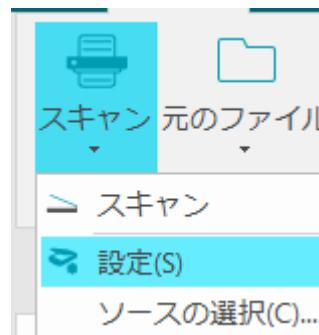
画像の品質がよくない場合、上記の項目を確認したとしても、正しく認識されません。

複数の文書をスキャンする方法

Readiris には、Readiris で複数の文書のスキャンや処理を簡単に行うための機能が多数装備されています。

フラットベッドスキャナで複数の文書をスキャンする

- [スキャン] ボタンの下にある矢印をクリックし、[設定] にアクセスします。

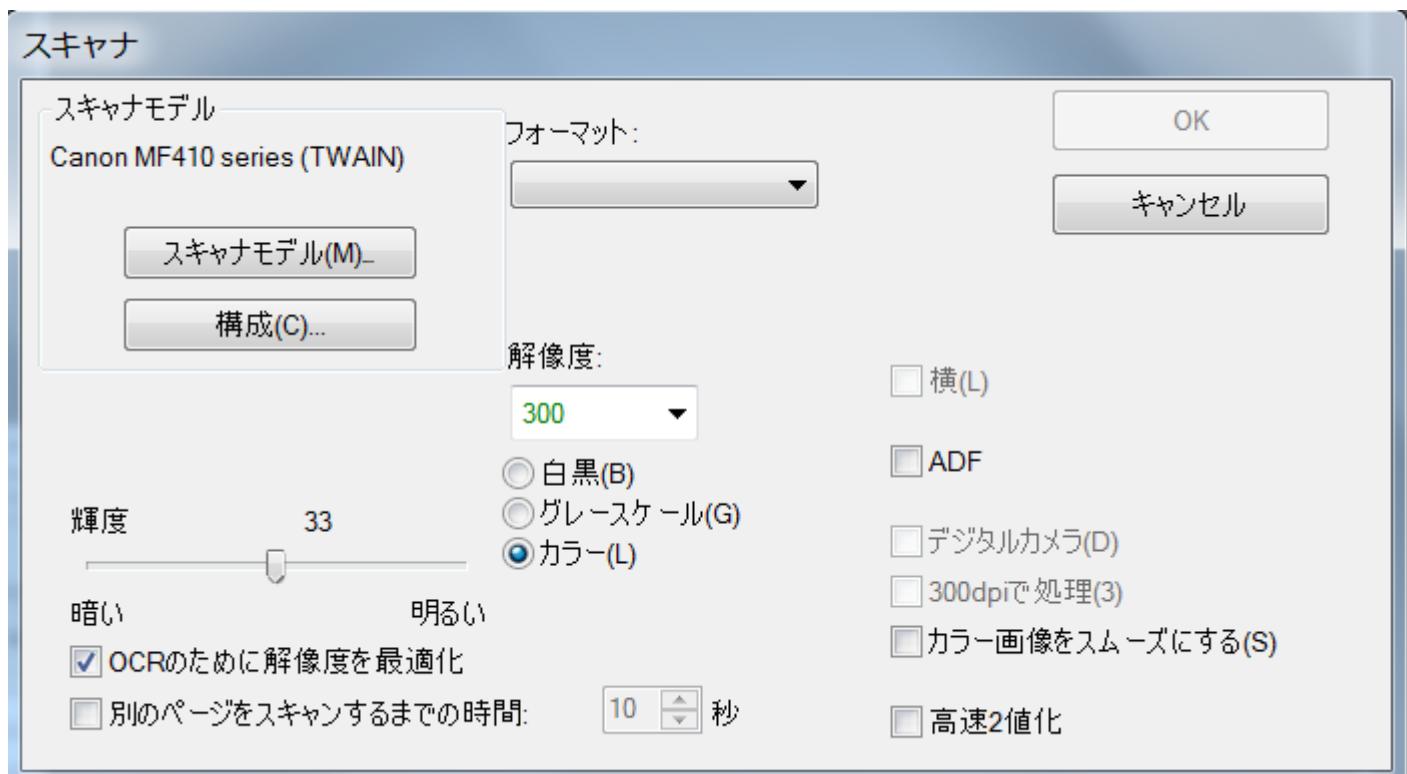


- [スキャナ] ウィンドウで [この後に別のページをスキャン] を選択し、次のページをスキャンするまでの時間を秒で記入します。

すると、いちいちコンピュータに戻って Readiris の [スキャン] ボタンを押す必要がなくなります。ご自分のペースでページを入れ替えれば、Readiris が次のページを自動的にスキャンします。

文書フィーダのあるスキャナで複数の文書をスキャンする

- [スキャン] ボタンの下にある矢印をクリックし、[設定] にアクセスします。



- [スキャナ] ウィンドウで [ADF] (自動文書フィーダ) を選択します。

すると、スキャナで次々にページをスキャンすることができ、Readiris はそのスキャンのペースに合わせて処理することができます。

デジタルカメラの画像の処理方法

Readiris は、特殊な認識ルーティンを活用して、デジタルカメラの画像を処理します。デジタルカメラの画像を処理する際に、「デジタルカメラ」オプションが起動していることを確認してください。

[デジタルカメラ] オプションは、スキャナ [設定] オプションと [元のファイル] オプションでアクティベートできます。

スキャナ設定で：

- まずデジタルカメラのスイッチを入れ、USB ケーブルでコンピュータに接続します。
- Readiris で、[スキャン] ボタンの下にある下向き矢印をクリックし、[設定] をクリックします。
- [スキャナモデル] をクリックし、リストから <Twain><他のモデル> を選択します。
- 次に [設定] をクリックし、カメラの Twain ドライバを選択します。

注意：「ソースの選択」リストにドライバが見つからない場合、ドライバが正しくインストールされていないか、カメラに Twain ドライバがインストールされていないことを意味します。必要に応じて、カメラの取扱説明書をお読みください。

 **ヒント：**Twain ドライバーがない場合、いつでも、[元のファイル] でカメラの画像を開くことができます。

- 「スキャナの設定」ウィンドウに戻り、「デジタルカメラ」オプションを選択します。
- Readiris で「スキャン」をクリックすると、カメラがスキャンを開始します。

[元のファイル] オプションで：

- デジタルカメラのスイッチを入れ、USB ケーブルでコンピュータに接続します。
- Readiris で [元のファイル] をクリックします。
- [デジタルカメラ] オプションを選択します。
- デジタルカメラのメモリを検索して、開きたいファイルを選択します。

注意：デジタルカメラの画像をスキャンするか開いた後で、「射影歪みの補正」機能を使用して最適化します。以下を参照ください。

デジタルカメラで写真を撮る際のヒント

- 白い物体を撮影してカメラのキャリブレーションを行います (Readiris を使用する前に)。
- 必ず最高の解像度を選択します。
- アップで撮影する場合は、カメラのマクロモードを有効にします。
- カメラの文書モードを起動します (このモードが選択できる場合)。
- デジタルズームではなく、光学ズームのみを使用します。
- 文書の真上でカメラを構えます。文書を斜めに撮影しないようにします。

ヒント：角度が不適切な場合には、「射影歪みの補正」機能を使用して修正できます。 [セクション 7：認識した文書の編集](#) > [ページオプションの変更](#) > [射影歪みの補正](#) を参照してください。

- 安定した画像が取れるようにします。必要な場合は、三脚を使用します。
- 光沢のある用紙を撮影する場合は、フラッシュをオフにします。
- 圧縮したカメラ画像を開かないようにします。
- 環境(日光、照明、ネオン)に合わせて **Readiris** の輝度とコントラストの設定を調整します。「[スキャナ設定の選択](#)」を参照してください。
- Readiris** のカラー モードとしてカラー、またはグレースケールを選択します。これについても、「[スキャナ設定の選択](#)」を参照してください。

バーコードを認識する方法

(この項目は **Readiris Corporate** のみに適用されます)

Readiris Corporate ではバーコードが認識できます。バーコードを利用して、大量文書の分割をすることができます。



注意：Readiris は、最も普及している 2D バーコードに対応しています。Readiris は、レーザープリンタかインクジェットプリンタで印刷したバーコードに対応しています。

Readiris にどのバーコードを認識させるかを定義するには：

- [Readiris] ボタンをクリックし、[詳細設定] をクリックします。
- [バーコード] タブをクリックします。
- Readiris に認識してほしいバーコードのタイプを選択します。



重要：Readiris は自動的にバーコードを認識して文書を分割しますが、バーコードゾーンはバーコードとしては認識されません。ほとんどの場合、それは画像として認識されます。

手動でバーコードを認識する：

- 文書を [スキャン] するか [開き] ます。
- [ゾーン] タブをクリックします。
- [バーコード] アイコンをクリックし、バーコードの周囲にフレームを描きます。
- もしくは、誤って画像として認識されたバーコードゾーンを右クリックし、[ゾーン] > [タイプ] とポイントし、[バーコード] を選択します。
- 続いて、[出力ファイル] グループに移動し、出力設定を構成して、文書を保存または送信します。

特別なバーコードの認識

特別なバーコードを使用する必要がある場合：

- バーコードの周囲にバーコードゾーンを描きます。
- ゾーンの内側を右クリックし、[データとしてコピー] をクリックします。

ゾーンのコンテンツがクリップボードにコピーされます。すると、他のアプリケーションに貼り付けることができます。

文書のバッチを分割する方法

(この項目は **Readiris Corporate** のみに適用されます)

文書フィーダを装備したスキャナなどで大量の文書をスキャンする場合、一つの文書がどこで終わり次の文書が始まるかを示すことができると便利です。このため、Readiris では、文書ごとに別々の出力ファイルを作成することができるようになっています。これにより、一度に 1 つの文書だけをスキャンしなくても済むようになります。

例

30 ページの文書をスキャンする場合を仮定してみましょう。最初の 10 ページが文書 1 に属し、11 ページから 20 ページが文書 2 に属し、21 ページから 30 ページが文書 3 に属しています。入力文書が 3 部から構成されていると指定すると、Readiris は出力ファイルを 3 つ個別に作成します。

用紙文書を選別する方法

Readiris には、用紙文書を分割する方法が 2 つあります。その方法：

- **白紙ページ**

この場合、2 枚のページの間に白紙のページを挿入するだけで、新しい文書に切り替えることを指定できます。

- **バーコードのある表紙**

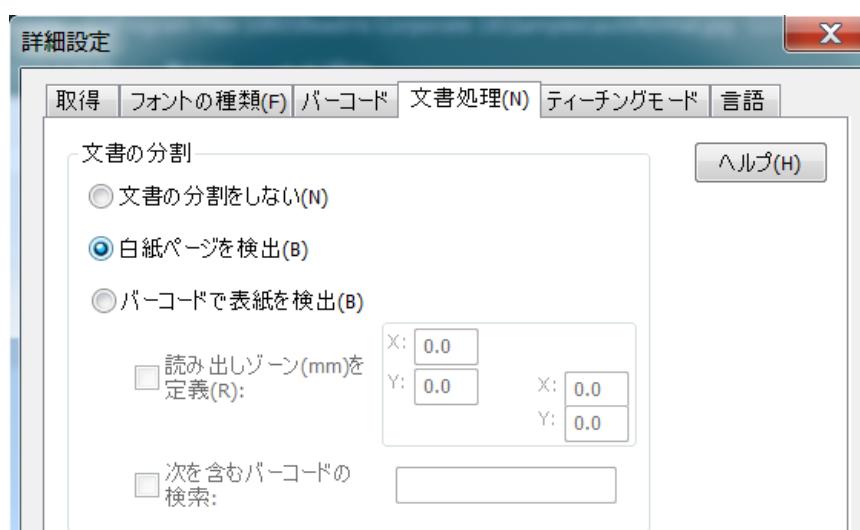
この場合、文書の第 1 ページに、たとえば、バーコードの付いたステッカーを貼り付けることができます。

文書の選別オプションにアクセスする方法：

- [Readiris] ボタンをクリックし、[詳細設定] をクリックします。
- [文書の処理] タブをクリックします。



- 次に、[白紙ページを検出]、または[バーコードで表紙を検出] のどちらの分割方法を使用するかを指示します。



バーコードのある表紙を使用する場合、**読み込みゾーン**で、バーコードがページのどの部分にあるかを正確に表示することができます。読み込みゾーンを定義すると、Readirisは、その特定の部分でバーコードを検索します。

 **ヒント**：読み込みゾーンの寸法を正確に知るには、Readirisの**[座標]**機能を使用します。

- **[ゾーン]** タブをクリックし、**[座標]** を選択します。

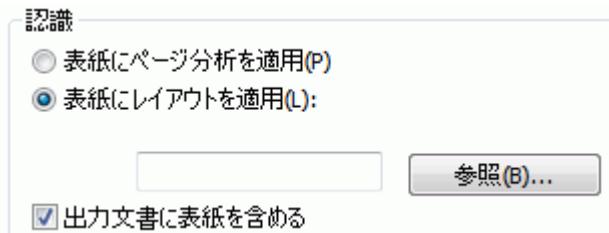


- 画像の上にカーソルを置くと、座標が表示されます。

また、バーコードに含まれている内容を指示することもできます。このオプションを選択すると、Readirisは、指示された内容のみを検索します。それ以外のバーコードは、表紙として認識されません。表紙以外のページにもバーコードがある文書を処理する場合に、この機能を推奨します。

認識オプション

バーコードのある表紙に、バーコード以外の内容も含まれていて、それを出力文書の中に含めたい場合、**[出力文書に表紙を含める]** オプションを選択してください。

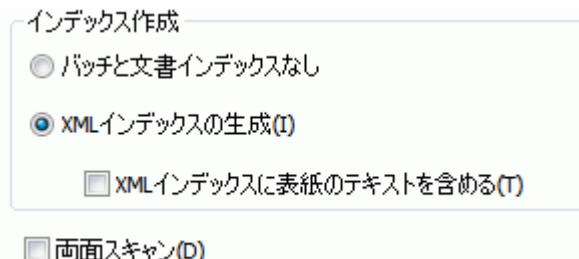


[表紙にページ分析を適用する] オプションを使用すると、通常のページと同じように、表紙も**認識ゾーン**に分割されます。

[表紙にレイアウトを適用する] オプションを使用すると、ゾーニング テンプレートを使用して、表紙を認識ゾーンに分割することができます。ゾーニング テンプレートの使用法に関しては、「[ゾーニング テンプレートの使用](#)」のセクションを参照してください。

インデックス作成オプション

Readirisで、処理をした文書の詳細を含む XML インデックスファイルを作成したい場合、**[XML インデックスの作成]** オプションを使用します。



大量の画像ファイルを選別する方法

(この項目は **Readiris Corporate** のみに適用されます)

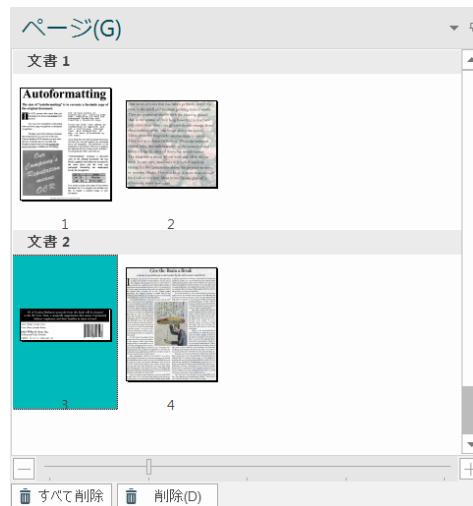
大量の画像ファイルを処理する際に 1 つの出力ファイルへ変換したくない場合、[ここで分割] を使用してファイルを分けることができます。

そのための手順は以下の通りです。

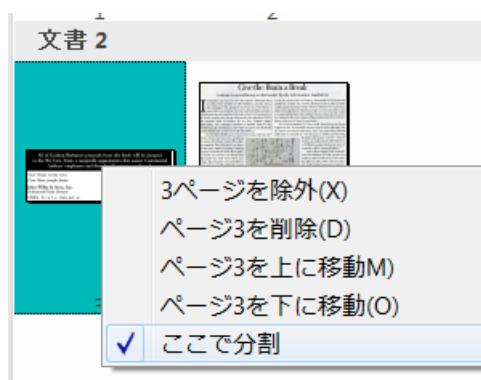
- 処理したい画像をすべてインポートします。
- [ページ] パネルで、どのページで新しい文書に切り替えるかを指定します。
 - ページを選択します。
 - 次にそれを右クリックし、[ここで分割] をクリックします。



- 文書は、2 つの異なる文書に分割されます。



- この操作をキャンセルする場合は、分割ページを右クリックしてから、[ここで分割] をもう一度クリックします。



注意：出力文書に表紙ページを含めたい場合、それに対応する [文書の選別] オプションを選択します。

- [Readiris] ボタンをクリックします。
- 次に、[詳細設定] をクリックし、[文書の処理] タブをクリックします。



低解像度画像の処理の仕方

Readiris で最良の結果を得るには、**300** ないし **400 dpi** の解像度が必要です。低解像度画像を処理しなければならない場合、最良の方法は、適切な解像度で画像を再スキャンすることです。それができない場合、結果を改善するたにいくつかのヒントやこつがあります。

ヒント 1

不明の解像度(デジタルカメラの場合など)の画像や、ファイルヘッダが**間違った解像度**を表示している画像をスキャンする場合は、必ず**[300dpi で処理]**オプションを選択します。

- **[スキャン]** ボタンの下にある下向き矢印をクリックします。
- 次に **[設定]** をクリックします。
- **[300dpi で処理]**オプションを選択します。

このオプションを選択すると、Readiris で、画像は、300 dpi の画像と同様に処理されます。

ヒント 2

デジタルカメラで画像をスキャンする場合は、必ず**[デジタルカメラ]**オプションを選択します。

- **[スキャン]** ボタンの下にある下向き矢印をクリックします。
- 次に **[設定]** をクリックします。
- **[デジタルカメラ]** オプションを選択します。

ヒント 3 (Readiris Corporate のみ)

低品質の文書を処理する場合は、速度ではなく必ず**精度**を重視するようにします。

- **[取得]** グループの拡大矢印をクリックします。
- スライダを**精度**に移動させます。

注記：

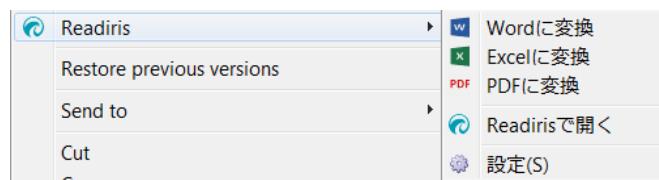
低解像度のファックスを処理する場合、特別な手段を講じる必要はありません。Readiris は典型的なファックス解像度の **100 x 200 dpi** (標準品質)、**200 x 200 dpi** (高品質)、**200 x 400 dpi** (最高品質)を検知し、これらの画像を自動的に前処理して、最適の結果が得られるようにします。

右クリックの変換方法

Windows Explorer で、複数の

- 画像ファイル(.tif、.tiff、.jpg、.jpeg、.bmp、.png、.j2k、.j2c)、
- PDF ファイル(.pdf)、
- Microsoft Office Word ドキュメント(.doc、.docx)、
- Microsoft Office Excel ファイル(.xls、.xlsx)、
- Microsoft Office PowerPoint ファイル(.ppt、.pptx)、
- RTF ファイル

を選択可能で、右クリックして、Word(.docx)、PDF(.pdf)またはExcel(.xlsx)に変換できます。



別の出力ファイルフォーマットを選択する - 設定を変更する

Readiris で直接ファイルを開く場合には、[Open with Readiris]

- オプションをクリックし、
- 別の出力フォーマットを選択したり、
- 選択した出力フォーマットの設定を変更します。

[詳細設定] を開きます。

[設定] オプションを開き、[詳細設定] ウィンドウを開きます。



その他の設定の場合、Readiris は最新の設定を使用します。

出力ファイルに名前を付けます。

選択するファイルが 1 つの場合、

- 新しい文書には、選択したファイルと同じ名前が付きます。
- 選択するファイルが複数の場合、Readiris はアルファベット順に選択したファイルが並ぶ单一ファイルを作成します。

この新規ファイルには、選択したファイルを含むフォルダの名前が付けられます。

同じ名前のファイルが既に存在する場合、[名前をつけて保存] ダイアログウィンドウが開きます。